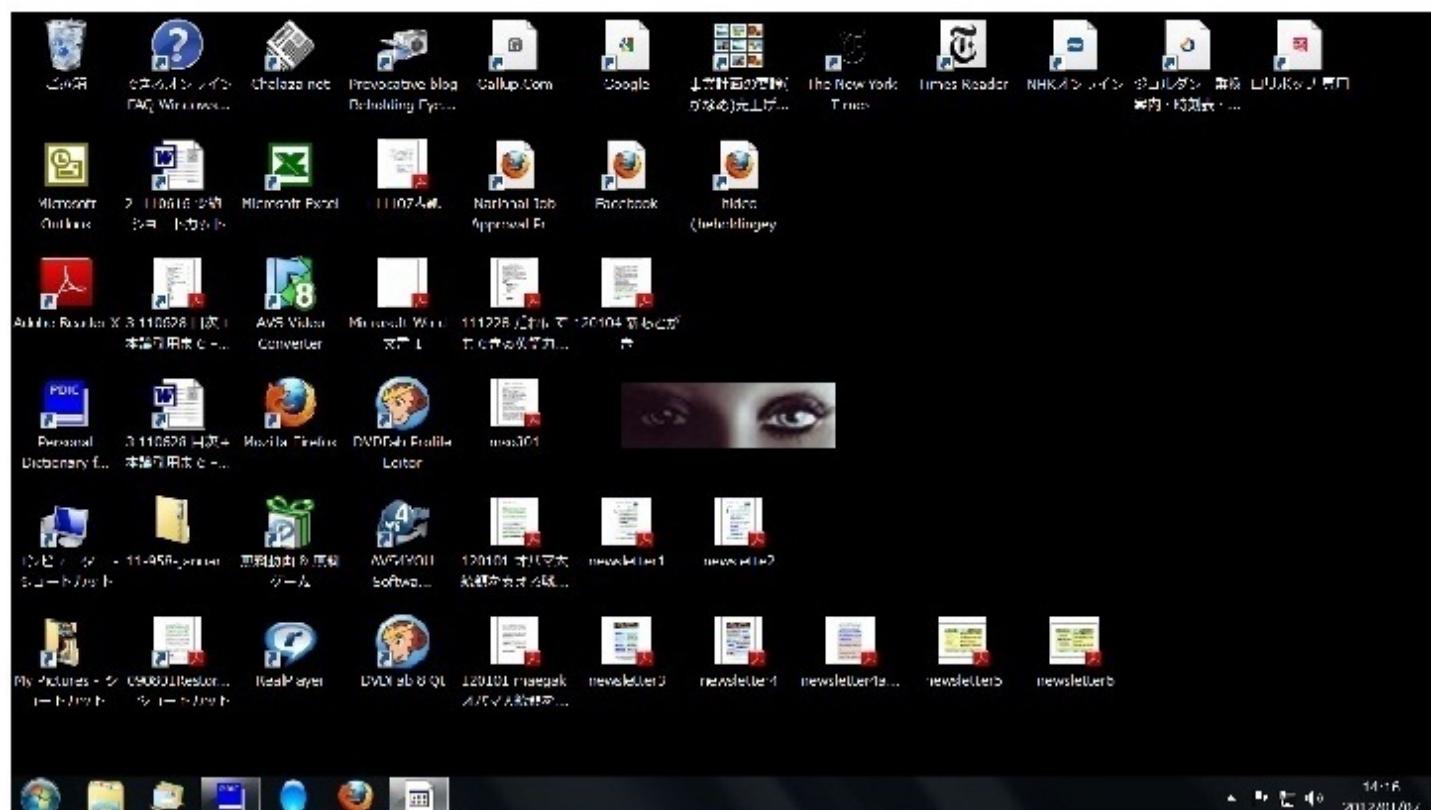


努力するだけの天才が



地球温暖化問題を学んだ記録

(2008年)

2012年 HideoJapan

“もっとも環境技術の進んだ国のもっとも環境的な消費者”



2008. 2. 21. vol 1
(隔週発行)

News Letter

世界のニュースで環境生活を見直す



● ペットボトル水の功罪

発端は、ニューヨーク・タイムズの論説“水道水を称える”（2007年8月1日）にありました。

“・・・水を飲むのはソフト・ドリンクを飲むよりうんと良いことだ。米国のほとんどの自治体の水道水は良質だから、イタリアやフランスあるいはフィジーから一本のボトル水も輸入する必要などない。その上、一日コップ8杯のボトル水を飲めば、年間1400ドル（約15万円）も使うことになる。同じ量の水道水なら49セント（約55円）だ。次に、環境の問題がある。ボトルは他の容器と同様、天然ガスと石油から製造される。ワシントンの*地球政策研究所は、アメリカ人が使う水ボトルを製造するのに毎年およそ150万バレル（229.5万トン）の石油が使われていると予測している。それは一年間の自動車10万台分の燃料に匹敵する・・・”

<http://www.nytimes.com/2007/08/01/opinion/01wed2.html>

*有名なレスター ブラウン氏の率いるシンクタンク

150万バレルは間違ってるっ！実際はその10倍以上というパシフィック・研究所（PI）の調査。地球政策研究所も間違いを認めたという。・・・車100万台分の燃料と250万トンの炭酸ガス排出・・・

それって排出量全体から見て、そんなに大事？ げえ、また環境、環境かい？

全体の中で考えることの大切さの指摘ですね。それと、“日本の製造技術なら、排出量はずっと少ないはず”を考えて！

- ホワイトハウスの幼稚なインチキ
- ハマーvsプリウス 大げんか・・・？
- 最新のアマゾン熱帯雨林減少予測
.....などなど

もくじ(つぎのページ)

消費者ひとりひとりのバランスのとれた知識と日本の省エネ技術が、壊れかけた社会を立て直し、温暖化でもっとも苦しむ世界の弱い人々を救うことになると思えるC&Hの情報サービスです

もくじ

Report

- ペットボトル水の功罪
トップページの続き
追記！
熱い水道水は飲むな(1月29日のニューヨーク・タイムズのニュースから)
- 気候変動における水とライフ (ニュースの後に掲載)
世界の水文科学の権威、ヨーグ インバーガー教授 (Jorg Imberger) のシヨックな米国イリノイ大学での講演要旨。
“・・・我々の遺伝的運命は誕生前にセットされ、母親のストレス・レベルが生まれる子供の幸せ度を決定する・・・”

NEWS

- ホワイトハウスの気候変動データ利用のインチキ
すぐばれる嘘。そんな～。でも裏には……真実が……
- ハマーvs プリウス 米国シンクタンク同士の大げんか
シンクタンク対リーチ会社の泥仕合。社会と車の裏側が見える？
- EU排ガス低下競争でトヨタ断然トップ
……………ベンツがビリですって。
- 気候変動によるアマゾン熱帯雨林の減少予測
アマゾン熱帯雨林は、2030年までに最悪壊滅……(WWF報告より)
- ノルウェー 2050年カーボン・ニュートラル達成宣言
植樹世界一のコスタリカ、各国のはりきりよう……(国連ニュースより)
- 音楽セラピーの効果確認
うつ病治療に音楽セラピーが有効と確認された研究……(NYタイムズ)

“もっとも環境技術の進んだ国のもっとも環境的な消費者”

● ペットボトル水の功罪



2007年、メディアをはじめ、消費者の間で、ボトル水の環境に対する影響の懸念が高まってきた。その懸念のひとつには、生産するために要求されるエネルギー問題がある。

多くの社会的に信用のあるメディアが、米国の年間消費ボトル水のボトルを生産するのに石油換算 150 万バレルのエネルギーが使われていると報じたが、この数字の正しくないことが分かった。

パシフィック・インステテュートの最近の再調査では、2006年にボトルだけの生産に要するエネルギー量は、その 10 倍になり、石油換算 1700 万バレルに相当すると結論した。この当初の不正確な数字をはじき出した地球政策研究所(The Earth Policy Institute)と容器リサイクル研究所(Container Recycling Institute)は、計算をやり直し、この数字を認めた。詳細な分析は以下の通りである。

ファクト・シート(根拠データ)

ボトル水の消費拡大は製品の経済性と環境コストについて疑問を呈する。もっとも懸念される問題は、ボトル生産とボトル水を消費地点に輸送するためのエネルギーと水を含む資源である。

パシフィック・インステテュートは、2006年を以下のごとく推定する。

- 米国で消費されたボトルを生産するために石油換算 1700 万バレル以上が使われた。これに輸送のエネルギーは含まれていない。
- ボトル生産は 250 万トン以上の炭酸ガスを排出した。
- さらに、1リットルのボトル水を作るために 3リットルの水を用いた。

2006年米国のボトル水総消費量

‘飲料マーケティング コーポレーション’の資料によれば、アメリカ人は全体として312億リットルのボトル水を購入した。これには、学校給食で良く使われるアクアポッドの8オンス(約 240cc)のボトル水から、一般家庭の冷蔵庫にある数ガロン(1ガロンはおおよそ 3.8 リットル)のボトル水やオフィスや学校のウォータークーラーまで含んでいる。これらの水のほとんどはポリエチレン・テレフタレート(PET)ボトルーペットボトルで売

られており、およそ 90 万トンのプラスチックが使われている。PETは化石燃料、通常は天然ガスと石油から生産される。

(日本ではどのくらいかを知りたくなるが、水を追求している*橋本淳司さんによれば、2005 年約 183 万キロリットルで米国 312 億リットル(3120 万キロリットル)の約 6%に過ぎない。しかし、ウーロン茶、日本茶などの日本特有の飲料のペットボトルを含めれば相当の量になるだろう。いずれ、調べてみる予定です。)

*橋本淳司:「水問題の重要性に気づいていない日本人」PHP

PET生産に必要なエネルギー

ヨーロッパ・プラスチック工業会によれば、通常1リットルのプラスチック・ボトル、キャップとパッケージングに使うエネルギーは 3.4 メガジュールである。312 億リットルの水をボトル詰めするのに必要なエネルギーは 1060 億メガジュールである。石油1バーレルは、およそ 6000 メガジュールの熱量を持っているので、プラスチック・ボトル生産に必要な石油量を 1700 万バーレル以上に相当すると推定する。

ボトル生産による炭酸ガス排出量

PET1 トンの生産は、約 3 トンの炭酸ガスを生み出す。したがって、水詰めボトルは、2006 年*250 万トン以上の炭酸ガスを作り出したことになる。

(*日本の産業部門の総排出量 476 百万トンのおよそ 0.5%、家庭部門 166 百万トンの約 1.5%に相当する。)

ボトル水を作るための水量

PIIは、プラスチック・ボトルに詰められて販売される水に加えて、生産工程で 2 倍の水が使用されていると推定する。したがって、販売される1リットルは 3 リットルの水に相当する。

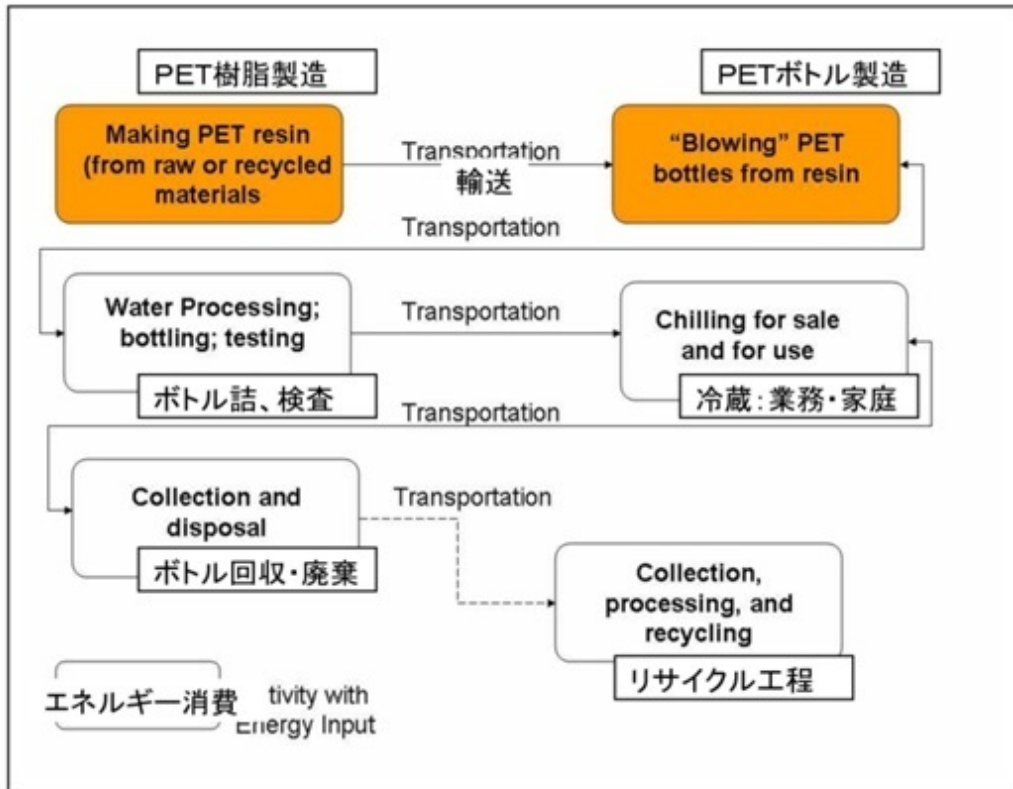
ボトル水の輸送とリサイクル

生産工場でボトルに水を詰め、消費地点までトラック、自動車、船あるいは飛行機で輸送し、食料品店や家庭の冷蔵庫で冷やし、そして回収、リサイクル、または空きボトルを捨てる、これらすべてにさらにエネルギーが必要になる。(次ページの図参照)

(図の四角で囲ったところはすべてエネルギーが使用され、炭酸ガスの排出がある。今回のPIIのデータは、オレンジ色の部分だけを対象としたもの。)

http://www.pacinst.org/topics/water_and_sustainability/bottled_water/index.htm

http://www.pacinst.org/topics/water_and_sustainability/bottled_water/bottled_water_and_energy.html



追記！

- 水道蛇口からの熱い水は飲むな

生活スタイルが違うので、ちょっと理解しにくいニュースが今年 1 月 29 日のニューヨーク・タイムズにありました。

水源には鉛はほとんど存在しないが、水道の配管のさびから水道水に混入することがある。鉛は、脳や神経細胞に害があるので、注意が必要。米国環境庁によれば、築年数の古い家庭の配管には鉛が使われていることが多い、また鉛フリーと呼ばれる新しい配管でも 8%程度の鉛を含んでいる。科学者は、リスクは小さいと強調しているが、水温が高くなれば、鉛が溶け出す割合が増えるので、蛇口からの熱い水は飲まないこと。

具体的な温度が書かれていませんし、蛇口から直接出てくる熱い水は湯沸かし器からでしょうが、その配管は長いものではないし・・・と首をひねりながらですが、発端になった同じ新聞の記事が水道水の質に触れているので、公正を期すために紹介しておきます。

<http://www.nytimes.com/2008/01/29/health/29real.html?pagewanted=all>

● ホワイトハウスの炭酸ガス排出データ利用のインチキ

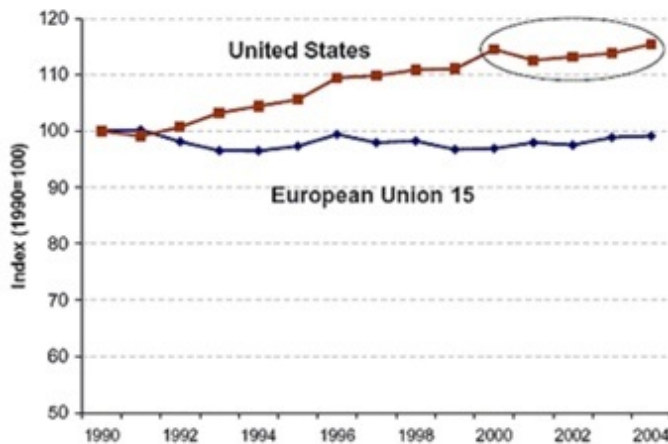
2007年2月7日、ホワイトハウス報道官トニー・スノウは、自慢げに、温室効果ガスの削減では、欧州より米国の方がよくやっている。しかも、こっちではまだやっていないカーボン・キャップ*制度を取り入れているにも関わらず、と。

同じ日、根拠を数字で示せとのメディアの質問に答えることもあってホワイトハウスはウェブ・サイトに“気候変動に関する大統領の考え”を公開。環境会議議長と科学技術政策長官の署名があるものだ。

それには、「2000年以後の米国の炭酸ガス排出は世界のベストである。2000年から2004年にかけて、米国の人口は増加し、経済成長も10%に近い成長であるが、炭酸ガスの排出は僅か1.7%の増加にすぎない。同じ時期のEU(ヨーロッパ共同体)の炭酸ガス排出量は、経済の成長がゆるやかにも関わらず5%の増加である。」と書いてある。

(<http://www.whitehouse.gov/news/releases/2007/02/20070207-5.html>)

誰でも変だな～と思いますね。嘘じゃないのです、言っていることは。...でも秘密があった。それがバレた。



まるで囲ったところだけで比較したのですって。

報告をそのまま引用します。

これを表面どおり受け取れば、報道官の話はその通りである。しかし、事実を言えば、この結論は、統計の参照期間の勝手な取り扱い、統計専門家が言うところの、“さくらんぼ摘み”である。(Cherry Picking と言うのだそうです。おいしいどこ取りってやつ) 1990年から2004年までの15年間全期間の米国の温室効果ガス排出は15%増加している一方、EU15ヶ国(UE-15)は約1%減少している。また、この期間のうち、2000年から2004年までの5年セット以外、どの5年間を取ってもEUの排出増加は米国より緩やかか、あるいは減少している。

このグラフを見れば、どうやってデータを政治的に利用したかが分かる。

2000年から2001年にかけて米国の温室効果ガスの排出はグラフにあるように一時的に減少した。それは、経済が若干低迷したことと、9.11テロ以後、航空交通量と旅行が劇的に減少したためである。したがって、“排出削減でよくやった”というコメントをどこかで認めるとしたら、2000年を基準スタート年にしたことであろう。

このきついジョークで閉める報告は、ペットボトルの報告と同じ米国カリフォルニアに本拠を置く完全中立を謳うシンクタンク、パシフィック研究所(PI)のものです。
http://www.pacinst.org/topics/integrity_of_science/case_studies/selective_use_climate.html

*カーボン・キャップ

報道官のコメントに耳慣れないカーボン・キャップという言葉があります。ご存知のようにキャップは頭に乗つける帽子で、企業などの炭酸ガス排出量の上限が設定される意味です。今話題の炭酸ガス排出量取引と直接関係するものです。これに関して、先月のニューヨーク・タイムズの記事があります。米国が京都議定書になかなか同意しなかった本当の事情が分かる記事ですので、次回に紹介します。

- ハマーvsブリウス 調査会社同士の大げんか

ホワイトハウスのインチキを報告した同じシンクタンクからもうひとつ。日本が誇るトヨタブリウスに絡んだものです。

米国のマーケットリサーチ会社、CNW(<http://www.cnwmr.com/>)が2007年の“ごみ

とごみ:新車のコンセプトから廃車までのエネルギー・コスト”と題する報告書の中で、
ハマーH3SUV(スポーツ用多目的車)の方がハイブリッド・カートヨタプリウスよりも車の
ライフサイクルからみたエネルギー・コストが低いと報告。

これにシンクタンク(PI)が噛み付いた。

まずは、PIの報告をそのまま紹介します。

タイトルが、“ごみとごみ”(というタイトルの)報告書がお粗末な科学でメディアと消費者を惑わす とはじめからけんか腰です。



CNWの報告書は、メディアと大衆の興味を大いに引いたが、よく調べてみると、結論は、分析手法の誤り、到底受け入れられない仮定、データの恣意的な利用、そして専門的とは思えない未熟な検証に基づいていることを指摘しなければならない。

さ一っと目を通しただけでも、偏見と欠陥のあることがすぐ分かる。つまり、ハマーH1は35年間の耐久性と37万9000マイル(約61万キロ)の走行ができると仮定されている一方、プリウスの平均走行距離は10万9000マイル(約17万4000キロ)で耐用年数が12年以下と想定されている。

この、とても納得できない前提が、最終結論をゆがませた。

専門家が一般的に使うデータをベースに簡単に再分析したところ、結果は完全に逆になる。

CNWは、比較手法、比較の前提、およびデータを公表すべきあるし、そうでなければ消費者は、その結論を無視すべきである。

http://www.pacinst.org/topics/integrity_of_science/case_studies/hummer_versus_prius.html

また、この記述の基になっている7ページの報告は以下のURLです。

http://www.pacinst.org/topics/integrity_of_science/case_studies/hummer_vs_prius.pdf

ハイブリッドだから、PIの反論は当然とってしまうのですが、この手ひどい批判が発表されてから3ヵ月後の昨年8月、今度は、CNWがすさまじく攻撃的な反論をしてい

ます。

“机上のデータを基にした分析など、30 数年にわたって現実に車を修理してきたCNW経験からみるとお笑い種にすぎない。PIは現実を知らない、にはじまってPIの組織としての性格まで・・・。”

<http://cnwmr.com/nss-folder/automotiveenergy/Response%20to%20Pacific%20Institute.pdf>

完全なけんかモードですが、それぞれの言い分に車製造時のエネルギー使用や製造背景などについてのデータや記述があります。私たち一般消費者にとっては、分からない情報もありますので、次回改めてそれぞれの言い分を紹介する予定です。(野次馬ではありません??)現時点で、PIの公式の再反論は出ていないようです。

● EU排ガス低下競争でトヨタ断然トップ

これは論争の余地のない日本車関連のうれしいニュースです。

2006 年のEUの自動車メーカーの燃費効率競争で、フランス、イタリア、日本の自動車メーカーがドイツのライバルメーカーとの差を大きく広げたというニュースが“輸送と環境(T&E)”から発表された。

国別に見ると、ドイツグループは新車の炭酸ガス排出量が平均で 0.6%増加した。対照的に、フランスとイタリアのグループは平均で 1.6%の減少。ドイツメーカーは全体として増加しているが、メーカーの間で差が出始めている。BMW AGは、平均 2.5%削減したが、同社の向上は、2大メーカー、ダイムラークライスラー(現在はダイムラーと呼ばれる)、2.8%増、およびフォルクスワーゲンAG、0.9%増によって相殺以上の結果となった。

日本車メーカーは 2006 年大幅な進歩を見せ、平均で 2.8%の削減。EUのデータによれば、トヨタの 2006 年販売車はどの国のメーカーよりも大きい前年対比平均 5%の炭酸ガス排出削減を達成した。

http://www.transportenvironment.org/docs/Publications/2007/2007-11_car_company_co2_press_release.pdf

この調査は、2006 年にヨーロッパで 20 万台以上販売された国をグループとして比較したもので、公的資料に法的アクセス権を持つT&Eが得た公式のEUモニタリング・

データによる。

- **気候変動によるアマゾン熱帯雨林の減少予測**

2007年12月7日、WWF(World Wide Fund for Nature:世界自然保護基金)は、“アマゾンの危険なサイクル:温室の中の乾燥と火事”と題する調査報告書を公開した。

気候変動と森林伐採の危険なサイクルが、2030年までにアマゾン熱帯雨林を消滅させるかあるいは少なくともその60%に大きな被害を及ぼすと報告しています。それによって地域およびグローバルの気候に大きな影響を与えると同時に南アメリカの人々の生活に衝撃的な結果をもたらすことを明らかにしています。

今から2030年までの間に、アマゾンの森林伐採は、555億トンから969億トンの炭酸ガスを放出すると予測しています。969億トンは、世界全体の温室効果ガス排出の2年分以上になるとのことです。加えて、アマゾン熱帯雨林の壊滅は、地球の気候システムの主要安定化装置のひとつを失うことになると懸念しています。

WWF報告書(24ページ)は下記URLでお読みになれます。

http://assets.panda.org/downloads/amazonas_eng_04_12b_web.pdf

こんな報告がある一方、2008年1月3日の読売新聞には、「狙いは資源 熱い北極」という記事がありました。

国連の気候変動に関する政府間パネル(IPCC)の2007年5月の評価報告で、北極圏の平均気温の過去100年の伸びが地球全体の平均の2倍に達したと指摘したことから、「今世紀後半までに、夏の北極海から氷が消滅する」との予測が出始め、ロシア、カナダ、ノルウェー、デンマークを中心に資源獲得競争に火がつくというもの。

たとえば、ノルウェーが、カーボン・ニュートラル国家になると宣言したという次のニュース。もう、何が何だか訳が分からない・・・。

- **ノルウェー 2050年カーボン・ニュートラル達成宣言**

国連環境計画ウェブ・サイト12月17日のニュースの紹介です。

ノルウェー、コスタリカ、およびニュージーランドそれぞれがカーボン・ニュートラル当初計画を大幅に強化したと報じているものです。特に、ノルウェーの宣言は国家として世界初とのこと。

各国が地球温暖化対策で、世界に存在感を示す懸命な様子が見て取れます。また、

コスタリカの人口一人当たりの植樹が世界一などとは知りませんでした。

1. ノルウェー

国として 2050 年までにカーボン・ニュートラルになることを宣言し、直ちに京都議定書の第一期計画を完全に満たす措置を講じた。

強力なエネルギー消費削減計画を進め温室効果ガス削減に努めるのは勿論のこととして、排出ガス取引マーケットをフルに活用すること、また、2012 年までに断固とした国際削減体制を作り上げることが必要と諸外国に提案しています。

そして、この温室効果ガス削減問題は、国家だけでなく、多国籍企業、都市、そして個人が一緒になってカーボン・ニュートラルを目指す方向を探るべきとしています。

さらに、2008 年 2 月後半、モナコで開催される国連環境計画国際環境技術フォーラムでインターネットをベースとするカーボン・ニュートラル・ネットワークが正式に発足するので、それに先立って、いち早く、興味を示す国家、企業、都市の参加を呼びかけています。

2. コスタリカ

コスタリカのカーボン・ニュートラル計画は、“自然との平和”と呼ばれる、オスカー・アリアス大統領のイニシアティブで行われています。計画は、倫理的、人間的、社会的、環境的、経済的アプローチを総合的に尊重して環境保全とサステナブルな成長を図ろうとするものです。

(自然と平和でなく、“自然との平和”にあたらしいコンセプトが読み取れ、注目すべきと思われます。)

主要戦略は、1996 年に決定された化石燃料税の 3.5%が積み立てられる国家森林財政基金をベースに考えられている。その他、水資源、生物多様性、風致戦略と平行して炭酸ガス封じ込めを目的とする森林所有者に費用を支払うなどの環境サービス・プログラムもある。

コスタリカの森林伐採禁止プログラムは、アフリカ最初の女性ノーベル平和賞受賞者ワンガリ・マッタイ氏とモナコのアルバート王子がパトロンとなっている世界農業森林センターとUNEP(国連環境計画)が共同で展開する“10 億本植樹キャンペーン”支援を含んでいる。2007 年にコスタリカは 500 万本を植え、国民一人当たり 1.25 本は一人当たりとして世界一。

3. ニュージーランド

2008 年 6 月の“炭酸ガス排出習慣をぶっ飛ばせ！”をスローガンにする「国連世界環境 Day」の主要ホスト国であるニュージーランドのデイビッド パーカー気候変動担当

大臣は、そのホスト国になることを誇り、「ニュージーランドは世界トップのサステナブル国家になることを目指している」と述べた。

カーボン・ニュートラル計画は 2025 年までに電力の 90%を再生可能エネルギーでまかなうこと、電気自動車とバイオ燃料によって、一人当たりの輸送関連炭酸ガス排出を 2040 年までに半分にするとしている。

<http://www.unep.org/Documents.Multilingual/Default.asp?DocumentID=523&ArticleID=5724&l=en>

● 音楽セラピーの効果確認

2008 年 1 月 24 日のニューヨーク・タイムズに、「音楽で、“うつ”のペールを剥ぐ」という記事があります。

ヘルスケア問題を扱う非営利団体、コックラン共同計画 (Cochrane Collaboration: <http://www.cochrane.org/>)による研究の結果、ミュージック・セラピーがうつ病患者に臨床学的な効果があることが分かった。うつ病の音楽療法に信頼性の高い研究はほとんどないが、今回の研究は、うつ病の薬物療法を受けている患者への音楽セラピー、伝統的なトーク・セラピーと音楽セラピーの比較など、5 つのランダム・テストが行われた。5 つのテストのうち 4 つは、音楽セラピーが音楽セラピーを用いない方法に比べ、うつ症状を軽減する効果が高かったことを確認した。

報告書の主執筆者で、ロンドンの国立健康サービスのアート・セラピスト、アンナ・マラトス (Anna Maratos) は、“今回の研究は、音楽セラピーが心的状態を改善し、カウンセリングからのドロップアウト率を低減する可能性があることを示唆する。”と語り、“今回は規模が小さい研究からの確認なので、今後はもっと規模の大きな研究を行い、例えば、どんな形のやり方がもっとも効果的かもっと研究する必要がある。”としている。

マラトス女史は、これまでのカウンセリングのやり方を受け入れない傾向のある若い年齢層に対して、音楽セラピーは、特に効果的かもしれない、また、年配の患者の中には、感情をそのまま話すことを好まない人もおり、“歌を通して自分自身を表現することには抵抗が少ないかもしれない”とも言う。

“他のセラピーの方法が受け入れられない、あるいは耐えられないというような場合、音楽セラピーはしばしば使われているので、音楽セラピーに効果があるということには相応の自信を持って良いのではないかと思う”と述べている。

音楽セラピーには、主に二つの形がある。多くは、セラピストが患者と一緒に音楽を聴き、それによって呼び起こされる感情や記憶について話し合うというもの。他に、セラピストがすぐれたミュージシャンの場合、患者と一緒に音楽を即興的に作るというものだ。楽器演奏ができない患者の場合、患者は単純なパーカッション(打楽器)を叩いて、セラピストがそれに合わせて演奏するというものである。

他の研究によれば、自閉症、アルツハイマー、学習障害、労働時の発作や痛み軽減、および出産などの治療や処置の中で、音楽セラピーが有効という報告もある。質の高い研究が少ないことが問題、とマラトス女史は指摘する。“十分な研究費が与えられる環境がないので、質の高い、大規模な試験をすることが難しい。”と言う。

(注)

コックラン共同体は、EU(ヨーロッパ共同体)をベースとする非営利の団体で、ボランティアによるヘルスケア診療行為のデータベース(コックラン・ライブラリー)を構築して、関係する政策に反映するためにグローバル・ネットワークで活動をしています。助成金と寄付で活動し、医療に利害関係のある組織などからの寄付を受け付けない厳格な運営方針を持っています。

<http://www.cochrane.org/>

このニューヨーク・タイムズの記事の元になっている報告(要約のみですが)は、下記のURLでお読みいただけます。

<http://www.cochrane.org/reviews/en/ab004517.html>

[トップにもどる](#)

[もくじにもどる](#)

- 気候変動における水
 - 気候変動におけるライフ
- ヨーグ インバーガー教授 (Jorg Imberger)



ウェスタン・オーストラリア大学教授：
専門領域は、環境層状水流ダイナミクスに関する環境流体力学で、湖沼研究陸水学の世界のリーダー。
全大陸の湖沼における基礎および応用研究を行い、代表的な科学誌に150を超える論文を発表。数々の学会賞を受賞し、1997年のストックホルムウォーター賞も受賞している。東京大学と共同で東京湾の調査も行っている。

2007年10月29日と30日に米国イリノイ大学で行われた講演要旨
(<http://cwaces.geog.uiuc.edu/news/OctoberTalks.html>)

- 気候変動における水

今日は、人間の行動が将来の水資源のサステナビリティにどのようなインパクトを与えるかを理解するための枠組みとは何かお話しようと思う。最初に、水がどのように移動し、生活のためのさまざまな物質成分と混合されどのようにして廃棄物を取り除くかについて述べる。**水が生活を豊かにするための媒体**となっていることである。

第二に、もっとも重要な水循環(水、炭素、栄養物、および熱)のいくつかについて検証し、10万年から数秒というタイムスケールで水と自然の美しい調和を保ってきたか示すつもりである。つまり、**自然を通した水循環が自然を持続可能とし、逆に、自然のさまざまな有機体が有害成分を含む水をきれいにする**ということである。

三つめに、人類が放出した炭酸ガスが莫大な水蒸気増加をもたらしたことを複雑な背景を単純化して結論だけを示し、それに伴う大気の温暖化が現在見られる現象と釣り合いが取れている、つまり、**気候変動の原因もまた人為的なものである**ということを示す。

四つ目は、最近増加している激しいストーム、ハリケーン、熱帯サイクロン、台風の発生の役割を検証する。その中で、これらのストームが大量の海洋性温室効果ガスを

大気に放出し、それが自然によって新しいポジティブなフィードバック・メカニズムが確立されたことの示唆であることを示す。したがって、気候変動は人類のコントロールの及ぶところではない。問題は、そのメカニズムが収束する状態がどのようなものになるかである。

最後に、気候変動を和らげようとする試みから、水産業と農業ばかりでなく我々の生活一般の中で、すでに起き始めている大きな変化に対する十分な備えをする必要性を訴える。

● 気候変動におけるライフ

数千年前、氷河期と氷河期間の地球上の人類の生活は 10 万年サイクルで自然と調和していた。人間の心と肉体が進化し、基本的に我々の遺伝的デザインが生まれたのはこの時期のことである。霊長類からの人類の進化の始まりは、およそ 15 万年前で、前の温暖化時期である。残った人類のDNAはこの間、賢く調整された。その後、最近の 1 万 5000 年の間、基本的に最後の氷河期以後、人類は、崇拝するものを作り上げてきた、家族、神のコンセプト、多様な文化、統治形態や尊敬と年齢の階層概念などである。

第二次世界大戦後の 50 年間、我々は、それらの崇拝するものから自分自身を解放することだけに専念し、その過程で自然を目茶目茶にし、我々が基準とすべきもののほとんどを排除してきた。もっと重要なことは、その結果がただならぬものになると思われる新しいフィードバック・メカニズムが作られたことである。

1)ハリケーンの襲来は気候変動のポジティブなフィードバック・メカニズムに入った現われで、気候変動はもはや避けられない。それがもたらす最終状態がどういうものか分からないだけである。

2)最近の研究によれば、我々の**遺伝的運命は誕生前にセットされ、母親のストレス・レベル**が生まれる子供の幸せ度を決定するという。

つまり、成人の病的行動の頻度が高くなれば母親のストレスは大きくなり、結果として社会は成熟した決定をできなくなる。社会の反応が貧しければ、ストレスがより高まり、異常行動がより多くなり、社会が負のスパイラルに入ってストレスは増す、あるいは胎児の死亡率も増加する。

3) 経済成長は情報化時代が油を注ぎ、生産性が向上するので、経済成長のポジティブなフィード・バックに入っている。その結果は、ほとんどの国のGDPは指数関数的に成長していることから分かる。

これらの三つのフィード・バックに見られる警告は、**気候、我々の心理状態、そして経済のすべてが、人間のすること無関係に動く**ということになる。しかも、まったく**未知の状態**に向かってである。今後 50 年間のライフは見ものである！

長年、水という地球の根源に携わってきた自然科学者が、この 50 年の短い間に破壊されてきた自然に対する**想いとやるせなさ**が伝わってくる講演要旨と思います。

“最後の氷河期以来、人類は、崇拝するものを作り上げてきた、家族、神のコンセプト、多様な文化、統治形態や尊敬と年齢の階層概念などである。第二次世界大戦後の 50 年間、我々は、それらの崇拝するものから自分自身を解放することだけに専念し、その過程で自然を目茶目茶にし、我々が基準とすべきもののほとんどを排除してきた。”

これは、私たちひとりひとりに重くのしかかる言葉です。

しかし、逆に、人類の歴史は気候変動によって大きく変わってきたのですから、私たちが今直面している温暖化も、これまでの価値観ややり方に捉われず、英知を結集して大胆に対処していくことで展望も開かれるのではないかと考えます。

また、ストレス社会の問題ですが、若いお母さん、あるいはこれからお母さんになる人たちをどうにかして守らなければなりません。

私たちは、このニュースレター活動を手始めに、次の時代の個性的で心豊かなライフスタイル、そして、それが低ストレス社会の形成につながるような、そんな活動に拡げていきたいと思います。

第一回配信おわり

ありがとうございました。

[トップにもどる](#)

[もくじにもどる](#)

“外に立って外を見る、外に立って内を見る”



2008. 3. 7. vol 2

(隔週発行)

News Letter

世界のニュースで環境生活を見直す



● 地球温暖化、千載一遇のチャンス？

いただいたコメントやご助言を反映させていただきました。また、真の狙いとは何か？というご質問に答えるため編集も今回にかぎり若干変更し、スライドも添付送付しました。尚、ここからのハイパーリンクは枠内を一度クリックしてお使いください。pdfはできません。

地球温暖化で、経済は？ビジネスは？

- ゴア氏のノーベル賞は温暖化対策でなく温暖主義ビジネス
- 気候変動の世界経済に対するインパクト
- EU温暖化対策で世界をリード：先導者の経済メリットを明言

米国の反撃？

- バイオ燃料は温室効果ガス排出削減に逆効果：最新の研究報告
- ビル・ゲイツ 95 億円をバイオエタノールに投資

もうひとつの目的のために

- 米国の教育戦略？
- 北極氷原の大幅な減少(タラ号 2 年間の調査から帰還)

やわらかい(?)ニュース

- エビを食べるのはサステナブル(環境的)か？
- ボトル水、今度はイギリスで大騒ぎ
- “タラ号”情報を基にした“おまけ”実験

もくじ(つぎのページ)

消費者ひとりひとりのバランスのとれた知識と日本の省エネ技術が、壊れかけた社会を立て直し、温暖化でもっとも苦しむ世界の弱い人々を救うことになると思えるC&Hの情報サービスです

- **ゴア氏のノーベル賞は温暖化対策でなく温暖主義ビジネス**

WSジャーナルの温暖化は人為的でなく、自然現象とする論説陣がゴア氏をバイオ燃料で利益を得ようとするロビーストと非難。マードック氏のジャーナル買収に絡んで温暖化対策推進プロガーが、ジャーナルを批判。米国のガソリンが半分バイオ燃料に変われば年間 43 兆円のビジネス。
- **気候変動の世界経済に対するインパクト**

元世界銀行チーフ・アナリストによる温暖化がもたらす経済への影響と対策ビジネスの規模。世界のGDPを7%成長させると言う。
- **EU温暖化対策で世界をリード:先導者の経済メリットを明言**

東京でのG7財務会議から帰国後のEU各国に向けたメッセージ。温暖化防止で世界をリードすることが経済に勝つと明言。
これは、ぜひお読みいただきたいと思います。
- **バイオ燃料は温室効果ガス排出削減に逆効果:最新の研究報告**
- **ビル・ゲイツ 95 億円をバイオエタノールに投資**

米国が、セルロース分解技術のアプローチによってバイオ燃料で主導権を握ろうとする意識が伝わる記事。研究者レベルの競争も激しい。
- **米国の教育戦略?**

カタールにできたドーハのアイビーリーグ。(大学名、プログラム要旨のみ)
- **北極氷原の大幅な減少(タラ号 2 年間の調査から帰還)**

15 年後までには、北極の夏の氷が消滅するとの報告。507 日に及ぶ帆船“タラ号”の調査結果。
- **エビを食べるのはサステナブル(環境的)か?**

熱帯雨林を潰す養殖エビはサステナビリティでないとする英国EJFの見解。
- **ボトル水、今度はイギリスで大騒ぎ**

英国環境大臣がボトル水を批判。水道水を推奨。業界はかんかんに怒る。
- **“タラ号”情報を基にした“おまけ”実験**

動力をもたない帆船。2 年間にわたる氷原に閉じ込められたエコ生活。エネルギー、照明、廃棄物処理、水をどうしたのか?
“おまけ”実験用ですので英文のままです。

● **ゴア氏のノーベル賞は温暖化対策でなく温暖主義ビジネス**

2007年12月5日付けウォールストリート・ジャーナルの論説が、今になってNYタイムズの読者間で盛り上がっています。まずは、その論説の概要を紹介します。

ゴア氏ノーベル賞の科学

**誰もが地球温暖主義を信じるからという理由で、
誰もが地球温暖主義を信じるとしたら？**

- 今回の受賞は、ノーベル賞ではなく、“アル・ゴアの心の平和賞”と呼んでも良いかもしれない。なぜなら、彼の生涯の野心であった大統領になる夢を捨てる代わりに地球救世主の称号を得たのだから。
- しかし、この賞は科学のためではない。人為的な地球温暖化を危機として信じさせたことが賞を得た理由なのだ。
- ある主張をメディアが繰り返し流せば、情報に情報が積み重なり、集団のコンセンサスが生まれる。そうなれば、それと反対の意見は抵抗できなくなる。
- 科学者がなぜこのコンセンサス形成に加担したのか不思議だ。そうすべきではないが、科学者だって人間だ。(人為的とする)仮説の検証に莫大な研究費がつけば、その仮説が正しいと信じる証拠を探そうとする。
- 先月、ゴア氏が参画した代替エネルギー投資会社、クライナー・パーキンス (Kleiner Perkins) と仕事をするベンチャーキャピタリスト、ビノー・コスラ (Vinod Khosla) * は、最近の上院の公聴会でこう述べている。“気候変動法案を支持するのに気候変動を信じる必要などない。
- ゴア氏やコスラ氏など法案通過をはたらき掛けるグループが成功して、米国で消費されるガソリンの半分以上が、カーボン・ニュートラルな代替エネルギーで置き換わるとなれば、驚くなかれ、年間4000億ドル(約45兆円)のビジネス・チャンスになる。しかし、これが、世界の炭酸ガス排出量に与えるインパクトは、たった4%、中国の今後3-4年間の予測増加量よりも小さい。
- 大衆のコンセンサスは強いが、脆いものでもある。新しい情報が出れば簡単にひっくり返る。もし、今後2-3年寒冷の年が続けば、今の温暖化を利用した政治は、確実に終焉する。
- ゴア氏は何か別の仕事を探した方が良い。

<http://www.opinionjournal.com/columnists/hjenkins/?id=110010947>

* サンマイクロシステムズの創業者でシリコンバレーのゲルと呼ばれる。

地球温暖化を認めない姿勢が強い論説委員を持つウォールストリート・ジャーナルが、昨年 12 月メディア王マードック氏*によって買収されました。そのタイミングを狙って、温暖化対策を推進するブロガーが、マードック氏あてに“論説陣をどうにかせよ”という公開レターを送りました。(* マードック氏: マイクロ・ソフトのヤフー買収にホワイト・ナイトとして名前が挙がっているニュース社: ニュース・コープのオーナー)

ブロガー、デイビッド・サスン氏の昨年 12 月 13 日付けの手紙の要約です。

マードック様、ウォールストリート・ジャーナルをカーボン・ニュートラルにしてください

おめでとうございます。本日、株主総会はあなたを世界の一流紙のひとつであるウォールストリート・ジャーナルの名誉ある新オーナーに選出します。あなたのメディア王国、ニュース・コープ (NewsCorp) に一員になるわけですが、ニュース・コープを 2010 年までにカーボン・ニュートラルにすると宣言したあなたの決意をウォールストリート・ジャーナルも当然尊重すると思います。この手紙の目的は、あなたにウォールストリート・ジャーナルを動かしていただき、精神でなく、事実としてあなたの決意を尊重することを期待することです。

論説陣の“気候変動対策を後退させるような恥ずべき反対の姿勢”を変えることに較べれば、ウォールストリート・ジャーナルが炭酸ガス排出をオフセット (相殺) することなど些細なことに過ぎません。

<http://solveclimate.com/blog/20071213/mr-murdoch-please-make-wall-street-journal-carbon-neutral>

NYタイムズのドット・アースというサイトが、2008 年 1 月 30 日にこの手紙を紹介し、マードック氏がこの手紙にどう回答するか興味深いと報じたものです。

<http://dotearth.blogs.nytimes.com/2007/12/13/pressing-murdoch-on-the-journals-climate-views/>

この記事に 43 のコメントが寄せられています。そのうち面白いものを、3 つ紹介しておきます。尚、地球温暖化は global warming ですが、ここで温暖主義と訳している単語は、global warmism で辞書には出ていません。温暖主義者は global warmist と共に最近盛んに使われる新語のようです。

#2

サスンさん、反対意見を黙らせるのは米国を偉大な国でなくする。温暖主義者が批判に対処できないなら、それは表現が完璧でないからだろう。私は年寄りなので、70 年代の“地球寒冷化”の大騒ぎを憶えている。だから、どんな理論だって問題にならないものはないのではないか。(デービッド)

#21

NASAの衛星データを使った地球温暖化の物理科学者として仕事をしてきた。私の仕事に“温暖主義者”というレッテルを貼るのは過去 20 年の努力を軽んじるものだし、無知な見方だ。科学は事実の研究であって、意見などではない。それが嫌だという人もいるが、論理が常に勝つのだ。ここでの議論は、ビルから飛び降りたら怪我するだろうと思うことを、“重力主義者”と呼ぶのと同じようなものだ。(スペース科学者)

#22

何億年も生きるとして、今度地球寒冷化が始まったらおぼかに見える人が沢山いるだろうな。(アーサー・ヒル)

もくじにもどる

● 気候変動の世界経済に対するインパクト

- 温暖化対策を何もしなければ、世界のGDPが 20%低下する。
- 低炭素社会にシフトする過程で、年間約 275 兆円の利益が生じる。
(世界のGDPは、3700 兆円程度と推定するが、これは 7%に匹敵する。日本のGDPは約 550 兆円レベル)
- 低炭素技術のマーケットは、年間 55 兆円以上になる。

From Stern Review: the Economics of climate change(気候変動と経済)

ニコラス・スターン(Nicholas Stern): イギリス財務官、元世界銀行チーフエコノミスト
2006.10 月 30 日

● EU温暖化対策で世界をリード: パロツソ議長先導者の経済メリットを明言

東京でのG7蔵相会議の後の 2008 年 2 月 11 日、ブラッセルでのマニユエル・パロツソEU議長の声明です。

われわれは、グローバル時代をユーロッパ人すべてにとってチャンス時代にしなければならない。リスボン戦略は、われわれの市民ひとりひとりに、そして全員に力を与える戦略にならなければならない。質の良い教育、より良い就業機会、消費者にとって機能し、購買力を最大にするマーケットである。

この観点から、われわれの(EU)一体市場を見直す。つまり、消費者が一体市場のメリット、そしてグローバリゼーションのメリットを最大に得ることを確実なものとする。それを最重点とする。これがリスボン戦略の核である。

3 月のヨーロッパ会議でEUのリーダーに対し、中途退学者の減少と基本である読解力の改善に断固たる行動をとることを提案する。(次ページに続く)

これらはすべて、ヨーロッパのビジネスにとってメリットである。高度に訓練され、適応力のある労働力が必要だからだ。すぐれたビジネスは国境のないマーケットを歓迎する、消費者はしっかりと情報の裏づけがある選択をできるからだ。

気候変動に取り組むわれわれの提案、石油依存からの脱却と改善エネルギーの安全性もまた、リスボン戦略の柱である。気候変動は経済の持続性と環境を脅かす。その取り組みで世界をリードすることは、最初に動いた者(先導者)の有利性を作り上げ、ビジネスの新しいチャンスを生むことを意味する。

エネルギーの域内マーケット(自由売買)の提案は重要である。エネルギーは世帯の家計費とビジネス・コストの大きな部分を占める。供給の安全保障は、子どもたちを暖かく守り、ビジネスを機能させる。競争力のある市場、持続可能性(サステナビリティ)と供給安全保障はヨーロッパが必要とするものだ。ヨーロッパの市民と消費者が繁栄すれば、ヨーロッパのビジネスは繁栄する。ビジネスが繁栄すれば消費者も繁栄できる。

これらの相互依存性、それがリスボン戦略の核にある。EU加盟国の相互依存性も同様である。一国が停滞すれば、他国を妨げる。

これが、ヨーロッパの端から端まで、政治情勢の違いを超えてこれほど強い前例のないリスボン戦略:“成長と就業”の重要性と政策要素に関する加盟国間のコンセンサスが得られた理由である。われわれは、リスボン戦略の次のステップをこれまで以上の活力で実施しなければならない。われわれの“成長と就業”戦略はけっして官僚的な実行になってはいけない。市民にとって現実的で実体のある利益と機会を与えるものでなければならない。そして、このメッセージを広く伝えなければならない。

http://ec.europa.eu/commission_barroso/president/pdf/statement_20080212_en.pdf

● バイオ燃料は温室効果ガス排出削減に逆効果:最新の研究報告

著名な科学誌“サイエンス”から昨日オンラインで公開した二つの研究報告が、バイオ燃料の環境面での信用性に重大な疑問を呈した。報告は、現在使用されているバイオ燃料にその生産に係る環境コストを加算すれば、すべて、あるいはほとんどが温室効果ガスのネット排出量が増加すると結論している。(次ページへ)

ヘラルド・トリビューン:2008年2月8日

<http://blogs.iht.com/tribtalk/business/green/>

特に、バイオ燃料用作物栽培は、どんな場合でも、直接、間接的に熱帯雨林からピート、サバンナという自然の生息地の破壊をもたらす、ことを警告している。これらの自然の生息地は重要な地球の炭素吸収源である。それらが破壊され耕されるとき、膨大な量の炭酸ガスが大気中に放出され、何十年にもわたって存在し続ける。このような土地利用変化を考慮すれば、“現在使っている、あるいは今後使用しようとしているバイオ燃料のほとんどは、実質的に温室効果ガス排出を増加することになるだろう、”とティモシー・サーチンガー(Timothy Searchinger)、報告書の方の主著者は語った。

昨年、オランダ政府は、東南アジアのパーム・オイル(“きれいな”電気を発電するとして使用されていた環境的燃料)の輸入助成金を中止したが、それは水を抜かれたピート畑から新しく作られた農園で収穫されたパーム・オイルであったことを知ったからであった。

新しく提案されているEUのバイオ燃料通達は、例えば、熱帯雨林を伐採して作られた畑で栽培されるような、つまり、サステナブルな生産ではないバイオ燃料の輸入を禁止することになっている。

しかし、今回の“サイエンス”からの報告書は、そのような予防措置でも、地球全体に及ぼす影響を考慮すれば、温室効果ガスの一面しか捉えていないので不十分ということを示している。ヨーロッパの購買力は、すでに野菜オイル(燃料あるいは食用として使われる)の価格を引き上げている。収益に目がくらんだ農家は、それまで自然のままの土地の多くを作物栽培に変更し始めている。

急成長産業で大きな補助金を受けているバイオ燃料工業会は、すぐにこの研究を非難した。彼等の主張は、バイオ燃料は化石燃料よりもはるかにクリーンであるというものだ。(彼等の計算には土地利用変化を含んでいないが)

問題は、環境的な燃料とは何か、環境的でないのは何かを早急に解明する必要があるということだろう。

地球を救うからとバイオ燃料を支持し、単純に、より多くの炭酸ガスを大気に放出するとされて沢山のものが排斥されたのに、たった2-3年で反対の排出傾向が出てくる。それは実におかしい。

この日の内に、米国でもっとも著名な10人の環境科学者が、米国のバイオ燃料政策を考え直すことを要請する手紙をブッシュ大統領に送った。

2008年2月8日

ヘラルド・トリビューン

By リビー・ローゼンタール(Libby Rosenthal)

● **ビル・ゲイツ 90 億円をバイオエタノールに投資**

もくじにもどる

これは、2008 年 2 月 4 日のセルロース * 由来エタノール燃料の技術と開発に特化したテキサスのガルフ・エタノール社のプレス・リリースと広告がソースです。

広告

世界の大金持ちとビジネス成功者からの投資を見てご覧なさい

ビル・ゲイツ:

米国で最大の金持ち、パシフィック・エタノールに 8400 万ドル(約 95 億円)投資。

リチャード・ブランソン卿:

30 億ドル(約 3500 億円)相当の企業価値のヴァージン・グループの会長は、将来性に富む代替燃料に 3 億ドルから 4 億ドル(約 350 億円から 450 億円)を投資する計画を持ち、“これは作る側にも使う側にも益する燃料”と語る。

ピノー・コースラ:

サンマイクロシステムズの共同創業者は、エタノール燃料の熱心な推進者で、エタノール開発未上場企業に個人として数億円の投資をしている。

広告 : http://www.gulfethanolcorp.com/gulf_ethanol_investors.htm

プレス・リリース

ガルフ・エタノール、セルロース由来が主流と・・・

- ブラジルの砂糖とバイオ燃料装置の製造会社、デディニ(Dedini SA)が、セルロース誘導エタノールを植物廃棄物から工業規模生産の方法を開発したと発表した。バイオ燃料の競争力とエネルギー・バランスを高めることから一大改革を起こすものと評価している。コストはガロン当たり 1.02 米ドルになると期待される。
- 昨年、ホンダも植物の葉、茎、および他の植物廃棄物からエタノールに変換する画期的な方法を発見したと発表した。この新しいプロセスは、日本の研究室で開発された分解能力の高い微生物を使って変換効率を大幅に改善する。
- セルロース技術の研究者は、リグニン繊維の分解を促進する酵素あるいは天然たんぱくも将来、セルロース由来エタノール生産に使われると考えている。

プレス・リリース : <http://biz.yahoo.com/bw/080204/20080204005844.html?.v=1>

* セルロース由来:エタノールは糖類から生産されるが、繊維部分(セルロース)や木質部(リグニン)から生産されれば、廃棄される葉や茎が使えることになる。

● **米国の教育戦略？**

もくじにもどる

2008年2月11日のNYタイムズのニュースです。

カタール：ドーハのアイビーリーグ

- カタールの郊外ドーハに教育シティに現在米国の大学が 5 つ進出している。米国外では最大の教育拠点。
 - グローバル化のためのエリート教育を必要とする豊富なオイルマネーを持つカタール政府のニーズと海外進出意欲の大きな米国大学、さらに米国政府のカタールとの関係強化のニーズに基づくもの。
 - 現在進出している大学とそれぞれのプログラムは；
 - コーネル大学(Cornell)：医学；
 - カーネギーメロン(Carnegie Mellon)：コンピュータ&ビジネス
 - バージニア英連邦大学(Virginia Commonwealth University)：アート・デザイン
 - テキサスA&M(Texas A&M)：工学(石油工学を含む)
 - ジョージタウン大学(Georgetown)：海外サービス
- 近々、進出；
- ノースウェスタン大学(North western)：ジャーナリズム
- カタールにとって教育シティは高価な実験で、コーネル大学一校に対して、11年間で約 830 億円の基金を準備したと報道されている。
 - コーネル大学の 6 年間の教育を終える最初の学生が卒業を迎えるにあたり、米国本校の卒業生と同じようにインターンとして受け入れられるかどうか未知の状況という。

<http://www.nytimes.com/2008/02/11/education/11global.html?pagewanted=all>

もくじにもどる

● **北極の氷：夏季消滅は 15 年以内**

—時速 10km 帆船タラ号北極氷原漂流研究から 2 年ぶりの帰還

“歴史に永遠に残る航海を成し遂げたタラ号の偉業に深い敬意を表します。人類の勇気と意志が、科学を前進させ、私たちの知恵を豊かにすることを実証してくださったことに感謝します。”

(モナコのアルバート王子から 2 月 4 日、タラ号に送られたメッセージ)

風と潮流に漂流し、平均時速約 10km、2 年間でおよそ 5200kmの漂流の航海を終え、母港フランスのロリアン港に帰港するのが、明後日 2 月 23 日です。

タラ号の北極漂流探検は、EUの“長期環境研究のために行う北極のモデル化と監視能力開発”プロジェクト、ダモクレス:DAMOCLES (Developing Arctic Modeling and Observing Capabilities for Long-term Environmental Studies)の一環で、タラ号派遣プロジェクトは国連(UNEP)の支援を受けたものです。2 年間の研究結果が報告されています。

<http://www.damocles-eu.org/>



北極の将来予測

1. 今後 10 年から 15 年以内に北極の流氷は夏季には消滅消失するだろう。これは、当初の予想モデルより早い。今回の観察で、夏の間 50 万平方キロが消失し、その消失ペースと夏の終わりの実際の面積が 400 万から 500 万平方キロメートルなので、その予測が成り立つ。
2. 夏季の氷消滅は、これまで氷によって大気中に反射されていた太陽エネルギーの 80%が海に吸収される。これは、海面と大気を暖め、グリーンランドの陸地の氷の融解を加速し、今世紀末までに海面を 1 メートル押し上げると予想される。
3. グリーンランドの両側の海に向かう淡水の流れは北大西洋の温かい塩水の北極海への回流速度を遅くする。それが西ヨーロッパの寒冷化の引き金となり、北極および周辺地域の気候の大激変を起こすと考えられる。
4. これに伴い地政学的、社会経済問題および北極海の環境条件の新しい展開に多くの懸念が生じる。例えば、海運航路の問題、鉱物資源開発(石油とガス)、生物資源(漁業)および野生動物生息地の急変や生態系の変化等々である。

http://www.taraexpeditions.org/en/exhibitions-lectures/exhibitions-and-conferences.php?id_page=225

● エビを食べるのはサステナブル(環境的)か？

もくじにもどる

2008年1月26日付け、イギリスのザ タイムズの“環境心配性”という欄にある読者からの質問と回答です。

Q:

クルマエビはサステナブルだと夫は言うのですが、本当ですか？

A:

そうだといいのですけれど。クルマエビ(またはシュリンプ)が健全な世界の人々のシンボルで、その漁獲方法がサステナブルならお祝いしたい理由にはなりませんね、多分シーフード・カレーで……。

現実には、工業的なエビの養殖の破壊的な本質を見れば、どうでしょう。

環境正義基金(Environmental Justice Foundation:<http://www.ejfoundation.org/>)によれば、昔はぜいたくだったものを安く食べたいという欲求のために、膨大なマングローブ林がブラジルやバングラデッシュで切り倒され、エビ養殖場が作られているということのようです。

養殖でないエビを選ぶのも良くないそうです。大部分は、トロール船で獲るのですが、その際、毎年およそ15万頭の亀が殺されるということです。EJFは、“エビ1kgを獲るのに、他の40kgもの海生動物が殺される。”と言っています。

では、エビのカクテルに何を使えば良いのでしょうか？ノルウェー、アイスランド、デンマークやカナダ周辺の大西洋のコールドウォーターエビ(えびの種類)ということになりますね。ちょっと探さなければなりません……。魚屋さんに聞か、スーパーマーケットのラベルを良く見て。

エビの場合、倫理認定法がないので、サステナブルにとられたかどうか見分けるのが難しいのです。あなたが海鮮物を選ぶのにMSCのフラッグ(旗)を信頼するのはいいとしても、MSCはエビについてはどの産地も認定していません。

もっと調べたければEJFのサイトからダウンロードできますが、それによると倫理的な小さい生産者が増えているので、それをきちんと見極めることが大切だと言います。去年のEJFの推薦店のトップになったスーパーのウェイトローズ(Waitrose)やマークス&スペンサー(Marks & Spencer)で見つけられるらしいです。

<http://www.timesonline.co.uk/tol/news/environment/article3251551.ece>

2008年2月16日付け、イギリスのザ タイムズから最新のニュースです。

ボトル水産業は不道德と横並び、大臣語る

ボトル水を飲むのは道徳的にみてほとんど弁解の余地がない、大臣はボトル水工業に対する容赦ない攻撃を暗示した。

フィル・ウーラス(Phil Woolas)環境大臣は、英国には安全な水道水がどこにでもあり、しかも安いのに、毎日600万リットルものボトル水が飲まれているのはばかげていると語った。大臣のコメントは、梱包、輸送、ボトル水製品の廃棄が不必要に大きな炭酸ガス排出をもたらしているという環境擁護者の懸念を反映したものだ。

これに対して年間20億ポンド(約3000億円)のビジネスの工業会からすさまじい怒りの声があがった。代表者は、コメントを直ちに撤回するよう求めた。

しかし、ウーラス大臣は、国民に対して飲料水は基本的に水道水を使うようにというキャンペーンを支持すると言って、さらに怒りを煽った。翌週、“地球の友人たち”(Friends of the Earth)とウーラス氏の支援を貰ったサーマス・ウォーターは、早速、レストラン、パブ、ホテル等に顧客がもっと簡単に水道水を飲めるようにして欲しいというキャンペーンを開始した。環境に対するインパクトを調べたスエーデンの計算では、ボトル水は水道水より90倍から1000倍、あるいはそれ以上のインパクトという。

工業会の広報担当部長は、“ウーラス氏は、ボトル水の正しい役割を理解せず、誤った情報に踊らされているのは明らかだ、”と怒りを露にし、ボトル水産業には約2万人が携わっていると述べて改めてコメントの撤回を求めている。

この記事からリンクしている下記URLにボトル水の写真と一緒に炭酸ガス排出量のチャートがあります。

http://www.timesonline.co.uk/multimedia/archive/00284/graphic_284416a.jpg

この記事に対し、16人の読者からコメントがあります。その通りというのが2名、水道水などまずくて飲めない、塩素は身体に悪くないのかという反応が8名、政府が企業活動に不道德とは何事かという意見が1名、もっと他に大事なことがあるだろうというのが1名いました。

次ページ以下は、子どもたちの国際子ども温暖化対策会議にはこんな知識も、英語もある程度分からなくては、と、“おまけ”実験用です。

タラ号は帆船です。動力を持ちません。時速はおよそ 10Kmです。スペースは〇〇で、乗組員は〇〇名です。船内の構造は〇〇です。

科学と人類の冒険、タラ号の 2007 年—2008 年にわたる長期探検のために、北極スクーター:タラ号は漂流する生活の場であり、仕事をする事務所です。北極海で 2 年間、タラ号乗組員は孤立した家族のようなものです。貴重な資源の利用と取り囲む厳しい環境の中で生活する能力が必要になります。極限条件にもかかわらず、乗組員は資源の最低限の利用と廃棄物をできるだけ少なくするよう懸命に闘いました。環境調査が目的ですから環境に責任ある行動を取らなければなりません。

そこで、乗組員の人たちは、2 年間どんな生活を起こったのか考えて見ましょう。

エネルギー

Energy

During the whole year, energy needs will be provided by the electric generators on board Tara. These will be running between six and twelve hours per day according to energy demands. Energy production will be complemented by two wind turbines (3 kW each) placed on the ice around Tara. During the summer, the permanent sunlight will be a good extra source of energy thanks to the installation of a dozen solar panels (a total of 2,5 kW). The renewable energy sources can supply the basic needs of the base. During periods of peak consumption, for example when undertaking some scientific activities, the electric generators will provide for this peak demand.

断熱

Insulation

Tara was originally constructed with thick insulation to limit heat losses. The large windows in the saloon are covered with foil insulating material during the winter to provide further protection. In summer, these double glazed panels will capture the light and heat of the sun like a greenhouse, minimising the need for additional heating in the saloon during summer months when the outside temperature verges on 0° C.

リサイクル
廃棄物処理
(うんちとお
しっこも)

Recycling and waste management

Waste management started well before the expedition left France, with the optimisation of packaging and in particular removal of all unnecessary plastics. During the drift, all waste will be sorted and disposed of in an appropriate manner. Glass, iron and organic waste will be disposed of in a hole that will be maintained in the pack ice. The small quantity of paper and cardboard packaging that remains will be burnt on site, creating a negligible impact. The other wastes (plastic and aluminium packaging etc.) will be compacted and stocked on board until the return of the boat in Europe. For toxic liquids, Tara has a tank that can stock two years worth of used oils. Medical wastes will be stocked in special locked containers on board.

For “**black water**” (toilet waste) toilets will be set up on the ice itself, next to Tara. Even to urinate, the crew, and later the visitors, will have to go to a specific place so that the environment surrounding the boat does not become contaminated, an important issue concerning freshwater production. Part of this organic waste will remain frozen in the ice, drifting to the Greenland Sea, eventually being released into these warmer waters and broken down by natural processes.

照明

Lighting

Electricity consumption due to lighting during the polar night is potentially significant. Therefore, to minimise consumption most of the light bulbs in the less busy parts of the boat have been replaced by light emitting diodes, 100 times more economical than other technology. A large battery pack (2x1000 Ah) allows for the storage of energy when the generator is running (in particular during the daily use of the oceanographic sounding winch).




給水

Water supply

The extreme northern part of the planet, in particular the Arctic sea ice, is a real polar desert. It rains only a few days per year (temperatures are above zero only from mid June until mid-August). Far from any civilization, but permanently inhabited, the scientific base must address the vital need of making water. Each day, the team must collect snow and ice for melting. While snow has a natural low salt content, care must be taken when selecting sea ice, multi-year ice producing the least saline water as more salt has been removed by percolation.


Water making is a labour and energy intensive activity, therefore optimising water consumption is a vital resource issue for the base.



野生生物

Wildlife (flora and fauna)


Flora is inexistent in the Central Arctic Basin and terrestrial or avian fauna is scarce. The polar bear is the only species to present a real threat even if its presence in these high latitudes is very rare. The dogs presence should serve as an alarm and enable the crew to scare the bears away (using an alarm rifle, flare or fog horn) before they threaten the scientific equipment or material on the ice.



日常生活の注意

Constant attention

The choice of products and other materials used daily is an important issue, for example, the use of biodegradable washing liquid, soap and toilet paper. Turning off unessential lighting and switching off unused equipment is important to economise energy use. Constant management of the heating system requires particular attention because of the significant external temperature variations (gradients of more than 20° C are quite common).



カーボン オフセット

To offset the unavoidable greenhouse gases produced during the project we will be compensating this by the funding of a CO2 sequestering programme.



- [エコ・ショッピング、消費者の本音](#) 本音はどこも同じ。ちょっと安心。
- [燃費の悪い肉を見直す](#) “肉、食わなきゃ！”は過去のこと。カーボン・ニュートラルとヘルシーな食生活を考えさせられる。(全文)
- [温暖化不安症のための新セラピー](#) 何を食べればいいの？リサイクルどうするの？買い物は？・・・悩・悩・悩
- [魚が減る](#) 温暖化が魚の生息に大きな影響を及ぼすという国連初の海洋レポート。
- [カナダのゴールド・ラッシュ](#) 人口 923 人の町で今何が？ザ・タイムズ渾身の内側レポート(前半)
- [体重減らしてもっとフィット](#) 英国のちょっと進んだ低炭素化。参考にはなるかも。
- [炭素管理経営修士\(MBA\)誕生](#) 英国2大学にコース誕生。企業・行政関係者は要チェック。
- [ハマー対プリウス 大げんか続編](#) 走行距離にこんな見方も？研究開発を見る目が変わる大反論。(全文)

めったにないことですが、日本のニュースがトップ記事になれば、“水銀で汚染されたくじら”の話:(2月21日NYタイムズ)。これも世界の現実！(翻訳はありません。)

<http://www.nytimes.com/2008/02/21/world/asia/21dolphin.html?pagewanted=all>

発行元:C&Hコーポレーション

No rights reserved except photos which belong to original sources

● エコ・ショッピング、消費者の本音

もし、飛行機の代わりに列車でイタリアに行くとして、何か違いが出るかな、それとも、単に気分が良くなるだけかな？自分が乗らなくとも飛行機は飛ぶ、列車で行くとしてもカーボン・フットプリントはあるし、駅や荷物を持ちまわること考えたら飛行機よりも駄目じゃないか！最近、中国産ピーナッツはものすごいフット・プリントだから買うなと言った人がいたけど、自分が買おうが買うまいが、運ぶ船はやってくる。ファッションブルにエコを全部やったって、地球は変化し続けるだろう・・・それは“自然な”現象で、俺たち人類がやってくる前から起きていたことだから！

・・・でも、エコって、やっぱり自尊心をくすぐるし、気分が良くなる。そうじゃない？

Keith, Brighton, Sussex UK

嫉妬心から成功した人やセレブをやっつけるのは簡単です。私、個人的にはセレブが環境的なのを歓迎します。セレブに関心が高い世界にいるのですから、セレブを通して問題が明らかになればなるほど、害のある方法や生産が減ることになり、一般大衆がそれに従って購買行動にも変化も起こるのではないのでしょうか。例えば、この記事自体が注目を集めるために、マドンナやスカーレット・ヨハンセンの名前を出す必要性を感じたのではありませんか。

Andy, London, UK

これは、以下のサンディ・タイムズの記事に対する読者コメントです。

エコ・ショッピングは本当に地球を救うのか？

ファッション業界はエコ・バックに目をつけたと思ったら、矢継ぎ早に倫理商品で私たちの目をくらましている、しかし、地球を救うのか？

アンナは混乱しています。彼女は買い物や休日が好きです。環境があたらしいファッションの基本色になってから、環境意識の高い消費者と見られるようにがんばってきました。遺伝子組み換えなしの食品だけを食べ、ジョー・ウッド有機化粧品にこだわっています。ビヨンド・スキンの子猫のかかちを見て、毛皮を着るのをやめてもスタイリッシュに見えると自惚れてアディリの倫理的に作られたシルク・ドレスに誇りを持っています。去年の夏、南フランスへの家族旅行は飛行機でなく列車にしました。さらに、トヨタ・ランドクルーザーを気に入って、ハイブリッドカー・プリウスに取り替える決心をしました。それでも、エコ・パンフレットを無造作にルサイクル・ボックスに詰め込むとき、環境ムーブメントにある種の落胆の気持ちを拭い去ることができません。

“環境にベストのことをしようとしている、けど、いつでも何か選ぶときに自分をいじめている、それにいらさせられます。リサイクル、オーガニック、あのぞっとする省エネ電球。一体これが、氷冠(アイス・キャップ)に違いをもたらすのかさっぱり分かりません。やることはやっているということで良いということなのでしょうか？”

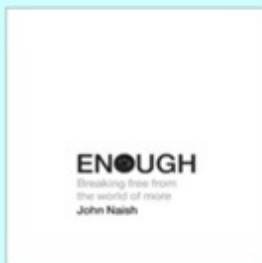
助言: 歌手**マドンナ**がオーガニック・コットンのボーダスのTシャツと下着を身につけているところを撮られ、女優**スカーレット・ヨハンセン**がオゾンにやさしいルビーのジーンズを注文したとき、スターたちは、エコがクールというスタンプを自ら押したのです。倫理的に作られたというラベルのあるエコ意識の高いドレスをファッションモデルが着てもカッコいい。それで、突然、**エコが、地球を救うことではなく、ステータスになってしまったのです。……“華々しいエコ”は、駄目です。**

オーガニックを買い、リサイクルをやり、倫理的生産の衣類/食品/車/おもちゃを買う。しかし、ショッピングの質を高める以上に、量を減らすことが必要です。

ジョージ・モンビオット(George Monbiot) *はこう言っています。

“人々はエコになるという意味を変に理解させられた。われわれは**エコくず商品**の波に溺れかけている。オーガニック・コットンのショッピング・バッグはプラスチック・バッグと同様山積みになる。‘気分が良くなる消費主義’が、人々を気分良くはさせるが、環境に対しては何の違いももたらさない。”

今年、消費を極端に減らさなければならないというメッセージが書かれた本がいくつか出版されます。エコ生活は、かわいらしい小さなフェアトレードのクラッチ・バッグを買うことでなく、洋服ダンスの中に放り込んであるものを使うこと。こういう厳格さや質素さが望ましいことを理解して、そうすること。エコというラベルの貼った靴、ジーンズ、イヤリングなどを買う風潮に巻き込まれるのは良くないと理解して、そうすること、それらがメッセージです。



紹介されている3冊のうちの一冊が左の本です。

“われわれの文化は物欲に支配されている。もう結構という優雅さに戻る必要がある。”著者、ジョン・ナッシュ「ENOUGH(もう十分)」の言葉。

* Heat: how to stop the planet burning(熱)の著者
両方ともアマゾンで購入可です。

From The Sunday Times By Clover Stroud January 27, 2008

http://women.timesonline.co.uk/tol/life_and_style/women/fashion/article3229201.

[ece](#)

[トップにもどる](#)

- 燃費の悪い肉を見直す

記事を読むと、日本はどのくらいなの？という疑問が出ます。農林水産省のデータ(摂取量)と厚生省のデータ(体重)を簡単に比較してみました???

	米国人	日本人	日/米
肉、鳥、魚摂取量(年/人)	91kg	64.4kg	70.7%
総摂取カロリー(日/人)	3774 Kcal	2,588 Kcal	68.6%
男性成人平均体重	約 87kg	約 65kg	74.7%
女性成人平均体重	約 75kg	約 52kg	69.3%

2008年1月27日、ニューヨーク・タイムズ今週のレビューからです。炭酸ガスの排出量から今後の食生活まで、重要な情報と思いますので、全文紹介します。記事中のフット・プリントは、欧米では一般語になっていますが、適切な日本語は分かりません。生産に使われたエネルギー使用から排出される温室効果ガスの量が肉に見えない足跡として残っているという意味です。

アメリカ人がお店に行けばいつでも手に入ると思っているもの；
安くて、豊富にあって、広く大衆に楽しまれ、生活の一部になっているもの・・・で、
今後消費行動が変わるものは何でしょう？

.....石油じゃないですよ。

.....お肉

肉と石油には共通するところが多い。石油と同じように補助金があること、石油と同じように、豊かになれば需要が加速されること、これが、逆に、価格を押し上げること。・・・ついには、石油と同じように消費の抑制が求められること。

今の世界の食肉生産は、家畜を閉じ込めて集約的に行う巨大経営になっており、製造業の組み立てラインのような食肉生産工場だ。そこでは、膨大なエネルギーを使い、水資源を汚染し、大量の温室効果ガスを排出する。さらに、これまでないほどの大量のとうもろこし、大豆およびその他の穀類がエサとなるため、その栽培畑の確保が世界の熱帯雨林を壊滅に導いている。

ちょうど今週、ブラジル大統領は作物生産と畜産用草地にするため熱帯雨林を焼くことと伐採を中止する緊急対策を発表した。過去5ヶ月だけで、1250平方マイル(3200平方キロメートル、幅6キロで東京～大阪間の距離に広がる面積相当)が失われたという。

(このブラジルの緊急対策は、日本では2月8日一部の新聞で報道されています)

世界の食肉供給は、1961年7100万トンだったが、2007年は2億8400万トンと推定されている。2050年には、肉の消費は、さらにその倍になると予測されており、国連の専門家のひとり、ヘニング・スタインフェルド(Henning Steinfeld)は、“家畜生産は過酷な成長”を求められることになるという。

食肉生産にどのくらいエネルギーを使っているか分かりやすい説明として、シカゴ大学・バードセンターの地球物理学者ギドン・エシェル(Gidon Eshel)と地球物理学助教授、A. マーティンは、アメリカ人が食肉の消費を、たった**20%減らすだけで、アメリカの標準セダン一例えばカムリを全部、超省エネのプリウスに変えるぐらいの効果**になると算出した。*

似たような例では、日本の独立行政法人 農業・食品産業技術総合研究機構 畜産草地研究所が、昨年の研究報告で、2.2ポンド(1kg)の牛肉生産は、平均的ヨーロッパ車の**155マイル(248km)走行の炭酸ガス排出量と同等**の排出量となり、**100ワットの電球を20日間点灯するエネルギーを使うと推定した****。

穀類、肉、そしてエネルギーまでもが恐ろしい結果をもたらすように一本のロープでくくられている。食肉生産を増やすことは、必然的に飼料、特に**とうもろこしと大豆の増加**を求める。専門家は、それが**価格上昇**を導くだろうと言う。

これは裕福な国のひとにとって不都合なことだろうが、しかし、飼料の高価格によって食用生産から飼料生産への転換が起これば、貧しい国々のひとひとにとって(不都合どころではない)悲劇的な結果もたらす。

エタノール需要はすでに価格を押し上げている。それが、国連食料農業機関が計算した昨年の**食物価格指標40%の増加要因**のひとつであることを物語っている。

地球上の約8億の人々が現在、飢餓あるいは栄養失調に陥っているにも関わらず、世界で栽培されているとうもろこしと大豆の大部分が、牛、豚、そして鶏を養っているのだ。しかも、スタンフォード大学経済学助教授のロザモンド・ネイラー(Rosamond Naylor)が言う“直接穀類を摂ることで得られる同じカロリーを家畜経由で摂ろうとすれば、2倍から5倍の穀類が必要になる”ことを考えれば、穀類をエサとする**米国产牛肉の場合は、10倍以上の穀類が必要**になるはずだ。

家畜のえさのためにこれほど沢山の穀類を栽培する農業の環境に対する影響の大きさは深刻である。米国環境庁は、河川の水質問題のほぼ4分の3がそれに起因しているという。

牛の胃は牧草を消化するためで、穀類を消化するためではない。工業的に育てられる牛は、体重を如何に早く増加するかという一点のみに重点が置かれる。

そのためのエサの与え方は、自然環境から牛を隔離して大規模な監禁と虐殺(解体処理)効率を助長するためである。しかし、これが健康に関する問題を引き起こすことにもなっている。つまり、抗生物質の投与が日常的で量も多いため耐性を持つ細菌を生み、今度は、それが人に使われる抗生物質の薬効に影響するという問題だ。また、この非健康的に飼育された家畜は、世界の富める国の人々の健康にも影響を与えている、心臓病、ある種のガン、糖尿病などである。

肉類が必要なタンパク質を補充するという言い分は正しい・・・が、それは、摂る量が少なければのことである。しかし、“お前、肉食べなきゃ”というのは、米国の水準ではもはや成り立たない話だ。われわれが食べる肉の量が仮に害を与えないとしても、すでに十分過ぎる。米国人は年間ひとり当たり、**肉、鳥、および魚合計 200 ポンド(約 91 キログラム)近い量を食べている**(バター、チーズなどの乳製品および卵は除く)。これは、50 年前に較べるとひとり当たり 50 ポンド(約 23 キログラム)の増加である。われわれは、一日 110 グラム見当のタンパク質を摂っている。連邦政府の推奨量の倍で。そのうちおよそ 75 グラムは、動物タンパクである。われわれの多くは、一日 **30 グラム程度のタンパク質で十分で、しかもそれがすべて植物由来であって構わない**ようである。

何ができるのかって？簡単な答えはない。ひとつには、廃棄物処理の改善。補助金をなくすこと、それもある。ところで、国連は、全世界で農家所得の 31%が補助金によると推測している。農法の改善、それもある。非営利の国際食料政策研究所、“環境と生産”部の技術部長、マーク W. ロゼグラント(Mark W. Rosegrant)はこう言う、“家畜の育種と管理にもっと投資が必要。どんな量の肉を生産するにせよ、フット・プリントを減少するために。”

<http://www.nytimes.com/2008/01/27/weekinreview/27bittman.html?pagewanted=1&r=1>

この“すべて植物由来であって構わない”は、シカゴ大学の報告書*の“すべて植物食品から摂る人”(完全菜食主義者)で卵も乳製品もまったく摂らない vegan(ベガン、あるいはベジャンと発音)の食事です。肉類は摂らないが卵や乳製品を摂る人を lacto-ovo vegetarian(ラクト-オボ・ベジタリアン、または単にベジタリアン)として区分しています。

尚、この研究は、低炭素時代の食生活を考える上で、科学的な裏づけになるかもしれないと思いますので、次ページに要約と結論を合わせて掲載しておきます。

* Diet, Energy and Global Warming(食生活、エネルギーと地球温暖化)

Submitted to Earth Interactions, May 2005

<http://geosci.uchicago.edu/~gidon/papers/nutri/nutri3.pdf>

シカゴ大の研究目的・要約

肉食ベースと食用作物ベースの食生活のエネルギー消費を比較するが、目的は、合理的な食生活の選択が及ぼす地球規模のフット・プリントの程度を検討することである。

植物ベースと動物ベースの食生活に伴う温室効果ガス排出量を、直接のおよび間接的な排出量(つまり、動物ベースの食料生産のための化石燃料燃焼による排出量、およびメタンと亜酸化窒素の炭酸ガス換算量)を考慮して検討した。摂取カロリーと摂取食品構成に基づく、(動物、植物ベースの)平均的混合食生活を摂る米国人ひとりの炭酸ガス排出量は、同等の摂取カロリーを**すべて植物食品から摂る人に比べ、1485 キログラム多い。**

これは、些細な量でなく、この差を国全体として見れば、米国の温室効果ガス**総排出量の6%以上**に達する。

また、**植物ベースの食生活**が国民の健康に影響を及ぼす懸念があるかどうか簡潔に検討したが、**弊害をもたらす根拠はないと結論する。**

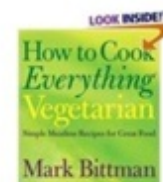
農業・食品産業技術総合研究機構 畜産草地研究所に報告書の確認をしたところ、報告書には車の比較はしていないので、著者が報告書のデータに基づいて独自に換算したものでしょうということであった。オンラインにはありませんが、報告書は以下の通りです。(ご協力ありがとうございました。)

雑誌名: Animal Science Journal(2007)78,424-432

タイトル: Evaluating environmental impacts the Japanese beef cow-calf system by the life cycle assessment method

最後に笑い話。この記事を書いたのは、マーク・ビットマン(Mark Bittman)という人ですが、N. Y. タイムズは記事の下にこう紹介しています。

“マーク・ビットマンは、必要最低限の生活をする人(これをミニマリストと言うのだそうです)の支持者(いわば、もったいない推進者)で、「何でも料理しちゃう方法:ベジタリアン」の著者。ただし、彼はベジタリアンではない。”



日本語版はないようですが、アマゾンで買えるようです。興味ある方はどうぞ・・・?

[トップにもどる](#)

- 温暖化不安症のための新セラピー

温暖化問題で不安？治療法があります

急性温暖化不安症の人のために、新しいエコ神経症セラピストの誕生だ。提供するサービスは悩みと一緒に炭素フット・プリントも解決する治療。従来のセラピー同様、人間関係や家族関係をチェックする一方、自然との関わりを持つよう励ますのが特徴。“もともとある不安に地球温暖化がさらなる不安を加えている。”とオレゴン州ポートランドの精神医でエコセラピストのサンディ・シャルミアは語り、戸外で患者の自然界に対するアプローチを観察して、育ち方や家族構成がどのように影響しているかを探るといふ。

“**エコ心理学**”という言葉は 1990 年代はじめに社会評論などで一般的になった。

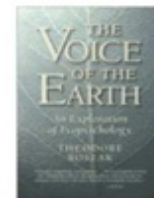
セオードル・ロザック*は、精神の健全性と環境の健全性の関係を調べた研究結果を 2 冊の書籍にした。その実践が今さまざまな形を取って現れてきた。

国際エコ精神心理学ウェブ・サイト(ecopsychology.org)には、カナダからウルグアイまで 120 人以上のセラピストが登録されており、米国とヨーロッパではこの分野の講座を持つ単科大学がある。ただ、科学誌がなく、フロイド派の心理学者が論理を構築したわけでもない。米国心理学協会はこの療法に対して中立的な立場を取っている。アトランタ州のエモリー大学(Emory University)の心理学教授、スコット・リリエンフェルド博士(Dr. Scott O. Lilienfeld)のように、これが利点を持つか疑問視する者もある。しかし、ポートランドのルイス&クラーク大学で、エコ心理学を教えるトーマス・ドハティ(Thomas Doherty)博士は、自然に対する患者の感情を良い方向に向かわせる助けができると語り、患者には、ショッピング、ニュース、メールを送るなどを止める“断食”を勧める一方、瞑想やガーデニングなどで心を静める努力を培っているという。

By GABRIELLE GLASER Published: February 16, 2008

<http://www.nytimes.com/2008/02/16/us/16therapy.html?pagewanted=all>

*セオードル・ロザックの呼びかけ、心理学、宇宙論、そして生態学の融合が温暖化対策への人の努力になるかもしれない。“地球と人間をつながりとして見る、そしてその他の創造物すべてとのつながりを再びつなぎ直す規律を持つ必要がある、”と地球の声に書いている。



米国のサイト(<http://www.context.org/ICLIB/IC34/Rozsak.htm>)にある言葉。

トップにもどる

- 温暖化は魚の減少を招く可能性

国連環境プログラム(UNEP)の研究者とヨーロッパおよび米国の大学および研究所の共同で実施された調査研究レポート“死の海”が、バリ島の気候変動会議以後、最大規模の閣僚級環境フォーラムが開催されているモナコで2月22日に発表された。



- 世界の 26 億の人々が海産物を蛋白源としている。気候変動は、魚種資源に大きく影響する環境問題であるだけでなく、開発と経済の問題である。
- 海洋の 40%は人為行為によって深刻な影響を受け、自然のままの状態にあるのは僅か 4%に過ぎない。

“死の海”主要点

1. 世界の漁獲量の半分は、世界の海洋の 7.5%以下の大陸棚で漁獲されている
2. 世界の海洋の 10-15%が産業的漁場である
3. 地球温暖化が進めば、2080 年までにさんご礁の 80%から 100%が危機となる
4. 特に影響の大きいところは西太平洋、インド洋、ペルシャ湾、中東とカリブ海
5. 世界の温帯および熱帯海岸の 90%以上が 2050 年までに深刻な影響を受ける。海洋汚染の 80%は陸地からの影響。汚染で特にリスクの高い海域は東南アジアと東アジア。
6. 大気中の炭酸ガス濃度の上昇は海洋環境の酸性化の上昇と符合している。
7. 酸性化上昇に伴って、海水は、貝殻形成に必要な各種有機体に利用される霞石(アラゴナイト)を含み、炭酸カルシウムを減少させる。
8. 冷水および深海サンゴは 2050 年までに酸性化の影響が発生し、2100 年までに南洋から亜北極帯太平洋にかけ貝殻形成有機体への影響が発現する。
9. 気候変動は海洋熱塩循環のスピードを遅らせ、その結果大陸棚の“洗浄作用”メカニズム(濃縮大陸棚海水カスケード機構)が次の 100 年間で弱まるであろう。これらのプロセスが、世界の主要漁場の少なくとも 75%における水質と栄養サイクル、そして深水生成に決定的な影響を与える。

10. 酸素が供給されない海域、‘死のゾーン’は都市と農業地帯からの汚染によって増加している。2003年のおよそ150に比べ、現在の推定では、200に増加。

11. 世界の主要漁獲種の80%までは適正漁獲量を超しているか、ほとんど限界にある。補助金と並行した技術進展が世界の漁獲能力をサステナブル(維持可能)であるべき漁獲量の2.5倍にしている。

12. 現在の通常規模の漁獲法の中でもっとも損害を与え、擁護しようのないのは底引き魚網(トロール)によるものである。

13. 生命力が強く在来種を駆逐する異質の侵入魚種は、汚染、過剰漁獲、および漁場の傷みに伴って増加している。

本報告のリーダー、ネルマン博士(Dr. Nellemann)は言う

“われわれは海洋におけるドラマチックな変化の予兆を示す多くのシグナルを受けている。大型のタンカーの向きを変えるようなことだが、その進路を変え、排出ガスを減少するわれわれの能力が成功に導く決定的な鍵になる。”

<http://www.unep.org/Documents.Multilingual/Default.asp?DocumentID=528&ArticleID=5751&l=en>

トップにもどる

- カナダのゴールド・ラッシュ

気候変動がカナダのゴールド・ラッシュに火花(1)

北極熊に包囲される氷に囲まれた掘っ立て小屋の集団に毛の生えたような人口923人の町、チャーチルにゴールド・ラッシュの火花が飛んでいる。10年以内に、この小さなカナダの港町が世界貿易のハブ(中心地)になるのかもしれない。

昨年夏の終わりのNASA(航空宇宙局)衛星データは48ヶ月前に較べて北極氷原がちょうど半分になっていると報告した。ブリティッシュ・コロンビア大学の国際政治教授マイケル・ピアーズ(Michael Byers)は、“最悪のシナリオを超えている。今後を考えると恐怖だ。”と、またコロラドの雪氷データセンターの科学者、マーク・セレーズ(Mark Serreze)は“北極が悲鳴を上げている、”と言う。

悲鳴を上げるだけが問題だろうか？うんと南の方、フランスのぶどう畑からインド洋のモルディブ諸島(水位の上昇で消える国のひとつと考えられている。)まで、野放しの地球温暖化をめぐる不安が徐々に高まり、まるで小さな核戦争の始まりを待つみたいなどころまで来ているのに。

太陽をさえぎって 2F(華氏 2°C)ほど下げればみんな冷静になれる。そうでなければ、巨額の炭素課税？それで乾杯さ。われわれの殆どは。しかし、気候変動が世界の大部分を危険にさらす一方、ラッキーな数少ない連中にとって、それは幸運の扉を叩くノックだ。

“戦っても駄目。受け入れなくては。問題は、どううまくやるかだよ。” カナダ・モントバ地方チャーチルの町長、51歳のマイク・スペンス(Mike Spence)の言だ。

気候変動で得するひとにぎりの国のうちで、そのリストのトップにランクされるのが、彼のところ。カナダの北極地帯は、地球上世界第二位の国の 40%にあたる。巨大な北極の氷融が、真っ白い氷原を新しいイリノイ州に生まれ変わらせると想像しているのだ。それは単なる空想で、実現しないうますぎる話だろう。しかし、実際のところ、スペンスはチャーチル町に利益があることをすでに身をもって体験している。気候変動のお陰で、彼の町は明るい未来どころか、ワールド・クラスの未来を持っている。

人口僅か 923。ハドソン湾の南西海岸の辺境の地。自分で名づけた“世界の白熊キャピタル”。白熊が北極氷原に移動するために集まる秋、夏のバード・ウォッチングやベルーガイルカ・ウォッチング。年たった 6 週間の観光が主要収入源。港は大恐慌の頃に建設され、ハドソン湾は大西洋につながっているが、年 9 ヶ月間は氷結し船は通れない。こんな氷結状態が、少なくともこれまで 1000 年は続いていた。

カナダ政府は業を煮やして 1997 年、チャーチル港を米国の輸送サービス会社“オムニトラックス (OmniTrax)”に譲渡。総額、何と 7 億ドル(約 850 億円)。

そして、気温の上昇がはじまった。

この 3 年間の温暖化が、それまで年 3 ヶ月間しかできなかった航海を 4 ヶ月間にした。さらに、6 ヶ月、9 ヶ月、いや年中？

この状況をもっとも近くで見ているピアーズ博士(Dr Byers)は、“チャーチル港は、もうすぐ一年のうちほとんどが使える状況になる。”と予測する。

オムニトラックスの買い物が、24 億ドルの首飾りでニューヨークを手に入れた以来の賢い買い物のように見え始めた。

ヨーロッパや北アジアから大西洋を横切る何世紀にもわたって使われた航路が、北極の北を通過してチャーチル港に入れば 40%近い時間短縮になる。チャーチルは田舎町のアメーバのような町から一躍世界のハブ(中心港)になる態勢が整う。

チャーチル港の氷を割る提案は、ロシアから繰り返しあった。ロシア大使、ゲオルギー・マメドフ(Georgy E Mamedov)は、チャーチル問題には特に精力的で、町中に愛想を振りまき、熱弁を振るう。ムルマンスクからカナダへの現在の航路は、大西洋に出て、セント・ローレンス海道、そして五大湖、オンタリオ州のサンダー湾と 17 日間要する。ムルマンスクからチャーチル直行航路なら 8 日間ですむ。

昨年 10 月、輝かしいパートナーシップで何が起こるかのデモンストレーションが開催された。ロシア船は大量の肥料を運び込み、事前の大々的な宣伝もあって、町中が鉦や太鼓の大騒ぎであった。

人口の多くは、ブームになった町に住むことを喜んでいるが、それは単に暖かくなるからという理由ばかりでもない。“俺は、一度ハワイに行ったことがある。海岸で冷たい雨の中に立っていたことがもっとも幸せに感じた記憶だ。町の皆も言うけど、全部融けても、それは多くの人にとって利益ではないのかって。” もちろん、“いけいけどんどん”の人たちもいる。中には、強い口調で、“今度は俺たちの番だ！”と言う。大多数のカナダ人が地球温暖化を憂っている一方、利になるものはないという考えがあるのは否定できない。ステファン・ハーバー首相(Stephen Harper)率いる政府の役人が 9 月にチャーチルに現れ、町や古びた鉄道の改善に 6800 万ドル(約 80 億円)の資金を確約した。

(以下後半)

From The Sunday Times

February 17, 2008

<http://www.timesonline.co.uk/tol/news/environment/article3362887.ece>

全文、15000 文字のレポートです。

後半は、これまでの収入源であった観光業の関係者が何を考えているのか、白熊の今はどうなのか、温暖化でもっとも影響を受ける地域に住む普通の人々。私たちにはちょっと想像できない内側を見る貴重なレポートと思います。

日本の写真家で白熊を丹念に撮られていらっしゃる方がいらっしゃいます。本記事の町チャーチルを拠点にするようです。下記 URL で素晴らしい写真が見られます。

<http://www.polarbearc.com/>

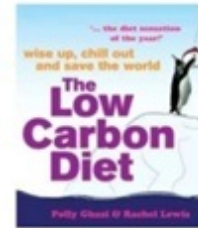
[トップにもどる](#)

- 体重減らしてもっとフィット

身体のことじゃありません、それはちょっと脇において、炭素フット・プリントのことです。地球温暖化防止に役立つライフスタイルの点検。英国人平均ひとり年間約10トン(オリンピック水泳プールの1.5倍分)の炭酸ガスを排出します。

“排出は半分に減らせる。そうしたら、産業界の助けなしに2010年の国の目標を達成できる。”と、ダイエットの指導者は言っています。ガジとルイス(Polly Ghazi and Rachel Lewis)の本からです。さあ、ダイエットやってみましょうか。

<http://extras.timesonline.co.uk/pdfs/dietmasterplan.pdf>



ダイエット点検表を次回に添付します。生活ダイエット、ガーデン・ダイエット、通勤ダイエット、消費ダイエット、ホリデー・ダイエットに分類、全部で40項目あります。

[トップにもどる](#)

- 炭素管理経営修士(MBA)コース誕生

気候変動対応が企業の将来を決める。

炭素マネジメント経営修士(MBA)のニーズ増大。

- 企業経営あるいは行政政策立案に気候変動緩和の決断が必要とされる。
- カーボン・フットプリントの測定から削減方法開発まで、まったく異なるビジネス・スキルが要求される。
- マークス&スペンサー(Marks & Spencer)に気候変動専任者(プランA*)。

新規コース誕生 イースト・アングリア大学(the University of East Anglia)
12ヶ月授業料 13500ポンド(約200万円)

<http://www.mgt.uea.ac.uk/mbaft.asp?id=why&mba=scm>

エジンバラ大学(Edinburgh University): 9月より

12ヶ月 7500ポンド(100万円強)(下記で確認要)

http://www.man.ed.ac.uk/pg_study/msc/carb_man/

The Sunday Times

January 27, 2008

http://business.timesonline.co.uk/tol/business/related_reports/article3255969.ec

参考: *プランAは、7万人の従業員、570店舗、倉庫20、トラック900台、2000の購入先、2万農家とそこで働く25万人、そして1600万人の顧客を巻き込むM&Sのプロジェクトです。2007年1月スタート。5年間で100の達成目標(社会的、環境的にやらねばならぬこと)があるようです。<http://plana.marksandspencer.com/>

● ハマー対プリウス 大げんか続編



前回のパシフィック・インステテュート(PI)の主張は、ハマーに 35 年間の耐久性と 37 万 9000 マイル(約 61 万キロ)の生涯走行距離を与える一方、プリウスには 10 万 9000 マイル(約 17 万 4000 キロ)と 12 年以下という誤った前提が、ハマーの生涯エネルギー効率が良いという“あほ”みたいな結論になった、というものでした。

けなされたマーケット・リサーチ会社CNWが、PIの批判から 3 ヶ月後の昨年 8 月、今度は、すさまじく攻撃的な反論をしています。

CNWに対しては、一般からもスポンサーは誰かという問い合わせもあり、その回答も面白いのですが、ここではPIに対する反論のみを紹介します。

パシフィック・インステテュートの“ためにする論争”

…悪すぎ、そうでもしなければ組織の存在意義がないかのように…

A PIの不満は、プリウスに 109,000 マイルの生涯走行距離を設定したことだけにある。走行距離がそこまで持つとかもっと長いとか、生涯距離が年間の走行距離から計算すべきとか、今現在の技術がどのくらい長続きするかという論議ではない。

新技術の場合、ある時点の技術レベルは進化とともにどんどん古くなる。プリウスの場合、今のステージ 1 または 2 のハイブリッド動力システムは、現在既に、あるいはすぐに時代遅れになる。10 年後には、今のシステムはウィンドウズMEみたいに博物館物になる。もしプリウスのドライバーが一年間に 6,700 マイル(10,720 キロ)しか運転しないなら、その車に関して 10 年間で 67,000 マイル(107,000 キロ)以上にはならない。単純に言えば、距離に関してもっと長く走れるかもしれないが、109,000 マイル(買った時から 15 年後)になれば、技術が変わってしまって、今の技術(車)を使えなくなってしまうということだ。

<p>B</p>	<p>(PIの指摘する)車の生涯エネルギー消費の 85-90%が車の運転によるというのも正しくない。どの車の生涯エネルギー研究でも、研究開発に携わる従業員が通勤に使うエネルギー、車の生涯が終わった時の部品廃棄に使われるエネルギー、あるいは車修理サービス会社が作業に必要な車両を道路に置き、キープするエネルギーなどを含んでいない。</p> <p>プリウスの場合、バッテリーパックや電子部品の廃棄について廃棄業界ではまだそのクリーンな廃棄方法を確立していない。単純に言おう。生涯エネルギーの算定には、プリウスの場合 3000 の調査項目があるが、PIが引用した研究は僅か 800 項目だけで、一握りの車やトラックの、しかもライフ全体から見れば、成熟期にあるものだけを対象にするものだ。</p> <p>これは、(PIの)報告が先入観に基づく証拠だ。消費者に運転され使用されるトータル時間や生産前と生産時、さらに廃棄の環境インパクトを最小限にする方法などを考えることをまるでやっていない。引用された資料のどこにも道路メンテナンス(重量と走行距離)、環境基準、そして間接的なサービス活動に関するものなどない。</p>
<p>C</p>	<p>前述の指摘は不適切な計算方法ではない。GMが電気自動車 Impact(インパクト)を作ったとき、実際の販売結果をはるかに上回る生産計画を立てた。もし、生涯エネルギー・コストの調査に、実際の販売量でなく生産計画を使うとすれば、車一台あたりの社会的エネルギー消費を著しく過小評価することになる。</p> <p>第 2 点は、新車が販売に成功する保障などない。ホンダのアコード・ハイブリッドが良い例だ。デザイン、開発、製造、サービス、そして結果としての廃棄に使われたエネルギー消費はわれわれが予測した以上に実際に大きなものだ、なぜなら、現在の小型ベース車になるまでの生産前コストと技術は完全に古くなってしまっているからだ。</p> <p>PIの批判は、販売が成功すると前提とした製造側の生産計画に従って生涯エネルギーの計算をしろということだ。“ごみ対ごみ”はそうしない。特に開発の早い段階のコストが実際の販売数にどのように反映されるかを重視する。なぜなら、販売 1、2 年後に存在しているかどうか(GMインパクトがその例)保証がないからだ。そして、“ごみ対ごみ”が指摘するように、車のライフが長ければ長いほど、走行距離あたりのコストに対する生産前費用のインパクトは小さくなる。明らかなことだが、例えば、バッテリーの開発初期費用は生涯エネルギー全体に影響する。したがって、CNWが出した 2 回目のプリウスのマイル当たりのコストは減少している。</p>

D	<p>“シオン”を例にした車種に関する議論。実際、この二つの車種は、製造工程のいくつかを共有している。PIが触れない点は、明確に区分される購買層によって購入され、販売量の差(エネルギー償却の計算が変わるということ)も大きく、中味も違い、廃棄率も違い、材料やプラスチックなどのハイテク部品の使用量も違う、等々だ。</p> <p>二つの車種が、同じ製造工程、同じプラットフォーム、あるいは仮に同じ組み立てラインで作られたとしても、それは同じ車ではないということだ。タイプの異なる車を同時に生産するフレキシブル組み立てラインは今、当たり前である。運転方法の違い、走行距離や所有者層の区分を加えなければ、マイル当たりのエネルギー・コストの計算はできない。</p>
E	<p>PIが“正確な”データを持っていないからといって、われわれが持っていないということではない。われわれの情報は、27年以上にわたる車の修理や使用の追跡調査と実世界のデータを正確に評価するために必要なシステムを持っている。それが調査報告の基本ベースだ。</p> <p>例えば、EPA(米国環境庁)の燃費表でプリウスは当初(トヨタの言い分でもあったが)ガロンあたり 60 マイルとあった。“ごみ対ごみ”は 46 マイルとした。環境庁の改定版は、48 マイルに下げている。これは、われわれの評価(これに対し、トヨタは最初反論していた。)に近いものだ。われわれの数字は実世界、実際の運転データに基づくもので、ある時点だけを取る固定的なものでも推測だけによるものではない。</p>
F	<p>資金に関して透明性に欠けるなどはばかげた話で、“ごみ対ごみ”を侮蔑するものだ。そうでないなら、フォードやクライスラーから直接お金を貰った調査があるという証拠を一つでもあげてみろと言いたい。</p> <p>われわれの報告の中でも何度となく、また記者に対しても、誰に対しても、CNWIはこの調査を行うのに誰からもお金を受け取っていないと言っている。われわれは、政府からも企業からも一切の助成金は受け取っていないし、民間にも政府機関にもいかなる形でも頼んだこともない、まして結果を基にお金を払ってもらったこともない。</p> <p>また、CNWIは私的企業で財務内容を公表する義務などない。</p>

最後に、ウェブ・サイトにあるPIの組織目的に述べていることから見て、PIは“咬みつき屋”なのであろう。

それは、ボード・メンバーやアドバイザー・メンバー、さらにスタッフ陣のリストから見ても明らかで、データの科学的な環境的解釈というより過激活動家的なパイアスを持った連中と思われる。

ウェブ・サイトには、PIに対する主要寄付者のリストもない。

誰が一体この組織に資金を提供しているのかわれわれにはさっぱり分からない。

結論を言えば、PIの 7 ページにわたる“ごみ対ごみ”に対する批判は不正確、不完全な偏見だ。

PIが正直ならば、この問題に関して彼等自身の調査研究をやるだろう(やるなら、3000 以上のデータを彼等の検討のために提供する用意がある。)し、あるいは、少なくとも、実社会に関する課題、15000 マイル(持つという)プリウスのタイヤ、プリウスのバッテリーが“生まれる”中国工場の環境管理の問題、あるいは他のエネルギーや輸送に関する諸問題等々について意見交換をしようではないか？

これらの諸問題こそが、ナンセンスだらけの批判よりもPIに値する関心事であるべきではないか。消費者は、自動車のエネルギー使用がどの程度なのか、きちんとした情報で選択したいという欲求があるのであって、PIの意味のない“たわ言”などに欲求があるわけではない。

アート・スピネーラ

CNW研究所

2007 年 8 月 20 日

2007 年 5 月のパシフィック・インステテュート“ハマー対プリウス”に対する回答

<http://cnwmr.com/nss-folder/automotiveenergy/Response%20to%20Pacific%20Institute.pdf>

いやはや、何とも激しい反論です。ただ、CNWの反論には、低炭素社会における産業が考えなければならないいくつか重要な点が示唆されていると思いました。

それは、私の個人ブログ(下記URL)に書くことにします。ご一読ください。

今回は、長いものが多かったですが、お読みいただきありがとうございました。

<http://blog.chalaza.net>

[トップにもどる](#)



(温度観測マップ: MIT Volunteer 団体ウェブ・サイトより)

“カリブーに蚊の病気が増える。俺たち何を食べればいい?”……?

男か女か分からない連中が、気が狂ったカモメみたいに襲いかかって“薬を打ち、引きずる、シロクマはお腹ぺこぺこ。“北極の死に際をみとる”ツーリストは嫌だ!“ただ、野生動物を見に来て欲しい。本当にすばらしいのだから。”

- 北極の町と人々(ゴールドラッシュ続編)

<<もっと読む

穀類価格高騰のため、7300万人を救う予定の国連“世界食料計画”が備蓄、あるいは救済人数を減らさなければならない破目に。バイオ燃料補助金政策に厳しい目。

- 市場と無関係な価格

<<もっと読む

ダイエット家計簿(前回の約束)

年令と共に動きが鈍くなる? トレーニングのやり方でそうはならない。時間より集中度。米大学数校の“自ら運動する”研究者がそろって新発見!

- 年令の一手手前に留まる

<<もっと読む

401g/kmCO₂、列車の30倍、飛行機の3倍

- 船旅は悪いの?

<<もっと読む

温暖化によってエコ・システムはどう変化するのか? これまでの知識や経験が役に立つのか? 種の保存に取り組む研究者たちの姿と戦略。

- 生物資源保全の苦悩

<<もっと読む



楽しげにワインを……一転、会話が、“抗菌石鹸のワナ”、“冷水洗濯機”に、午後7時過ぎの活気。ブログとウェブ・サイトで9000人を結ぶエコ・ママ同盟。“物質主義抜き夢の結婚式”にデータベース。米国の新サブ・カルチャー

- 家庭から地球を救う“エコ・ママ”

<<もっと読む

特集!!!

ポリエステル: コットン: オーガニック・コットン

- 化学協会: ポリエステル/コットン比較表
- コットン新情報を基に、大胆に見直す
- 低炭素化時代の商品選択基準を考える

<<はじめから読む

<<結論を先に読む

発行元: C&Hコーポレーション

No rights reserved except photos which belong to original sources

- 氷が消える北極チャーチル港の人々(続編)

前回の“気候変動がカナダのゴールド・ラッシュに火花”の続編ですが、ここではシロクマの先行きに関する記述だけに留め、全体は添付にさせていただきます。

シロクマはどうか？

米国の野生動物学者、ジェーン、ウォーターマン博士は厳しい見方でこう言う。“スラピース”(アメリカ7-イレブンの氷飲料)を飲むことを学ばない限り適応できないでしょう”と。実際、シロクマが野生種として絶滅するかどうかは論争的である。

そんな恐れなどない、気候変動警告屋のポルノ(すぐ見飽きる?)みたいなものと一笑するする人もいる。12月英国BBC放送は、11万年前のノルウェーのシロクマのあごの骨が発見されたと報道した。それは、前の温暖化の急上昇でも生き残ったのだから今回も大丈夫だろうということを示唆する。

生物学者のプロガーは希望的観測を提唱する。“氷原から追われるシロクマは、生き残ってグリズリーとの混血種となり数が増えるのではないか”
普通は、これはしろくまの遺伝子プールが薄まり、結局撲滅することだから“悪い”と見られる。しかし、そうではないだろう。むしろ、氷が再び戻ってくるまで温暖期間を生き延びてシロクマ遺伝子が存続するひとつの方法かもしれない。もし、これが21世紀を流れる楽観主義とすれば、シロクマが悩まなければならない何かがあるのだろうか、他の地域の動物相でも心配することなどないのではなかろうか。

<http://www.timesonline.co.uk/tol/news/environment/article3362887.ece>

トップにもどる

- 船旅はどのくらい悪いのですか？

駄目ですね～。カーニバル客船株式会社の環境年次報告によると、最大速力で運航しない場合でも、キロメートル当たり平均401グラムの炭酸ガスの排出となっています。これは、ボーイング747の3倍、ユーロスター(長距離列車)の30倍に相当します。

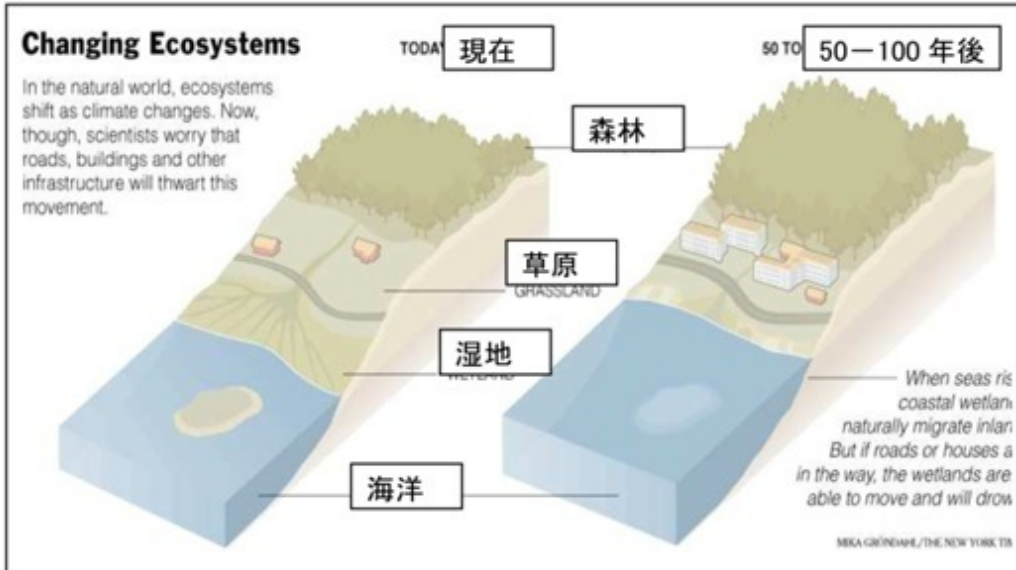
通常のフェリーでビュッフェを取るような船旅はもっと小さいフット・プリントになります。米国の慈善団体の話では、一週間の航海で、約800トンの汚水と133トンの石油汚染海水の原因となるといいます。



<http://www.timesonline.co.uk/tol/news/environment/article3375012.ece>

● 生物資源保全の苦悩

気候変動によりエコ・システム(生態系)は変化する。道路、建造物および他のインフラがその進行を阻害する。海面が上昇すれば、湿地帯は内陸に移動する。しかし、道路や建物があれば移動できず溺れる*。



今と将来:時間のジレンマ 現在、生態系の破壊が続いている、それが今のニーズ。一方、変化に対応して生物種が移動するのなら、その場所はどこになるのか。50年後、100年後に生態系として重要になるのはどこか推測しなければならない。その上で、現在の差し迫ったニーズと対比しながら将来予測とのバランスを取ろうとしている。

将来:方法論のジレンマ “正直なところ、どうすべきなのか今時点でも分からない。草原として保全した場所は森林になるだろう。

森林を持ちすぎて、草原が少なくなってしまうということになるのか、それとも、草原に森林が侵入するのを止めるべきなのか？あるいは、気候変動に鈍感な新しい場所を探して、そこに重点を置かなければならないのか？”

(自然保護団体 Nature Conservancy)

<p>* 溺れさせては大変！海岸線対策</p>	<p>矛盾にあふれる陸の新生態系樹立方法</p>
<p>海岸線の湿地帯は魚と貝類の最重要保育室！移動する内陸を確保しなければならないが、できるか？</p>	<ul style="list-style-type: none"> ● 今の生息種を追い出して新生息種の導入促進？ ● 保全地域間に廊下(自由空間)生息動植物の交流で新生態系樹立？(人為的に可能か？疑問も多い。)

<http://www.nytimes.com/2008/01/29/science/earth/29habi.html?pagewanted=all>

● 市場と無関係な価格(NYタイムズの主張)

食用作物をエネルギー用途に転換する犠牲はあまりにも大きくて明らか！

- この転換政策にドライブをかけている米国をはじめとする金持ち国は、国連などの世界の貧困層に食料を与える活動を保証しなければならない。しかし、援助は解決策ではない。
- 議会は、コーン・エタノールの食料供給に与える影響と同時に最近の研究による土地転換による炭酸ガスの増加にも厳しい目を向けなければならない。
- バイオ燃料に対する補助金は止めるよう考えなければならない。もし石油価格が高騰してコーン・エタノールの価格が落ちたときには、補助金を止めることが難しくなる。そのまま続ければ、他の金持ち国も補助金を続けることになる。
- そんな事態になれば、世界の“飢餓状態”が“大量餓死”に変わってしまう。

世界の食料の現状:

- 小麦の価格が一年前より80%、とうもろこしは25%上昇。世界の穀類の在庫が1982年以来の低レベルに落ち込んだ。
- 価格が異常に高騰したため、今年7300万人分の供給を予定していた国連“世界食料計画”は、備蓄を減らすか救済人数を減らさなければならない。

原因:

- 中国とインドの肉類と高級食品の増加が、飼料用穀物の需要を押し上げた。
- 悪天候による収穫の落ち込みも、高い石油価格もその圧力となった。
- しかし、この最大の理由は、富裕国のバイオ燃料作物補助金政策だ。米国では、2006年、コーンの14%がエタノールに使われ、2010年には、30%に達すると予想されている。この動きは大豆のような必需農産物にも波及する。農家は豊富な補助金を利用して食用から燃料用途に切り替える。

この補助金政策の結果は疑わしい:

- 経済協力開発機構(OECD)の研究では、運輸部門の燃料の10%をバイオ燃料で置き換えるとすれば、米国、カナダ、EUは現在の耕作地の30%から70%をそのために使用しなければならないという。
- 最近の二つの研究報告*は、大規模なバイオ燃料のための作物栽培が、削減よりも大気中に炭酸ガスを余分に放出することになるだろうと警告している。

●
* (前回ニュースレターで報告した)森林やピートなどを潰してバイオ燃料作物を栽培すれば、土中の炭酸ガスが大気中に放出されて削減でなく増加するというもの。

<http://www.nytimes.com/2008/03/03/opinion/03mon1.html?th&emc=th>

● 子供のためにライフ・スタイルで地球を救う“エコ・ママ”同盟

エコ活動推進主体

- 子供のために“崩壊する環境を心配する母親たち”(エコ活動のオーガナイザー分析)
- 女性は男性の意識よりはるかに高いレベルの環境意識を持つ(オクラホマ大調査)
- 主婦が家庭消費の80%をコントロールできる(ポストン・コンサルティング調査)

他の類似グループ:

“環境とクリーンママ”グループ

<http://greenandcleanmom.blogspot.com/>

“エコのひなどり”グループ

<http://eco-chick.com/>

米国の新サブ・カルチャー

- 70年、80年代の主流であった全米的な環境組織への加入と活動はもはや機能しないという認識
- 地域的ライフ・スタイル追求型が、現在の主流
- 米国の「過剰な物質主義」から温暖化を契機に、急速にはじまった「本質価値のライフ・スタイル」への模索

“エコ・ママ同盟”

カリフォルニア、パロアルトに住む38歳の主婦、ピンクソンにより設立されたグループ。ブログとウェブ・サイトで全米の9000人を結ぶ。地域ごとに頻繁なサークル活動が行われている。

<http://www.ecomomalliance.org/>



参加者の声;

- 参加する前は不安だったが、今は何かをやっていると感じる。
- オーガニック食品が高いので夫(弁護士)と激しい口論になることもある。
- 自分ひとりで考えるとノイローゼになる。

やりましょう!リスト(抜粋)

- 廃棄物のない給食
 - ビル緑化の条例化推進活動
 - 毒性フリー洗剤、浴用剤、化粧品
 - ごみ10%低下
 - 低ホルムアルデヒド家具
 - 天然素材玩具
 - 地域産食品購入
 - 蛍光灯への切り替え
 - 電気機器の未使用時電源カット器
- その他、その他

http://www.nytimes.com/2008/02/16/us/16ecomoms.html?_r=1&adxnnl=1&oref=slogin&pagewanted=all&adxnnlx=1205845528-QYLnhDDuctsqIMDwgFEDEQ

[トップにもどる](#)

● 年令の一步手前に留まる

年令を重ねると、動きが鈍くなり、歩幅も狭くなり、バランス感も悪くなる：年令と体力研究の一貫した見方だった。しかし、覚えておく価値が十分あるのは、それらの研究者は、座った生活をしている人が圧倒的ということだ。

ピッツバーグ大学の整形外科教授ライト博士(40才の女性ランナーでもある)は、年令を重ねてもトレーニングを続ける人の運動能力がいつ落ちるのか興味を持ち調査研究を行った。結果は、多くの研究者が驚くもの。トレーニングのやり方で、運動能力を落とさないことを発見したからだ。また、人生の後半からでも能力を高めることができ、62才になって走り始めた男性が、初マラソンを3時間25分で走ったという報告もなされた。

トレーニングのやり方(例)

田中博士(テキサス大)：“インターバル・トレーニングのように、ワン・セットを強くやり、休み、また次のセットをがんばって繰り返す。これで酸素消費量があがる。持久力の大事な要素は酸素消費量だからだ。”

ホーキンス博士(南カリフォルニア大)：“高いパフォーマンスは、量ではなく強度による。二つは無理、年令がいったら量を捨てる。週2度は走る。できるだけ早く走る。ゆっくりはやらない。”

<http://www.nytimes.com/2008/01/31/health/nutrition/31BEST.html?pagewanted=all> (原文をご希望の方はご連絡ください。血流の研究などもあります。)

トップにもどる

* 変な話！

筋肉の疲れは乳酸の放出によるとされていたが、それは間違いで、血液からカルシウムが筋肉細胞に漏れるのが原因。コロンビア大学の心臓医マークス博士によって突き止められた。



カルシウム・チャンネルからの漏れを薬で止めれば筋肉は疲れない。心臓病にも良い。薬の特許を取り、ベンチャー企業に技術移転。マークス博士は顧問に。

“筋肉が疲れるのは、それ以上やると危険というサイン。そんな薬を使えば、死ぬまで走る人も出てくる。”(メリーランド大学、リジェット博士)……………???

<http://www.nytimes.com/2008/02/12/health/research/12musc.html?pagewanted=all>

特集 !! ポリエステル：コットン：オーガニック・コットン
事例検討

低炭素化社会の“知る努力”が商品購買の選択肢と基準にどのように反映されるか、具体例として示します。尚、情報解釈と見直しの責任は発行人にあります。

想定：

今、衣類を購入しようとしています。素材は、ポリエステル、コットン、オーガニック・コットンを使ったものを考えています。これまでの通常の選択基準(従来基準)を以下のようなものとします。

	ブランド・デザイン	自然(従来エコ)	価格	風合い・着心地
ポリエステル				
コットン				
オーガニック・コット				

情報：

1. ポリエステルとコットン比較情報

英国の化学工業会(CIA)とヨーク大学が共同で設立した化学工業教育センター(CIEC)によるものです。学校の先生向けや子供たち向けに、化学工業と生活の関わり合いを啓蒙する目的です。(http://www.ciec.org.uk/)

(いろいろ調査しましたが、現時点ではこの種の比較は他に見当たりません。)

2. コットンに関する情報

2-1 コットンの考慮すべき事実

コットン繊維が大気中の炭酸ガスの炭素を長期にわたって貯蔵するという論文“考慮すべき事実”の要約です。長年、コットン栽培の研究を行ってきたアンドリュー・ジョルダン博士(Andrew G. Jordan, Ph.D.)の2007年7月2日公開のまだ新しい論文です。

2-2 WWF(世界自然保護基金)レポート

WWFの2007年10月の、コットンをよりサステブルにする活動の報告(関係部分のみ要約)です。コットンの持つさまざまな課題が分かります。

	コットン	ポリエステル
エネルギー使用量	60 MJ(メガジュール)	97 MJ(メガジュール)
石油・天然ガス	—	1.5kg
化学肥料	457g	
農薬	16g	
水	22,200 リットル	17 リットル
炭酸ガス排出量	3.0kg	2.3kg
平均コスト	£1.13(約 170 円)	£0.78(約 120 円)



(繊維/布1kgあたりの数字)

1. ポリエステルとコットン比較情報

英国化学工業教育センター(CIEC)

<http://www.sustainability-ed.org/pages/example4-3.htm>



ライフサイクル(2年間、洗濯12回を含む)
それぞれ1Kgの結果

ライフサイクル(繊維生産—布・商品生産—使用—廃棄)		
洗濯12回を含む2年間を比較した場合のそれぞれの繊維1kgについて		
エネルギー	ポリエステル 171.5 メガジュール対コットン 140.1 メガジュール	コットン有利
石油・ガス	ポリエステル 1kg生産に 1.53kgの石油とガスを使う。コットンは自然栽培	コットン有利
肥料・農薬	コットン 1kgの栽培に化学肥料 457g、農薬 16gを使用。オーガニック栽培は、化学品を使わないが、一般的でない。	ポリエステル有利
排出ガス	ポリエステル 1kg生産は 3.8kgの炭酸ガス排出対コットン 5.3kg(以後の工程の排出量を加えている。)二酸化硫黄は酸性雨の原因。ポリエステル 0.2g排出対コットン 4g。	ポリエステル有利
水	ポリエステル 1900リットル(洗濯含む)。コットンは灌漑水を要し、ライフで 26700 リットルが必要。	ポリエステル有利

2-1 コットンの考慮すべき事実

<http://www.cottoninc.com/Air-Climate-Quality/Cotton-and-Global-Warming-Facts/?CFID=1058204&CFTOKEN=76468576>

炭素貯蔵効果

世界のコットンは空気中の炭酸ガス 3,360 万トンの貯蔵効果を持つ。

米国自動車の年間炭酸ガス排出量は、一台あたり、約 5 トン。725 万台分の排ガスに匹敵する。

コットン繊維 1kgあたり、1.5kgの炭酸ガスを貯蔵するが、栽培期間中はその10倍吸収する。繊維以外の茎葉や根は土壌に戻され、再び大気中に炭酸ガスとなって戻る。植物は炭酸ガスと水を使い光エネルギーで糖分を合成し、酸素を放出するが、作物の中でコットンと樹木は特別の存在である。コットン繊維や材木のセルロースを構成する炭素原子は炭酸ガスがその供給源。しかもコットン製品はすぐに捨てられず、炭素が貯蔵されるので累積効果は極めて大きい。

(注)ちなみに、日本の2005年度の炭酸ガス排出量は、12億9300万トン。コットンによる炭酸ガス貯蔵はおよそ3%に相当する。運輸部門排出量は2億5700万トンであるから、貯蔵量は14%にも相当する。

エネルギー効果

コットン・シードオイルは、ヘクタール(100メートル四方)あたり平均約 70 ガロン(266 リットル)のジーゼル油相当のエネルギーを含む。

エネルギー量としてはコットン栽培に使われるトラクターやその他の燃料の 4-10 に相当する。農業にはさまざまな形でエネルギーが投下される。化学肥料、農薬やジンニング(種子除去)に使われるエネルギーは栽培地によって異なるが、コットン・シードオイルの純エネルギーとして必要なエネルギーをオフセット(帳消し)すると推測される。

- エネルギー節減耕運作業、窒素を固定するマメ科作物との交互作付け、動植物堆肥の活用などはコットン栽培に投下されるエネルギーを大幅に低下する。
- 種子除去(ジンニング)の副産物ペレット化の燃料価値はヘクタール約200リットルのジーゼル油に匹敵し、その実用性に期待が大きい。
- コットン畑に残る茎やいがを利用して乾物重1トンあたり、80-430リットルのセルロース・エタノールを作る新しい技術が開発されている。

2-2WWF(世界自然保護基金) レポート

水使用問題

全世界の使用水量は、3780 億リットル、布生産から最終商品まで平均 200 リットル/製品 kg が使われる。1kgの原綿(ジーンズ一着分)平均 8500 リットルの水を使用。世界的な水不足、住民飲料水との取水関係、野生動物生息地保全など広範で重要な課題。WWFは、畝間に灌漑水を導入、あるいは根元だけに給水する灌漑方法を現地指導している。

コットン概説

栽培面積: 3500 万ヘクタール(世界の農地の 2.5%) - 日本の全農地面積の 7 倍。

栽培農家: 栽培農家の 90%は途上国の農家で、保有栽培面積は 2 ヘクタール以下。途上国全体の労働力の 7%が従事。

生産量: 年約 2500 万トン

生産国: 主要生産国は、インド(860 万ヘクタール)、米国(530 万ヘクタール)、中国(400 万ヘクタール)、パキスタン(310 万ヘクタール)、ウズベキスタン(140 万ヘクタール)で、トップ10ヶ国で世界の生産量の 85%。

途上国を支える基礎産業: 中央アジアや西アフリカの国の基幹産業、全輸出金額の半分以上を占めるところもある。

http://assets.panda.org/downloads/cotton_for_printing_long_report.pdf

劣悪な若年労働環境と農薬被害(倫理問題)

途上国での特に子どもが学校に行けずに農薬散布などの危険で過酷な労働で、事故が絶えず、国際問題になっている。家族が抱える借金のかたに子どもが就労することが少なくない。インドでは 2004 年シーズンに 6 歳から 14 歳の子どもおよそ 45 万人がコットン畑ではたらいたと報告されている。

オーガニック・コットン

化学肥料、農薬、遺伝子組み換え種子を使用しない認定オーガニック・コットンは全世界のコットン生産量の 0.2%に過ぎない。平均収量も通常コットンに比べ低い。しかし、農薬による健康被害がないこと、生産費用が小さく、さらに 10-20%のプレミアム価格がつくため途上国の小規模農家にとっては可能性が大きい。

WWFの課題解決アプローチ

ポリエステルに抜かれたとはいえ、将来ともコットンの需要は続く。消費者や株主の環境に対する懸念の高まりから、多くの企業が、倫理基準を満たす認定オーガニック・コットンあるいはフェア・トレード製品の大量購買を決定している。新しいタイプのコットン製品を規定するためにベター・コットン・イニシアティブを立ち上げた。BCIは地球的規模の活動で、現在、アディダス、ギャップ、H&M、ICCO、IKEYA、オーガニック・エクステンジ、国連環境プログラム(UNEP)、農薬アクション・ネットワーク(PAN)UK、およびWWFが運営委員会を構成している。

情報の見直し

私たちには、判断に戸惑う情報です。そこで、他のソースを求め、より正しい情報は？と探すこととなります。

トップにもどる

● エネルギー使用と炭酸ガス排出量

1. 化学工業会のデータ算出根拠が不明です。

1. エネルギー量(MJ)と炭酸ガス排出量の計算が通常の式に当てはまらず、算出根拠が理解できません。それを無視して炭酸ガス排出量だけは正しいものと仮定します。
2. 農業で使うエネルギーは、トラクター、肥料、農薬、落葉剤の散布、収穫機、コットン・ジン(種子と繊維の分離機)などの動力に用いるものですが、機械化率によって大きく変わります。米国のような機械化農法を想定していると思われます。なぜなら、WWFが指摘する途上国の2ヘクタール以下の小規模農家の機械化率はきわめて低いからです。さらに、オーガニックでは、ジニングを除いて動力はほとんど使用しません。国際コットンアドバイザー委員会コットン生産コスト調査報告などが、根拠です。
http://www.icac.org/cotton_info/speeches/Chaudhry/2001/brazil2001.pdf
3. さらに、このデータにはコットンの炭酸ガス貯蔵分とコットン・シードのエネルギーによる相殺が考慮されていません。

2. したがって、これらの情報で修正する必要があります。

今のウェブ・サイトには繊維生産のデータしかありませんが、昨年見つけたときには、布生産のデータもありました。合計が同じですので、それを下に示します。

繊維/布 1kgあたり	コットン	ポリエステル
繊維生産排出量	3.0kg	2.3kg
布(織物)生産排出量	2.3kg	1.5kg
合計	5.3kg	3.8kg

布生産については、知見がないので化学工業会のデータを正しいものとします。

- 繊維生産については、コットンの3kgから貯蔵分1.5kgを引きます。
- さらに、シード・オイルで相殺される分を低く見積もって、1kgを差し引くと、合計の5.3kgが、2.8kgとなります。これが機械化コットンの繊維生産の炭酸ガス排出量の目安となります。
- さらに、オーガニック・コットンは、ジニング以外エネルギーも肥料、農薬も使わないので、(1.5+1.0+0.4kg)を引くと、合計は2.4kgとなります。

3. 修正された炭酸ガス排出量比較

繊維/布 1kgあたり	機械化コットン	オーガニック	ポリエステル
繊維生産			
炭酸ガス排出量	0.5kg	0.1kg	2.3kg
布(織物)生産			
炭酸ガス排出量	2.3kg	2.3kg	1.5kg
合計	2.8kg	2.4kg	3.8kg

生産量 2500 万トン換算炭酸ガス排出量比較:

	機械化コットン	オーガニック	ポリエステル
繊維/布 1kgあたり	2.8kg	2.4kg	3.8kg
2500 万トン換算	7000 万トン	6000 万トン	9500 万トン
ポリエステルとの差	-2500 万トン	-3500 万トン	

Tシャツ(コットン:200g、ポリエステル 185g)一枚あたり炭酸ガス排出量比較:

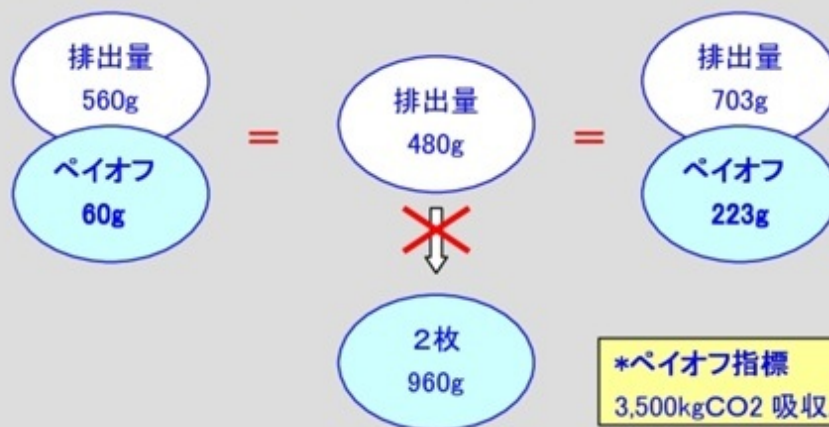
	機械化コットン	オーガニック	ポリエステル
繊維/布 1kgあたり	2.8kg	2.4kg	3.8kg
Tシャツ一枚あたり	560g	480g	703g
最小との差	+80g	-	+223g

この試算の目的は、排出量の大きな製品を購入してもペイオフ活動をすれば同等になる数値例を示すためです。さらに、エコだからと購入数量を増やすことの無駄を確認するためです。

機械コットン購入者

オーガニック購入者

ポリエステル購入者



● 水の問題

水の問題について以下の二つを混同すると単なる攻撃になるので注意が必要；

- 配分(農業、工業、飲料水などへの)の問題。
- 汚染の問題(前回のニュースレターのソースに指摘のあった畜産による河川汚染が原因の4分の3を占めるという深刻性)。

その上で同じく、国際コットンアドバイザー委員会の報告の引用を見ます。
『世界の Cotton の 55% が灌漑に拠っており、残りは部分的な灌漑か、全部を自然降雨に拠っている』

商品選択基準に水を考えるなら、自然降雨かどうかはひとつの目安になります。ただし、WWFの報告には、『繊維がブレンドされるので、認定オーガニック・コットン以外は生産場所を特定することが難しい』との記述があります

● 倫理的生産の問題

倫理的生産の問題は、人権や環境に関係しますが、同時に途上国の政治、経済体制と深く結びついたもので、根本的には貧困の問題です。日本ではまだ一般的とは言えませんが、フェア・トレード商品も今後重要な選択基準のひとつになると思われます。日本語版ウィキペディアの解説は客観的です。
<http://ja.wikipedia.org/wiki/%E5%85%AC%E6%AD%A3%E5%8F%96%E5%BC%95>

結論:
低炭素化社会の消費行動は変化せざるを得ません。生活をする限りどんな素材を使おうとも炭酸ガス排出は伴います。その量をできるだけ正確に把握して、それぞれ自由な考え方や嗜好などを組み合わせる、それが今後の商品選択基準になり、同時に、購入商品のカーボン・フットプリントに見合うペイオフ活動が必要になるでしょう。今回の結論として、Tシャツ購入を例として選択基準を参考提示します。

	従来の選択基準				あたらしく追加される選択基準			
	価格	好み	その他	その他	CO2	水	倫理	ペイオフ
ポリエステル					703g			223g
コットン					560g			60g
オーガニック・コットン					480g			

尚、この検討には、記載以外の多くの報告を参考にしています。原油量と炭酸ガスの関係、ポリエステルとコットンの生産量推移、通常コットンとオーガニックの栽培方法等々です。ご要望があれば、それらの引用報告を公開いたします。

[トップにもどる](#)

英国風ダイエット・プラン家計簿

(出所URLは末尾に記載)

ダイエット・プラン	月間スリム化 目標	月ごとの記 録(12ヶ月)	年間目標
ホーム・ダイエット			
屋根裏部屋の断熱	125kg		1.5 ton
圧縮型ボイラー上級器への取替え	83kg		1 ton
二重窓ガラスの設置	57kg		680kg
タンブル乾燥機の不使用	26kg		311kg
暖房温度 1℃低下	25kg		300kg
低流量シャワーヘッド設置(4 人家 族)	17kg		200kg
古い冷凍冷蔵庫の買換え(A級モ デル)	15kg		180kg
スタンバイ電源を切る	13kg		153kg
タンブル乾燥機の使用回数半分	13kg		156kg
お湯タンクの断熱ジャケット	13kg		150kg
吸気保証型窓・ドアへの変更	12kg		140kg
書斎のコンピューター電源カット (夜・週末)	12kg		145kg
湯温設定 60℃	12kg		145kg
床、下張りの穴をふさぐ	10kg		120kg
洗濯回数半分とお湯温度の低下	8kg		101kg
食器洗い機のエコ・セッティングと 使用回数半分	8kg		101kg
放熱器の裏側にアルミホイルのは め込み(筆者注:これは危険?)	4kg		51kg
やかんに水を入れすぎず、必要な 分だけ沸かす	4kg		48kg
食器洗い機のエコ・セッティング	4kg		48kg
食器洗い機温度 60/90 から 40℃	3kg/6kg		40kg/71kg
最低1個省エネ電球	3kg		40kg
節水トイレの設置	0.048kg		0.58kg
ガーデン・ダイエット			
食料、庭廃棄物の堆肥化	23kg		280kg

水道使わずため桶水使用	0.05kg		0.6kg
通勤・通学ダイエット			
通勤自転車利用	71kg		854kg
電車/バス/地下鉄(車を使用しない-12kmの通勤)	51/57/58kg		607/688/690kg
通学(車の代わりに、走る、歩く、自転車を考える-片道4km×2)	43kg		513kg
それとも、徒歩/自転車、週3回	26kg		308kg
2km以下に車使わない-徒歩か自転車(週5回)	7kg		86kg
急ブレーキ、急アクセルを止めスムーズ運転	1.8kg/10km		
購買ダイエット			
海外産食料から英国内産の購入	60kg		
ごみの大部分は食品とパッケージから。ガラス、紙、カード、プラスチック、缶はリサイクル	35kg		420kg
カリフォルニア産でなく英国産イチゴを購入	13kg per kg		52kg
ケニア産でなく英国産グリーンピーンズ購入	10kg per kg		
スーパーでの買い物、週3回から一回に	4kg		
ニュージーランドの特上よりフランス産ワイン	0.068kg/bottle		
ホリデー・ダイエット HOLIDAY DIET			
500kmx2 の年3回の飛行機の旅を長距離一回に変える	810kg		
国内旅行、短距離海外(350kmx2)には飛行でなく列車で	256kg		
ロンドン-エジンバラ、飛行機でなく列車で	232kg		
ロンドン-パリ、ブリュッセルに飛行機でなく、ユーロスター(列車)で	217kg		

<http://extras.timesonline.co.uk/pdfs/dietmasterplan.pdf>

トップにもどる

ニュースレター2008. 4. 6. vol 4 添付

ザ・タイムズの2月17日の記事“**気候変動がカナダのゴールド・ラッシュに火花**”の続編です。ニュースレターには本文のシロクマに関する部分だけを掲載しています。前編は、夏の氷が融けるのをチャンスと見るビジネスの活気の話でした。カナダの北極に面した人口900人強の町チャーチルの内側記事で、前編を読まなくとも感じがつかめると思います。

<http://www.timesonline.co.uk/tol/news/environment/article3362887.ece>

チャーチルの町の外に住む人たちにとってはちょっと事情が異なる。北側のヌナブト地区におよそ3万人のイヌイト(旧名エスキモー)が住む。気候変動による変化を同じようにドラマチックに捉えているが、けっして良いとは思っていない。“コマドリやバツタなどの新しいものが現れてきている。”

大西洋では、これは春の幸せとは違う。同時に、氷から人が落ちた、動物の群れが減ってきた、季節外れの風が屋根を飛ばしたなどのニュースも耳に入る。地球温暖化は良いこともあることは自覚している。チャーチルから物が早く届くし、旅行ブームは工芸品商売にも良いだろう。しかし、ビーズ細工品が沢山売れてもエコ・システムの急激な悪化を補うことはできない。

“カリブーに蚊の病気が増えるだろう。俺たちが食べる動物が病気になったら、俺たち何食べればいい？どうやって生きていけばいい？”

多分、シロクマも同じように聞くだらう。チャーチルが新しい時代の繁栄を迎えても居場所がないのだ。最後の氷河期から少なくとも 1000 年の間、秋にはハドソン湾の端に集まり、あざらしや他の獲物を狩りながら北を目指す凍結を待っていたのだ。暖くなればなるほど移動が遅くなる。氷原にいる期間が短いというのはそれだけ食べ物にありつけない、痩せて生まれる小熊も少なくなるということなのだ。1980年代の中ごろからシロクマ人口は減り、1200頭から今は1000頭以下だという。

ヘリコプターから見ればすぐ分かる。以前なら11月の終わりまでには北に向かってしまっていなかったのが、今ではまだいる。湾の端をうろうろしながら、餌を食べに行ける堅い氷を探している、しかし、しっかりした入り口を見出せないのだ。その代わりに、はずの葉のような氷の上で惨めさと闘っているのだ。

“今のままだったら、シロクマは2040年までにはいなくなる。恐ろしい考えだけど。”とヘリのパイロットは言う。ちょうど、小熊を連れた母熊が浮き氷に手足をかけて伸び、行く道を探している。“危ないよ。氷に乗るのに必死なんだ。なんとかチャンスをものにしたいと思っているんだ。”

ヘリのパイロットは、2040年というが実際のところ誰にも分からない。一世代、二世代、三世代、予測はこのまま気候変動が続き、動物たちが生息場所を捨てるまでにどのくらいの時間がかかるかで変わる。

米国の野生動物学者、ジェーン・ウォーターマン博士は厳しい見方でこう言う。“スラピース”(アメリカ7-イレブンの氷飲料)を飲むことを学ばない限り適応できないでしょう”。

シロクマが野生種として絶滅するかどうかは論争的である。そんな恐れなどない、気候変動警告屋のポルノ(すぐ見飽きる?)みたいなものと一笑するする人もいる。12月英国BBC放送は、11万年前のノルウェーのシロクマのあごの骨が発見されたと報道した。それは、前の温暖化の急上昇でも生き残ったのだから今回も大丈夫だろうということを示唆する。

生物学者のプロガーは希望的観測を提唱する。“氷原から追われるシロクマは、生き残ってグリズリーとの混血種となって数が増えるのではないか”

普通は、これはしろくまの遺伝子プールが薄まり、結局撲滅することだから“悪い”と見られる。しかし、そうではないだろう。むしろ、氷が再び戻ってくるまで温暖期間を生き延びてシロクマ遺伝子が存続するひとつの方法かもしれない。

もしこれが21世紀を流れる楽観主義とすれば、チャーチルのシロクマは実際悩まなければならない何かがあるのだろうか、他の地域の動物相も心配することなどないのではなかろうか。

ツアーガイド、ケルシー・エリアソンは、“ここは、カナダでも野生動物を見るには最高のところ、カリブー、ムース、銀キツネ、数え切れないほどの鳥の種類、全部いる”と言う。

夏には、ペルーガくじらがハドソン湾に集まる。しかし、今は、種の40%はすでに北に移動してしまった。悪い前兆なのだ。チャーチルのレミュは言う。“エコ・システム生態系全体が変わっている。シャチ(キラークホエール)がハドソン湾にやってくるのなんか初めてだ、ペルーガくじらを食っちゃった。”

逆説だが、これからの短期間のことにせよ、シロクマを見るのが楽になった。移動するのが妨害されたシロクマが食べ物を求めて町に現れ、旅行者にちょっとしたスリルを与えている。(野生動物局のショーン・ポビーは、1983年以後シロクマに被害を受けた人はいない。そのときだってポケットに肉を入れていたからだ、と言う。)そういう危険があれば、シロクマで成り立っている環境協会のリーダーたちが総動員されて人を守らなければならないと思ってしまうが、そんな危険は大げさに言われているだけ、と繰り返し強調する。

“シロクマの頭数が減っている？誰の話ですか？さんざん薬を打たれ、引きずり回され、研究の一時停止を見たいものだ。”と旅行会社のポール・ラトソンははき捨てるように言う。

シロクマの生活が脅かされていると感じているかとの質問に、別の旅行会社のバレリー・ケリーは答える。“分かりません。とにかく、旅行者は増えています。気候変動がそれほどひどくなるのかどうか知りません。”

実際は、**科学者、ジャーナリストや他に神経質な男か女か分からない連中が突然、まるで気の狂ったカモメみたいに白熊たちに襲い掛かるように長期滞在して以来、ガイドたちは、来る人に何を考えるべきか何をすべきかを伝えるために、今まで考えたことがないことを考えなければならなくなったという。**

ケルシー・エリアソンは、彼のブログ“シロクマの裏通り”に、こう書いている。“メディアの気候変動記事は、科学なのだろうが、あまりに捻じ曲げられていてもう読む気もしない。もっとも警告的な統計だけが流されていることも知っている。‘シロクマが危険にさらされている’ことに単純に同意できないなら、怖いものを見ないように頭でも隠して、さっさといなくなればいいと思う。‘シロクマはおなかぺこぺこ’がここでのジョークになっているくらいだ。”

旅行ビジネスは、お金目当ての人たち、チャーチルのグローバルな未来の設計者たち、に置き去りにされている。

日ごとに、地面はやわらかくなり、ドリルで穴が開く。過去2年間に、港には砂利トラック、ブルドーザーなど鉱山機械が溢れ出し、ニッケルやパラジウムなどを永久凍土から引きあげようとしている。本物のダイヤモンドや金までも。

“政府は、ツーリスト・ルートである数千エーカーの土地に鉱区を与えてしまった。町の12マイル(約20Km)東では鉱区をリースした。それはツンドラの半分を占め、車両の轍(ワダチ)だらけだよ。”とエリアソンは言う。

今でも荒れたままの鉄道だが、ポール・ラトソンが、“乗客よりも穀物の方が多いのだ、今年も。こんなこと今までなかった。どこでも、仕事と環境は衝突するだろう。仕事**が常に勝つ。俺たちが何をしたいかなど問題にされない。それが嫌なら他に行くだけ。**”

もしかすると酔って言ったのかもしれない。

チャーチルだけが温暖化の時代にお金持ちになるために賭けているように見えるが、そうではない。

グリーンランドの氷が全部融ければ、世界の海面が20フィート(6メートル)上昇する。しかし、新会社グリーンランド・ビールが冰山から本物の自然水を使ったビールを新発売。少なくとも2000年以前の水と完全汚染なしの保証つき。ガイドブックが“かくもうつくしく風味豊かな”と評した。

地球温暖化は、旅行業界にある種の“慰め”を与えているのかもしれない。これまでの定番が後退して、新しい売り物を与えている。ニッチ・マーケット“気候変動ツーリズム”が受けている。環境惨事の光景を呼び物にしたフィールド・トリップなどもある。これが1990年以来北極ツーリズムを50%も増加させている。最近、ノルウェーを出発した気候変動ツアー船は氷河壁の落下に運良くめぐり合い、ぶったまげのような海水が船に押し寄せた。“それは、もう興奮したわよ”68歳のご婦人は手すりに抱きついて、そう語った。

ケルシー・エリアソンや他の人たちが我慢ならないのは、“(北極の)臨終をみとるみたいなメンタリティ”なのだ。空が落ちてくる(北極の氷がなくなるというびっくり仰天)のを信じたくないということもあるのかもしれない。

“シロクマのペニスが小さくなっているなど読むのにあきあきした。クマがいなくなる前に見ようと来る人にもうんざり。(環境調査の)チェックリストや罪悪感みたいなもので来る人も嫌だね。単に野生動物を見に来て欲しい、本当に、本当にここはすばらしいのだからね。”

すばらしいレポートを書いてくださったザ・タイムズの記者
ポープ・ブロック(Pope Brock)さんに感謝します。

2008/03/20

省エネ、ごみ分別、エコバッグ、マイ箸、リサイクル、全部やっています。まだできることがある！



政治・行政・産業と新しい関係、それが質の良い社会を創る。温暖化時代だから意味ある“知る努力”

News Letter 最新 4月20日号

Carbon Neutral & Politically Neutral

- 家で充電できるハイブリッド・カーが必要
- 原子力発電はクリーンか？
- 地球を冷やす、どうやって？
- 食料危機は誰のせい？
- 太陽＋水＝石油＋石炭＋メタン

Physical & Mental Health

- “書くこと”、がん患者人生の質を改善する

(米)NYタイムズ、(英)ザ・タイムズなどから

昨日正しいと信じたことが、今日、間違っている。バイオ燃料の補助金政策が、たった一週間で、変わってしまいました(米国で、3月に起こった生々しい実例—既報)

地球温暖化は、誰も経験したことはありません。狭い分野の専門家はいても、全体図を見ることができる人はどこにもいません。これまで、私たちは、情報を持つ政治家や行政の指導を頼りに生きてきました。しかし、今度ばかりはそうは行きません。

私たちが情報を持てば持つほど、政治も行政ももっと質の高い仕事が必要され、そして、彼らには、そうする能力があります。

インターネットのお陰で、世界の最新情報が手に入ります。しかも、欧米の情報はフィルターが少ない。さらに、海外で起こったことは、2-3年後に日本でも同じことが起こります。それらの情報を知れば、政治や行政を見る目が変わります。日本の新聞の読み方も変わります。日本を良くする、静かで、知的なパワーになります。

- 購読者数を政治や行政に伝えます。
- 三つのおまけ。(企画中。ここにはありません)

小・中生の英語を
励ますお母さんに

英語力を付けよう
とする人に

生きにくさを克服し
たい人に

ネイチャーの4月最新号に、“既存技術”で温室効果ガス排出削減は無理、新技術が必要という記事が出て話題沸騰。どんな技術が必要か？

- 家庭で充電できるハイブリッド・カーが必要

地球温暖化のエネルギー資源として避けては通れない原子力発電の是非。英国事情。賛成派と反対派はほぼ同数ですが、34のコメントが寄せられています。

- 原子力発電はクリーンか？

1960年代から、ほんの一握りの科学者が、地球温暖化に対処する壮大な方法を考え出した。太陽光をさえぎる庇(ひさし)を軌道にかぶせる。雲を利用して太陽光を反射させてしまう。そして、海に仕掛けをして温室効果ガスを海の底に沈めてしまう。地球の温度が実際に上昇し始めた80年代まで誰も見向きもしませんでした。地球工学と呼ばれる分野です。今も、論議的。

- 地球を冷やす、どうやって？お母さんとお子さんの会話に

- 1) がんがあなたをどう変えたか？
- 2) 変わったのをどう感じるか？

- 書くことが人生の質を改善する



世界各地で食料暴動が発生している。ウクライナからアルゼンチンまで食料輸出国では消費者を守るために輸出制限。どうしてこんな事態になったのか？

- 食料危機は誰のせいなのか？

米国コロラド州、セレブのリゾートとして知られるアスペンという町。3月26日から28日まで、“環境問題に関するアスペン・フォーラム”が開催されました。

- 太陽+水=石油+石炭+メタン



発行元: C&Hコーポレーション

No rights reserved except photos which belong to original sources



母が、最初にガンと診断されたとき、それまでしたことないことをしたのです。感情を書き綴り始めました。母は、いつでも忙しかったので、日記を付けることはしませんでした。しかし、ガンと診断された当初から、頭に浮かんだことを書き綴ることが死に向き合うことを助けてくれることを発見したのです。

<http://well.blogs.nytimes.com/2008/02/26/the-power-of-words-for-cancer-patients/?ex=1204866000&en=8332e52ec67ecbba&ei=5070&emc=eta1>

今月、多くのがん患者が本能的に知っていること医療学会誌が追認する。これまで管理された実験室での試験は、書くという表現方法が、肉体的、心理的な健康に良いということを明らかにしていた。しかし、最新の研究は、治療待合室で行われた実世界のものである。首都ワシントンのロンバルディ総合がんセンターの研究者たちが、順番を待っている白血病とリンパ腫を持つ71人の成人に、心に思うことを書き綴って貰い、書く行為の効果を研究した。患者は、ふたつの質問に答えるよう求められた。

1) **がん発症があなたをどう変えたか**、そして、2) **変わったことをどのように感じるか**、である。

書き終えて、患者の半数は、書くことで病気についての考えが変化したと答え、35%は、病気に対する感じ方が変わったと報告した。書いて3週間後、効果はそのまま持続した。患者の中で、書く行為がもっとも影響を与えたのは、より年令の若い患者と最近診断を下された患者であった。患者が思ったり、感じたりすること自体は大げさなものではないが、発見は、**短くとも書く**という行為が、**人生の質を改善する**ということである。“がんに関係する**考え方や感じ方**、あるいは、**認知過程と感情**というものが、書くことの鍵となる要因で、それが精神健康上の利点をもたらす”と、センターのアートと人間性プログラム部長のナンシー P. モルガンは言う。“単に事実を書くだけでは利点を示さなかった。”研究者たちは、書いた内容も分析した。ほとんどの患者は人生を変えたと記した。多くが、**変化はポジティブ**なものだということ、そして、**がん**に罹ったことで、**家族、精神性(スピリチャリティ)、仕事**そして将来に対する見方が、**良い方向**に変わったと書いている。

ひとりの患者はこう書いた。“間違わないでください。**がんは私の人生への贈物ではありません。がんが、私の人生に対する贈物が何か教えてくれた**ということです。”

● 食料危機は誰のせい？ 穀物狂騒曲

もくじにもどる

小麦、コーン、米などの穀類の価格が2倍から3倍になっているが、値上がりは特にこの2-3ヶ月の間のこと。食料費が家計の半分以上を占める貧困国では破滅的という。世界各地で食料暴動が発生している。ウクライナからアルゼンチンまで食料輸出国では国内消費者を守るために輸出制限。どうしてこんな事態になったのか？NYタイムズ4月7日のポール・クルグマンの分析。

http://www.nytimes.com/2008/04/07/opinion/07krugman.html?_r=1&hp&oref=slogin



- 中国人がこぞって肉を食べ始めたこと。経済成長で裕福になって西洋人のような食生活になったこと。牛肉100カロリー分のために約700カロリーの飼料が必要。これが、穀物の需要を増大させた。
- エネルギー集約型の近代農業は、肥料製造、トラクターなどの機械、消費者地への輸送に膨大なエネルギーが使われる。バレル100ドルを超えた石油価格が農産物コストを急激に上昇させた。
- 悪天候。特に、オーストラリア。普通は世界第2の小麦輸出国だが、大規模な早魃に見舞われた。

これら三つの要因は、誰のせいでもないと言ったが、必ずしもそうではない。(石油が安くなると推進した)米国のイラク侵攻も、石油供給を減少させてしまった。オーストラリアの早魃は、おそらく気候変動と関係があるから、温室効果ガス排出削減に適切な措置を採らない政治家や政府は、食料不足に相応の責任がある。しかし、間違いが明らかなのは、**悪魔のようなエタノールと他のバイオ燃料の補助金**だ。石油からの代替エネルギー推進と地球温暖化に役立てようと作物を燃料用に転換させた政策は、タイム誌がずばり言うように、“詐欺商法”だ。しかも、ブラジルのサトウキビ・エタノールのように、熱帯雨林を伐採して逆に気候変動のペースを促進している。さらに、バイオ燃料原材料を生育する土地は食料を生産することはできないから、バイオ燃料補助金政策は、食糧危機の主要因。しかも、食糧危機がひどくなればなるほど、悦に入っている市場プレーヤーもいる。…どうすべきか？

- 緊急なのは、困っている人々への援助だ。国連の食料計画は、絶望的に資金の必要性を訴えている。
- 同時にバイオ燃料に対する反対も必要だ。大きな間違いをしかしたと分かったのだから。

.....しかし、どこまで可能か分からない。安い食料、安い石油は多分過去のものなのだろう。

● 家庭で充電できる太陽光発電とハイブリッド・カーが必要

もくじにもどる

権威ある科学誌のひとつ、ネイチャーの4月最新号(右)に、「気候変動に関する政府間パネル(IPCC)の昨年の報告は、“**既存技術**”で温室効果ガスの排出量を削減して安定化できるという結論だが、それはいかにも**甘すぎる**、技術進展にもっと焦点をあてなければならない。」という3人の著名な研究者からの指摘が掲載されました。 <http://www.nature.com/nature/journal/v452/n7187/>



この記事が出るや否や、米国内外の著名な経済学者、気候専門家から、その通りだ、地球温暖化に対するIPCCのアプローチは欠点だらけという声がいっせいに上がりました。**どんな技術が必要なのか**、IPCCの報告書の**執筆者はどう考えているのか**、NYタイムズが報じています。

<http://dotearth.blogs.nytimes.com/2008/04/02/the-technology-gap-in-the-climate-debate/>

国連のアドバイザーで、コロンビア大学の地球研究所の代表を務める経済学者、ジェフリーザックス博士の見解:

- いかにも無駄なエネルギー消費を削減しても現在の技術で炭酸ガス排出量の削減と膨張する世界経済を支えることはできない。まったく新しい技術の組み合わせなしに排出量を抑制しようとするれば、数十億の人口を支える経済は行き詰る。
- 三つの技術を考えなければならない:**炭素捕捉と封鎖(CCS)**、(家庭で)**差込口から電源補充できるハイブリッド・カー**、そして**集約的太陽光熱発電**である。これらは、今の技術の単なる延長線上にはない。それには応用科学研究、重要な規制の変更、適正なインフラ、大衆の受け入れ、そして高額の初期投資が必要である。

これらの批判に対し、IPCC報告の主執筆者、ボストン大学の社会政策教授、アディル・ナジャムはEメールで報告書を弁護した。

- IPCC報告書はけっしてばら色の絵だけを描いているわけではない。またザックス博士やネイチャーの執筆者の見解と対立するものでもない。**既存の技術で多くのことができる**、明確な違いを起こすには十分だということを言っている。しかし、技術革新の必要ことは間違いない。この議論で私の懸念は、技術だけでやれると思ってしまうことだ。それだけでは駄目だ。**ライフスタイルが変わらなければならない**。どんな家電製品があるかだけでなく、住む家がどこにあるかということだ。このほうが**技術以上に大きなチャレンジ**だ。

● 太陽+水=石油+石炭+メタン

この会議の注目点のひとつは、マサチューセッツ工科大学のエネルギー教授、ノセーラ博士の“光合成を利用して太陽光を化学燃料に変換する研究”が白紙に戻ったということ。しかし、博士は依然として強気で、“すべての科学者のいきつくところは太陽光が答えになる”と言い、太陽光+水で、石油+石炭+メタンに等しくなるという化学式を示した、とNYタイムズが報じています。テラワットという単位が出てきますが、無視してください。世界の電力事情の恐ろしい話(?)ですので、博士の言い分を紹介します。



米国コロラド州、セレブのリゾートとして知られるアスペンという町。3月26日から28日まで、“環境問題に関するアスペン・フォーラム”が開催されました。科学者、政治専門家、経営者、環境運動家などに限定された会議で、アスペン研究所と雑誌“ナショナル・ジオグラフィック”の主催です。

<http://www.aspenenvironment.org/>

<http://dotearth.blogs.nytimes.com/2008/03/27/all-energy-roads-lead-to-the-sun/>

今、人類の使う電力は、12.8兆ワット(=12.8テラワット)。2050年までに人口が90億に向かっているので、30テラワット必要。石油と石炭で賄うとすれば地球は確実に過熱する。残りの18テラワットを確保するのは大変。

- 地球上のすべての工場の電力をなくする。7テラワット稼げる。しかし、工場生産の食料はないから、食べない。
- 原子力発電所。10億ワットの発電所を1.6日にひとつ、2050年まで作り続ける。それで8テラワット稼げる。
- 地球表面のすべてに風力発電をやれば2テラワット可能。
- すべての河川にダムを作って(水力発電)1テラワット可能。

“食べない、あらゆるところに原子力発電所、死んだ鳥がどこかしこに、すべての川にダム、それでこれから40年間何とか生き延びる算段をする。”

一方、太陽は800テラワットのエネルギーを常時降り注ぐ。そこから、たった18テラワット取るだけ。医療研究と基礎研究に費やしている研究費を30として、エネルギーの研究開発費はたった1。地球の病を治すのにどれだけお金を使うべきか、考えよ！



原子力産業は、**化石燃料よりもクリーン**という表現で息を吹き返している。一面ではたしかにそうだ。政府の発表数字では、単位電力あたり原子力発電からの炭酸ガス排出量は、天然ガス発電の排出量の2-6%に相当するという。この数字はウラニウム工程から発電所建設、放射性廃棄物の処理まで含む。

しかし、本当にクリーンな電力資源か？

論議を飛ばしすぎていることを承知で言おう。ウラニウムの採掘は、基本的に環境に有害という副産物がある。地表水や危険な液状廃棄物は大きな被害となる。原子炉を冷却するための莫大な水が必要なので大量の魚が死ぬ。そして、勿論核廃棄物の問題がある、放射能として数百年、数千年にわたって危険がある。だからといって、核エネルギーが悪い選択肢とは言えない。風力や波動エネルギーなどの再生エネルギーも環境破壊の副産物につきものだから。

適切な計画と長期にわたる廃棄物処理とウラニウムの安全な採掘に対する政策があれば、原子力発電の環境への影響を小さくする方法もある。しかし、これは原子力発電反対の一番の理由に対する答えにはならない、つまりこのテクノロジーを拡散することで将来ごろつき国家やテロリストによって間違いを起こさせるようなことを許すことで、人類と環境の両方に核による破滅の道を整えてしまう可能性だろう。

現在推進しようとしている原子力発電所の動きの中で、**政府が真剣に取り組んでいないこと**のひとつが、この気の重い議論ではないだろうか。**皆さんの意見は？**

<http://timesonline.typepad.com/environment/2008/03/nuclear-energy.html>

今年、3月28日のザ・タイムズに、オンラインの担当、ロビン・バグナメンタが、地球温暖化のエネルギー資源として避けては通れない原子力発電の是非を、読者に問いかけています。今日まで、34のコメントが寄せられています。

賛成派と反対派はほぼ同数ですが、次ページにそれぞれの代表的なコメントを紹介しておきます。

Posted by: Matt Hall | [1 Apr 2008 20:44:31](#)

- 原子力発電は炭酸ガス問題をもっと長期的で危険な問題で置き換えることになるだけ。本当に地球温暖化を食い止めたいのか？それとも将来の世代に“地球灼熱炎上”という問題を残したいだけか？もっと危険性の小さい選択肢がある。

Posted by: TashaL | [1 Apr 2008 15:13:53](#)

- 電気代を何倍払いたいのか？他の発電なら2倍、原子力なら4倍。建設に、メンテナンスに補助金、それも使用期間に渡って、それに廃棄処理にも補助金。(税金はあなた、あなたの子供、あなたの孫からも支払われることになる。)

Posted by: Wes Byrd | [1 Apr 2008 07:01:14](#)

- 原子力発電は長期的解決にはならない。石油がなくなり始めるときのための短期的な解決策だ。代替エネルギーの開発が必要。個人的には原子力よりきれいなエネルギー源が好きだが、代替エネルギーができるまでは、あるものすべてを使わなければならないのだから。

Posted by: Jeff Eerkens | [30 Mar 2008 22:41:20](#)

- “核廃棄物が云々”という決まり文句は、無知の表れ。原子力発電反対狂信者だけが実体のない問題を作り出しているにすぎない。われわれが泥壁の小屋に住んでもならずもの国家の核兵器の開発を止めることはできない。反応炉の核燃料が仮に盗まれたとしても、そこから核兵器の材料を再加工するには、1000億円もの装置が必要だ。太陽光も風力発電もテラワットの電力を必要とする産業に対して経済的に供給することはできない、合成燃料も石油に代わることはできない。

Posted by: Edward Corbett | [30 Mar 2008 02:40:06](#)

- 問題の本質は人類の増加が地球の限界に近づいているということだろう。人口を急速に減少させることが必要で、一家族ひとりの子供の政策が、ほとんど唯一の選択肢ではないのだろうか。石炭にするか原子力にするかのような論議でなく、見過ごしている問題の核心を見ることが必要だろう。

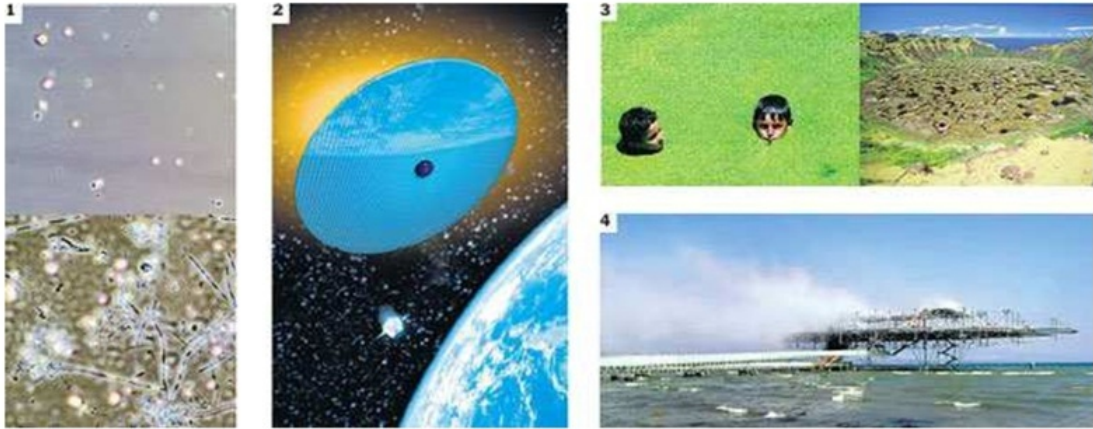
Posted by: Jack Alpert | [28 Mar 2008 14:38:08](#)

- ホピ族(アメリカン・インディアン部のひとつ)の預言が当たって、地球が炎の球になり、テクノ魔術師が人類を遺伝技術で作られた宇宙のはるかかなたの新しい故郷に運んでくれるまで、原子力の安全がどうの、危険がどうのと議論していればいだろう。それまで、石炭、石油、原子力、風力、バイオ燃料、あるいは太陽光発電を使うかもしれないが、本当の心配は、誰が所有するかどうかだろう。原子力はけっしてコミュニティーによって所有されない。

● 地球を冷やす、どうやって?.....お母さんとお子さんの会話のために

もくじにもどる

1960年代から、ほんの一握りの科学者が、地球温暖化に対処する壮大な方法を考え出した。太陽光をさえぎる庇(ひさし)を軌道にかぶせる。雲を利用して太陽光を反射させてしまう。そして、海に仕掛けをして温室効果ガスを海の底に沈めてしまう。地球の温度が実際に上昇し始めた80年代まで誰も見向きもしませんでした。地球工学と呼ばれる分野です。今も、論議的的です。



1 海洋に鉄養分を与えて、大量の植物を生育させ膨大な炭酸ガスを飲み込ませ、植物が死んだら、深海に沈める。鉄分を補給する前後の実験写真。2 太陽光をさえぎる巨大な鏡。3 左はパレスチナのある村の藻に覆われた貯水池、藻が大気の炭酸ガスを捕捉する。右は火山噴火によってできたクレータの湖。4 雲を作り出す実験例(スイスEXPO '2002)

<http://www.nytimes.com/2006/06/27/science/earth/27cool.html>

● 地球を冷やす、どうやって？(つづき)

もくじにもどる

以下は、昨年12月のパリ島のIPCC(温暖化政府間パネル)に先立つNYタイムズの地球工学特集からです。最後に、同じくNYタイムズの昨年11月の記事にある[動画サイト](#)も紹介します。お子さんと一緒にどうぞ！

世界で著名な科学者たちが、地球温暖化の懸念が拡大する今、このような提案を確かめる必要があると言い始めた。これまで、**邪道と考えられてきた方法**でも、急速に地球を冷やす必要が生じた場合、**万が一の非常手段として研究**することを呼びかけ始めたのだ。“他の研究と同じように捉える心構えが必要だ”とワシントンの全米科学アカデミー理事長ラルフ・シセローネ博士は語った。発表当時非難的になって片隅に追いやられたノーベル賞科学者の論文を蒸し返してドロを被るリスクを恐れず、その論文が発表されるよう支援した。

非難的になった科学者は、1995年に工業排気ガスがオゾン層を破壊するメカニズムを解明してノーベル賞を受賞したドイツのマックス・プランク化学研究所のポール・クルツェン博士。大気科学のスター化学者だ。クルツェン博士が、**成層圏に硫黄を撒く**という論文を発表したとき、“無責任きわまりない”とする声が多く**の著名な科学者たちから上がった**のである。さらに、博士は、最新の論文で、そうすることの**リスク(危険性)とベネフィット(利点)**を発表したのだ。

シセローネ博士は、温室効果ガスの削減をはかることが第一であると強調しながらも、“私の意見では、彼はすばらしい聡明な論文を書いた。彼のような提案が正しく使われれば、ひとたび地球が加熱しすぎて危機に陥ったとき、**保険のように**使えるだろう。”と話している。しかし、多くの科学者は、依然として地球工学をあざ笑う。それは、利点よりもはるかに**リスクが大きく、潜在的に悪い副次的効果がある**からだという。1997年頃には、水素爆弾の発明を主導したエドワード・テラー博士が、“**太陽光を散乱させる粒子を成層圏へ投入するアイデア**は期待が大きいのに、どうしてやらないのか。”と米国一流紙に書き、支持する有名科学者も現れた。しかし、政府機関はそのような型破りな研究には尻込みした。コロラドの国立大気研究センターのジョン・ラーサム博士は、**海面に近い雲に塩水を散布して反射を増加**する試験を長年追い続けてきたが、政府から研究支援を受けることができなかったと当時の事情を語っている。

硫黄を撒くプランは、温室効果ガスによる一種の成層圏汚染を他の汚染(二酸化硫黄)で叩こうというもので、地表面の硫黄の増加は、化石燃料による温室効果ガスの膨大な排出量に較べれば、わずかに過ぎない。
クルツェン博士は、論文の中で成層圏への硫黄投入の年間研究コストは、500億ドル(約5兆円)で、世界の年間軍事費の5%であると推計している。
“もし、世界が温室効果ガスの抑制に失敗すれば、気温上昇を素早く低下させる唯一の選択肢がこのような方法だ。しかし、今のところ、この研究の実施ができるかどうか楽観できる要素はほとんどない。”と博士は言う。

炭酸ガスによる地球温暖化は結果であって意図はなかった。しかし、地球工学は意図的に環境を変えようとするものだから問題がある。また、エコシステムなどにどんな影響を及ぼすか分からないので研究自体に問題がある、等々、倫理的でないとする議論もあります。<http://climateethics.org/?p=24> に倫理上の問題が整理されています(英文)が、このふたつが主要点ですので、省略します。

● You Tube で映画を見よう:温暖化を防止する未来型コット

[もくじにもどる](#)

Ctrlを押しながら、下記のURLをクリックするとNYタイムズの記事が現れます。その中ほどにYou Tubeの画面があります。スタートをクリックするとほぼ10分間の素敵な映画です。英語を聞き取れる人は、すぐどうぞ。そうでない人は、その前に次のページの概要を読んでから、お楽しみください。

<http://dotearth.blogs.nytimes.com/2007/11/11/more-heat-on-ways-to-lower-the-thermostat/>

You Tube

スタート
▼
□

「太陽光にひさしを用いるのが輻射熱をさえぎる唯一の方法だが、雲を利用する考えの科学者がいる」、というナレーションではじまります。(概要は次ページ)

You Tube の使い方: 画面の上部をクリックすると別のサイトに飛び、そこでもOKですが、不安定です。NYタイムズの画面をご覧ください。矢印をクリックすると、サークルが現れたら始まります。

1. 飛行機の中。イギリスの物理学者テイタム博士(ふとめの方)とエンジニアのソルター博士。
2. サンフランシスコは霧の町。霧が太陽光をさえぎり、天然のエアコンで、午前中はいつも涼しい。(アナウンサーが、サンフランシスコ、ベイエリアはいつもの典型的な霧の朝(Typical foggy morning)を迎えました、Good Morning, San Francisco!)
3. 雲の上の方が光っている部分の厚さは2-300フィート(約60-90メートル)ぐらいで、太陽光を反射して大気に熱を戻している、とテイタム博士。
4. サーフィンの場合。双眼鏡を覗いているテイタム博士が、“波がブレイクすると、大量の空気が海に押し込まれ、それが、泡になって空中に飛散する(白い部分がそうです、と)。海の泡のサイズが実験したい水滴の大きさ。”
5. 3本マストのヨットはソルター博士のデザイン。コンピューター・グラフィックの図。実物ではありません。(マストの)円盤が風で回る(これは、1920年代のドイツ人の発明と...)。円盤が回って生むパワーが半径3メートルのスクリューを回転させ、その回転力でマストのてっぺんから空に向かってスプレーガンのように海水を発射させ、雲を大きくして反射力を増す工夫。
6. ボートを洗っているスプレーガンの水は小さな水滴になって蒸発する。マストから空に飛び出る水滴は、3倍の圧力で直角にぶつかって上に飛び散る。海水の塩分の粒子は蒸散せずに雲に届くと蒸発した淡水の粒子が回りに付き大きくなって雲を厚くし、太陽光の反射を大きくする。
7. 世界の温度を安定するのに、年間、1秒間に500kg(500リットル)の海水を噴射するだけで良い。一艘のヨットが10kg噴射できるので、50艘のヨットが必要。世界の海の上空に最適な雲がかかる場所に行ける。他の方法に比べ、安価にできる。
8. 温度を勝手に変えるとエコ・システムを壊す恐れがあるとのナレーションに対して、“おかしなことが起こりそうなら、その時点で中止すれば良い。”
9. 温度は下がるが、サンフランシスコのように霧の中で暮らす必要はない。
10. NASAの会議で、受け入れられて良かった。以前は、敵視されていた。(テイタム博士の感慨深げなコメント)
11. 愚かにも、私たちは炭酸ガスを排出し続けてきました。削減が上手くいかないと、温暖化が加速した場合、危機回避の万が一のために...生きている間に実用化されるといいのですが...。後は政治家の知性にかかっていますが、これ以上は言いません(ソルター博士の最後の言葉)。

省エネ、ごみ分別、エコバッグ、マイ箸、リサイクル、全部やっています。まだできることがある！



英語など下手だって構わない。もっと世界に声を上げよう。内輪だけでは間に合わないかもしれない。

News Letter 最新 5月20日号

- **シロクマを守る気があるのか？***
5月14日の米国の対策をめぐる大論争
 - **燃料、食料危機、の犯人探し**
日本にも影響がすでに始まった、問題の本質は
 - **ポスト・アメリカ時代**
連休明けの論争。米国の時代は終わったか？
 - **チベット問題から西と東の嫌悪感増大***
エベレスト聖火記事を、世界の若者はどう見る
 - **日本人に人権擁護を謳う権利などない！***
第二次世界大戦の日本を見る目が……
- *には私のコメントもあります。シロクマは次回。

これまでのニュースレターは、お前のやることとは違うとお叱りがありました。英語に関するおまけを開発して驚いたことがあります。長野の聖火リレーに関して世界の若者たちから、いっせいに日本人非難が湧き上がりました。一方、日本のミクシーなどのソーシャル・ネットワークでは、反中国、日本民族主義礼賛のコミュニティーもたくさんあります。過去に捉われ、民族が互いに嫌悪を抱く。すべての紛争の種になります。そして、紛争はすべて温暖化を含めた地球の将来にとって大変なことです。意識を高めるなどの悠長なことは言っていられない。自分から言い出さなければならない。

その試行錯誤から、今回のニュースレターは、当初の予定より大変遅れました。内容も変わりました。自分が世界に向かって発信する。同時にもっと若い日本人からの声も発信して欲しい。そんな願いを込めてこれからの活動にしたいと思います。今後ともよろしく願います。

- 世界に私の、私たちの意見を届けます。
- 若い発信者を応援します。(企画中)

世界のメディアに
投稿しよう！

外に発信する英語
力を付けよう！

生きにくさを克服し
たい人に！

チベット事件で、北京オリンピックをめぐる西側の中国批判が強くなっています。対する中国民族主義者の欧米批判も加速しています。地球温暖化防止は、中国抜きに考えることはできず、いかなる紛争も不調和もマイナスです。今回は、その状況と日本を考える特集です。

オリンピック聖火のエベレスト登頂記事で展開される欧米読者と中国愛国主義者の言い分。

- チベット問題から西と東の嫌悪感増大

4月26日の長野のオリンピック聖火リレーの記事が、イギリス、ザ・タイムズに掲載されるや、中国や西欧から日本の過去に対する猛烈な批判のコメントが寄せられました。その一部始終をくまなく見て、今、日本がどう見られているのか、改めて振り返ることが必要と思います。

- 日本人に人権擁護を謳う権利などない！

米国の一極集中に対する賛美が、5年後の今、**ポスト・アメリカ時代**に突入したとする論調に変化。世界構造はどうなるのか？新出版をめぐって米国内大論争。



やっと、日本でも食糧不足を実感する昨今です。もう対岸の火事などと呑気なことと言ってられない。NYタイムズのニュース分析。

- 燃料、食料危機、の犯人探し

5月14日、米国は絶滅危険可能性リストにシロクマを追加した、が地球温暖化とは何ら関係ないとして、北極の油田開発に影響ない対策案のみ・・・？

- シロクマを守る気があるのか？



発行元：C&Hコーポレーション

No rights reserved except photos which belong to original sources

● シロクマを守る気があるのか？



米国内務省は、シロクマの絶滅危険性について、丸一年調査研究を行ってきた。保護種に認定するかどうかの結論は今年の初めに出される予定であったが遅れていた。環境グループは、結論を早める訴訟を起こし、連邦裁判所は4月29日に、結論のデッドラインを5月15日に設定した。そして、5月14日、その結論が発表された。しかし、何ともあやふやな説明に終始した。

<http://www.nytimes.com/2008/05/15/us/15polar.html?ref=science>

今回の結論は、現在の米国の基準の2番目の危機段階のもので、絶滅種認定(1番目)になるかどうかのリスクを見極めるため、頭数回復のめどがなければ、1番目の指定になり、もっと大きな保護を必要とするというもの。

- 結論を発表した内務省のダーク・ケンプソーンは過去30年間の劇的な氷原減少とシロクマの今後の減少予想を示して、北極グマが近いうちに絶滅する危険性があると説明したが、今回の結論は、温室効果ガス削減、あるいは広く捉える気候変動に対応するものというは“全く不適切”と付け加えた。それは、最近発表されたブッシュ大統領の見解を反映したもので、北極における発電所の建設から石油や天然ガスの探索の経済活動に悪影響が出ないようにしながら、シロクマ保護行政や制限を行う計画であり、ケンプソーンは、“このリストへの追加決断をホワイトハウスと相談したが、“これが私の決断でないという助言を貰う時間はなかった。”と語ったという。
- 彼は、同時に、アラスカからグリーンランドまでの地域でシロクマの数は、1960年から12000頭から25000頭に増加したが、今世紀の半ばまでシロクマが現在の2/3が消滅するという国務省科学者の結論を紹介した。
- シロクマに対する危険は、氷原消失によるもので、原住民の生活のためのハンティングやエネルギー開発によるものでないと強調し、アラスカ原住民の生活のためのハンティングは許されるが、スポーツ・ハンティングを禁ずる。(カナダは限られたスポーツ・ハンティングは許可される。)
- ブッシュ政権は、“シロクマを溺れさせるか泳がせようとしている。”(エドワード・マーケイ、地球温暖化防止議会委員長)、“シロクマが生存できるかは、油田開発を制限しない限り無理だろう。”(ジョーン・ケリー上院議員)
- “これは名前をリストに掲載しただけで、現状を変えるものでないし、先もない、”として環境保護グループは、今回の結論に反対訴訟の準備を綿密に計画している。



高騰する食料価格について、食糧作物を燃料作物に転換した欧米の政策は間違っていたかもしれない、エタノールをどうにかすることが対策のひとつになるかもしれないと考えられています。しかし、食料需要の世界的な増加、早魃が根本問題という意見、特に燃料作物栽培に利害を持つ人々の圧力は強く、米国の政策は変わりそうにもありません。

<http://www.nytimes.com/2008/04/15/business/worldbusiness/15food.html>

燃料作物が、石油価格の高騰と供給問題を解決する答えのひとつのように思われたこともあった。(すでに、過去形です)

- ヨーロッパ環境アドバイザー・パネルはEUに対し、2020年までの運輸用燃料の10%をバイオ燃料で賄う計画を中止するよう求めた。バイオ燃料への急速な方針が数々の波紋効果をもたらした原因であると結論付けたのである。
- 貧困国の政治リーダーから、バイオ燃料が食料価格の過酷なまでの高騰の唯一の要因と槍玉に挙げて、欧米の政治家に政策変更を迫り、世界外交上の新しい紛争の火種になっている。

米国の状況(犯人さがし)

- 米国の食料政策専門家は、コーンのような作物をバイオ燃料生産に転換したことが価格高騰に寄与していることに同意して、政府のバイオ燃料政策が間違いであると考えている。しかし、早魃や食料需要を押し上げた急激な世界経済の成長を含む他の要因が大きな原因と分析。
- ワシントンの食料政策研究所はバイオ燃料生産が世界の生活必需品価格高騰の1/4から1/3の責任があると指摘する。
- バイオ燃料批判は、間違っているのかもしれない。なぜなら、世界銀行や多くの政府の開発機構は、過去20年間農業開発支援をほとんどやってこなかったのが今回の問題の最大の問題だからだ。
- 海外の食料価格騒動の多くは、バイオ燃料として使われていない米と小麦だ。両作物に対しては、早魃が生産量を減少する同時期に世界需要が上昇した、それが原因だ。(米国エタノール推進派)

● アメリカの挑戦: 東から日は昇る



イラク侵攻前に、“唯一のグローバル・パワー、米国の地位は前例のないものだ。単に軍事だけではなく、経済は、日本、ドイツ、英国の合計とほぼ同じ、ダイナミックで人口構成も若い、そして世界のどこよりも文化的に柔軟である。世界の人々が悩むのは、米国により形作られ、支配される世界に住んでいることだ。”と書いたニューズウィーク国際版の編集長、ファリード・ザカリアが、今度は、世界の権力構造は分散化すると分析した新著“アメリカ後の世界”を発売。5年で何が変ったのか？ わずか2日半で317のコメントを招いた大反響記事。

<http://www.nytimes.com/2008/05/06/books/06kaku.html?ref=review>

本の概要紹介:

- 米国は今後も政治・軍事でスーパーパワーではあり続けるが、一極集中からすべて(産業、財務、教育、社会、文化)において、パワー配分がシフトする。中国とインドとそれ以外の市場の台頭、地球上全体に浸透する経済の成長が、権力の分散化と連結性を強める。それがアメリカ後の世界である。
- 他国の台頭は、米国のアイデアと活動(市場開放、政治の民主化、貿易と技術信奉、成功の秘訣の伝授)の結果である。しかし、分散しても米国は、科学、技術、産業の次世代革命の中で最前線に居続けると確信する。米国の経済問題は経済そのものでなく、政策にあるから、比較的容易に強い足元を取り戻すことができる。
- 外交の中心的戦略課題は中国。合法的な経済成長を支援しながら侵略と覇権をどう防ぐか。ある意味での冷戦になる。最大の人口を持ち、社会主義モデルとしても将来性のある活気あるマーケットを持つ相手に対して、これまで経験もなく、しかもほとんど準備がなされていない状況でどうチャレンジできるか、それが課題である。

NYタイムズ記者の指摘:

この本には奇妙なギャップと疑いのある断言がある。アメリカの教育とイラク戦争についての見方である。特に後者では、CIAや国務省のアル・カイダの同調者を拡大したという報告と正反対の意見で、オサマ・ビン・ラディンのモスラム社会での影響力は過去6年の間に確実に低下していると断言している。これらが、この本が提示する他の説得力ある論点や“他国の上昇と西欧の衰退”という今後の世界を見る折角の大事な視点を損なわせてしまうのではないか。

この記事の5日後の5月11日、ハーバード大学で共に学んだドイツの出版社の編集長ジョセフ・ジョッフ氏の書評が掲載されました。中国の脅威は本当だろうか、米国の優位は揺るがないのではないか、というものです。

<http://www.nytimes.com/2008/05/11/books/review/Joffe-t.html?ref=books>

- 米国にとっての問題は中国とザカリアは言う。問題は**経済規模**だというのが、中国の名目GDPは現在約3兆ドル。(300兆円、日本の約60%)。一方米国は14兆ドル(1400兆円、日本の約2.7倍)。中国が今後も7%の成長を続けるとして、10年後に倍になって、6兆ドル、さらに倍になって2028年には、12兆ドル。一方米国が3.5%の年成長率として、2028年のGDPは28兆ドル。こんな計算はむなし。2020年に中国が米国に追いつくという見通しなど空虚以外の何物でもない。
- **軍事力**は毛沢東の言ったように**経済力**だから問題ないだろう。ドルの低下、財政赤字、その他が本当に影響するか？
- ザカリアは、成長率や輸出超過で捉えられない米国の優位性を強調することによって論点を展開している。米国の高い教育レベルは最良の産業というのは正しい。世界人口の5%を取れば、世界のトップ50大学の42%または68%を占める(違いは誰が選定するかによる)。今はハードの時代でなくソフトの時代。頭脳が問題だからだ。コンピューター・サイエンスのphD取得者はインドでは年間35から50人だが、米国は1000人上っている。
- **年齢構成**について、中国、日本、ヨーロッパは老年層増加に向かっている。米国は若さを保てる。それは移民受け入れ政策があるからだ。スタンフォードでの最優秀者は韓国、中国、南米系の人たちだ。彼等のハングリー精神が次の時代を生む。
- **課題設定の能力**は今のところ米国しか持っていない。デフォルトのパワーで、他の国が恐れているからかもしれないが、世界の視野で他の誰が考えるというのか？ヨーロッパは裕福だが、大人しくて年老いている。復活ロシアは欲張りすぎる。中国は野心を隠しているが伝統的な修正主義者で全体よりも自分自身のために欲しがる。尊敬を望んでいるが、危機になれば情け容赦ない圧政になる。チベットで見るように。

ボンベイ生まれの移民ザカリアだから、中国の独特で、強い忍耐力を強く感じるのかもしれない、と結んでいます。

NYタイムズは、読者コメントに賛同者の数が示されます。125票を得たものが次です。次ページが、107票を得たものです。

バカな投票をしたから、バカを持ったということ。多分、米国人はバカみたいに統治されたことを内外に示している、しかし、世界の他の国が喜んでバカにリードされたいとは思わないだろう。

— TN, Friendswood, Texas

107票獲得

短期キャピタルゲインがすべてを物語る。個人は15年で想像を絶する富を獲得することができる。昔なら何世代も要した。米国は、特に短期ゲインに重点を置いてきた。企業構造はその手段だ。中の人を守り、強化するトロイの木馬だ。

富はエネルギーのようなものだ。作ったり壊したりできないが、形を変えることも移動も可能だ。百万長者が生まれるたびに、どこかにあらたな何千人もの貧者が生まれる。政府は、国内の富を配分するバルブだ、法律や規則を通じて。富の分配について沢山の理論があるが、たったひとつ確かなことがある。富は常に動く。富は、不自然なひとつの特徴を持つ。富は権力になる、そして腐敗するのが権力だ。短期ゲイン重視があるかぎり、権力の腐敗は避けられない。中東の君主国が機能するのは君主が短期ゲインを超えるところにいるからだ。しかし、富の分配不平等は、多くの“富を持たない者”の短期ゲインに対する欲望を増加する。富を持たない者は、権力、健康、標準的な生活レベル、選択の自由、将来の安全性、明日でも90年後でも、それらを持っていない。だから、心の平和を保てない。企業構造の面白いところは、それが民主主義でないことだ。永続メンバーシップのないトライブ(部族)だ。年配者による理事会があり、代表、副代表、服従しなければならない指示を受ける兵士、そしてさまざまな指示グループがある。権力とお金の蓄積が部族の真鍮の棒、車輪の形の岩、あるいは貝殻の彫刻の替わりだ。さらに、株主がいる。それは、金持ち階級で、どれかの部族に目をかける神の天使たちだ。米国は、ジャングルの法則に逆戻りしている。そこでは、もっとも適合する者だけが生存でき、神は人間(常にそうではなかったか?)だ。短期ゲインとすべての活動に利益を求める動機がある限り、われわれは絶滅に逆行する文明人(部族)だ、なぜなら選ばれた年上の部族長は、“借りがありません”(借入金による資金調達)をベースにした短期ゲイン以外の何のビジョンも持たないからだ。自然の気候に生きたインディアン、彼らは生存に影響する長期計画の必要性と限度を理解していた。われわれの選ばれたリーダーは、空調の効いたまゆの中に住み、想像外の富に頭が取りつかれて、無限の資源を使えると思いついでいる。現在の選ばれた年長者は、富が銀行からもたらされ、人々の手からもたらされると考えていない。銀行は、富の外見を大きく見せ、“借りがありません”を創りあげる。銀行はまじない師だ。1ドルが銀行を回りまわって、それが10、20、あるいは100ドルの“借りがありません”になる。アインシュタインが言ったように、“複利の魔術”だ。自信以上の何もないところから何かを創出することの出現だ。ペヨーテ(メスカリン幻覚剤含有植物)の奇跡、しかし持続性はない。サブプライム問題に関して銀行は、借金は結局のところ無視できないことを身に沁みているのではないか。皮肉だ。南北戦争後、銀行は借金の利用で米国の富を食い漁ってきたのだから。

— beaconps, Boyertown, PA



ザ・タイムズの記事は感動的な書き出しで始まります。しかし、チベット事件が西欧にどう映っているのか、若い人たちの遠慮ないコメントが続々と、そして反撃する中国人。ちょっと悲しくなります。

明け方8300メートルのキャンプを出立した聖火リレー隊の最後の苦しみ。頂上からちょっと離れたところで5人の最終登山走者チームは立ち止まり、背負ったバックから聖火を取り出した。チベット族のひとりが、39歳のチベット女性の持つ最初のトーチに火をつけた。時速65Kmの風速、時間6cmの降雨、マイナス40℃に耐えるように設計されたプロパンガスのトーチ。強い風と凍る寒さの中で闘う5人の世界最高峰におけるスロー・モーション聖火リレー。2番目の走者、46歳のベテラン登山家、ワン ヨンフェンは強い風で一インチも前に進めないように見えた。そして最終ランナーへ。チベット族の学生、チーム最年少の21歳。ツェリング ワグノ。9時16分、厳粛な面持ちで黙して頂上に立った。中国国旗、五輪旗、そして北京オリンピックのロゴが入った旗がはためく後ろのテレビカメラに向かって、仲間が“チベット万歳”、そして“北京万歳”と叫んだ。

<http://www.timesonline.co.uk/tol/sport/olympics/article3892047.ece?Submitted=true>

エベレストの頂上。抗議する人がいないたった一つの場所。

Nicholas Iles, Oswestry, Shropshire

中国人は別にして、このばかげたプロパガンダをやじる人はいますか？

Oonagh, Dublin,

カメラの见えないところに青いシェルスーツに身を包んだごついやつらが何人も聖火と一緒にジョギングしているのさ。

Mark, Woking, UK

<p>一体、何なのだ、これは？</p> <p>Mike, Nottingham, UK</p>
<p>悲しい？ダライの西洋奴隷たち？漢族と中国チベット人が幸せに調和して生きるのを見るのはがっかりでないのか！ハハハ・・・</p> <p>a civilian, Big apple,</p>
<p>“チベット万歳”そして、“中国万歳”。君たちを誇りに思うよ。</p> <p>Steve, London,</p>
<p>私たち中国人に聖火リレーを計画する権利がある。これは、世界に本当の中国を見せる舞台だ。多分、私たちに満足しないしな い人もいるのだろう。そういう人たちが耳にしていることは真実でないかもしれないということをおきたい。他の人を判断する なら、言ったことに責任を持つべきだ。</p> <p>Ye Yinyang, Jinhua, China</p>
<p>悲しいジョークの好きな人たちだ。400メートルでも山を駆け上って少しは血を巡らせろ。あなたたちは、このことで元氣付けられ ない年寄りのブルジョアか？皮肉だけの金持ちの退屈西欧野郎だ。ヨーロッパのどこかにオリンピックの好きな人はいないのか？ チベットを好きな中国を好きな人もいないのか？</p> <p>Simon O'Callaghan, London,</p>
<p>シンボルはシンボルだ。エベレストは世界の人が一度は耳にする有名な山だ。世界の誰もが上れ、すべての人の山だ。聖火が頂 上に到達しただけで、どの国の政治的野心を承認するものでない。騒ぐことなどない。</p> <p>Boris, Belgravia, London</p>
<p>悲しい。これは、もう既に輝きを失ったオリンピックという名をドロの中を引きずるようなものだ。この浅はかで結局何の価値もない ことに何百万ドルも使うなら何か別のことに使うほうがよっぽど良いと思わないか。オリンピック委員会は将来の聖火リレーを大げ さなものにしないようにすべきだ。</p> <p>Zugerman, zurich, switzerland</p>
<p>エベレストは8850メートルでなく、8848メートルとずっと思っていた。</p> <p>Peter, Umeå, La suede</p>

サー・ジョージ・エベレスト大佐が、アバガバーニーのウェールズ人ということは誰も知らないだろう。彼が、1856年に英国領インドですごい三角法測量をやった、それが世界最高峰の山を地図に記したのだ。彼はエベレストと呼ぶ代わりにチベット名を付けることを望んだのだ。

Colin, Cambridge, Wales

印象的ではあるが、ばかげた哀れみを誘う意味のないショーとも思う。実際のところ、これは大失敗だと思うと悲しい。中国はこれで友人を得られない、まるで不安な10代の子供が、自分たちのショーを喜んで見ているのを世界に見せたようなものだ。

Chris, Sydney, Australia

歴史は記憶する。人類のスピリットの勝利として、世界の多くが目を覆っている新しく壮大な多人種社会の到来として…

A Yu, Palo Alto, CA, USA

中国は何もする権利がないという西欧人の多くの典型的な反応だ。ここにあるシンボルが見えず、皮肉だけか？21世紀でも国と国の関係は、勝った、負けたでいうことに悲しみを覚える。どうしてウィン、ウィンにならないんだ。お互いに尊敬することを学ばなければそういう風にはならない。

Richard Tan, Melbourne, Australia

中国、よくやった。みんな一緒になって、全人類のためのオリンピックの理想を高く掲げた中国を称賛しようではないか。

Jane Silvestre, Singapore, Singapore

全部が嘘じゃないのか、マスメディアを締め出して、登山も禁止にしたから、ベースキャンプからちょっと離れたところで全部セットされたものかどうかわからないだろう。

Charlie, London, UK

最近の醜いシナリオの後の中国当局の善意と良い趣味のジェスチャーに感謝を捧げる。

David, Pemberton, Canada

Mark, Woking, UK へ、中国TVで登山を見た。山にいかつい中国兵など見なかったが…。"チベット万歳"という叫び声も聞かなかった。"2008オリンピック万歳"と"北京万歳"だけだ。勿論中国国旗と聖火があったのは勿論だ。

Lim, Johor Bahru, Malaysia

Charlie, London, UK へ、ひねくれるなよ。彼らはそこに居たし、私の魂もそこにいた。われわれはみんな叫んだ、“中国万歳、オリンピック万歳、北京万歳”って。実にすばらしかった。あらゆる人に、ひとつの世界、ひとつの夢。

Lim, Johor Bahru, Malaysia

Mike 　zugerman　Chris

‘価値なし’、‘ばかげている’、‘意味がない’

ホッホッ、言いたいことも思っていることも分かる。だけど、言わせてほしい。抗議、妨害、悪口雑言、破壊、車椅子の女の子を殴る以外の、価値あるもの、健全、意味のあるものとはどんなものだ？

Chen, Beijing, China

皮肉なコメントはもう聞き飽きました、ただしチャーリーには笑えました。昔のハリウッド映画にあった月面着陸の偽のシーンを思い出させてくれたから。タイム紙にもっと登山隊のことを報道して欲しい。準備やトレーニング、その他もろもろ、彼等に焦点をあてた。彼等はすばらしいことをやったと思います。

Hideo, Kawasaki, Japan

このページで東対西のすごい5セットテニス・マッチを待ちきれないよ。 誰か？

Howard, Manchester,

中国人として、祖国と2008年オリンピックが北京で開催されることを誇りに思います。聖火がエベレストの頂上に運ばれ、北京はもっともすばらしいホスト・シティになるでしょう。

Janet, ZJ, China

う～ん、中国(軍隊)は荷物をまとめて帰国するときだ。2008年エベレスト登山隊がついに登頂した。よかった、今度は中国軍隊は誰も撃たなかった。

Scott, Durham, NC, USA

エベレストの頂上に聖火が成功裏に運ばれたのには身震いしました。多くの西欧人は中国を誤解している。しかし、オリンピックは神聖なスポーツの饗宴で政治問題ではありません。ですから、オリンピックを公平に扱ってください。私たち中国人は、オリンピックを成功させる自信があります。

Catherine, Jinhua, China



タイムズの長野オリンピック聖火リレー記事(日本右翼チベット問題を反中国の武器に)は、私たち日本人には特別のことではないように思います。記事の要点は以下の4点です。しかし、この記事に対する反応は、私には驚くもので、日本人が中国を批判する権利など持っていないと中国人ばかりか西欧人からも多数寄せられました。

<http://www.timesonline.co.uk/tol/sport/olympics/article3818630.ece>

記事の要点:

- 最近、北京と東京の関係は、少し前に比べ、どこか温かいものになっているが、日本には依然として反中国の感情が脈々と流れている。それは、チベット問題や人権擁護とは本来無関係なものだ。
- 不気味な右翼の凱宣車ががなり立てる。“共産主義中国が長野の名誉を傷つけている。北京オリンピック粉砕。チベット人を殺害した国だから、平和の祭典を行う資格はない。中国から日本を守るために本当の軍隊を持たなければならない！”と支離滅裂なイデオロギーの結びつき、親チベットの大義が日本右翼民族主義者から強烈に支援された。
- 先月、チベットで起きた許しがたい暴力に対する措置として、僧侶たちは、リレーの始まると同時にチベットの暴力で亡くなった人たちの慰霊祭を計画していると善光寺がスタート時点になることを拒んだことから問題は始まった。
- 当局にとって、中国留学生2000人あまりが聖火リレー応援に集まるという予想されていたから全国から右翼が来るのは頭のいたいことであった。走者が警護隊に取り囲まれた聖火リレーに対する地元の人たちの反応冷ややかなものであった。

日本人からの投稿のないままに批判の嵐でしたので、日ごろ考えていることを正直に投稿しました。しかし、もっと若い日本人がどんどん投稿してくれたらよいのと思っていたところ、その後学生と思われる東京と埼玉の二人からの投稿がありました。嬉しく思いました。なお、このコメントを私のブログに紹介したところ、3日間で4100のアクセスがあり、反響に驚きました。そのうちのひとり、Daisuke 君のを読んだ時、涙が出そうになりました。これも、世界が日本を見ている部分ということ考えた方がよいと思い、今回の特集を企画した次第です。次ページ以後の投稿コメントは古いもの順です。

<p>中国がチベット人を殺したから平和の祭典を持つことができないというのはフェアじゃない。米国は？イラク人を殺しているだろう。日本が第二次世界大戦で一体何人殺したと思っているのか？</p> <p>Kai, Wellington New Zealand?</p>
<p>反中国の感情をヨーロッパ人みたいに直接出せば良いのに、チベットや人権を心配している振りをしちゃって。やるならもっと上手くやれば良いのに。それが日本だ、分かっていることだよ。どうってことない。</p> <p>iewgnem, Toronto Canada</p>
<p>人権侵害で日本人が中国人を非難するなんてあほらしい。一体何に抗議しているのだ？第二次世界大戦で膨大な数の中国人を残酷に殺しておきながら、忘れてるんじゃないか？教科書からその教訓が抜け落ちているのだろう。</p> <p>Mike, Chicago, USA</p>
<p>中国が人権侵害しているから平和祭典に値しないと。日本が値するのか？一体何人が日本人に殺された？未だに本当のことを言っていないだろう。恥知らずの日本人め。</p> <p>HHNaing, Yangon,</p>
<p>チベット人を殺した中国を批判する権利など、世界のどこよりも日本は持っていない。人のことを言う前に、歴史を見ろよ、日本帝国軍隊が中国やアジア全域でやった虐殺の酷さと較べてみろ。</p> <p>Lee, California</p>
<p>日本人って変じゃない？戦争以後、沖縄にアメリカが大きな基地を持ち、そして海兵隊員に日本人の若い女の子が暴行され、レイプまでされている。皮肉なことに、日本政府は米軍の費用を全部負担している。だから、“日本を自由に！”って叫んであげよう。</p> <p>Lily, Melbourne,</p>
<p>今でも日本に関心ある人などいるのか？千代に、八千代に…もうおしまいだぜ…話題変えようぜ。</p> <p>Paul smith, London, UK</p>
<p>日本人が歴史上、もっとも残酷な人権侵害を犯した。第二次大戦で、多数のアジア市民に対してレイプ、拷問、虐殺。今日まで、その残虐犯罪の罪を受けていない。日本人抗議者たちなど、怖いものを見ないように隠れていけば良いのだ。</p> <p>Yik Choo, Perth, Australia</p>

退役軍人に日本人と天皇をどう思っているか尋ねてみる。日本人の残虐さは女子供にも見境がない。シンガポールの病院のベッドの病人をほったらかしにしたのはそのひとつの例だ。最近、イギリスの女性観光客を殺したしな。

Francis, Halifax, UK

日本人は黙ってろみたいなコメントがあるけど、2、3言わせてもらおう。

A) 中国漢民族は、人類史上もつとも賢い人々ということを自分たちが思っている以上に認識してほしい。お世辞なんかじゃない。そうでなければ12億以上になどならない。

B) 今世界は、あなたたちの知恵とリーダーシップを必要としている。今後20年、30年に膨れ上がる90億の人々の住まいと食料をどうするかという地球温暖化対策のためだ。

C) そのために残された時間は多くないことを考えれば、どんな地政学上の紛争も単なる時間とお金の浪費だ。一番賢くて、人口も多く、他の国が従う影響力も大きいことから、漢民族中国が、世界で最初に、関与する紛争を今後40年から50年凍結すると宣言してほしい。地球がどうなっているか分かるまでの間だ。あなたたちが黄河から南下し始めた8700年前から見れば、50年なんて短いものだ。運良く我々が生き延びれば、そのときまだやりたければ続ければ良い。

D) この呼びかけは、中国に対するものだけでなく、すべての人々と政治指導者に対するものだ。

今すぐ決断して、あなたたちのすばらしいオリンピックを楽しませてほしい。

Hideo, Kawasaki, Japan

Hideo へ、

申し訳ないが、お前の行っていることは理解できない。日本は西欧の良き友人なのだから、中国の内政問題に干渉すると説得すれば良い。そうすれば、世界はもっと良くなる。

だけど、北京オリンピックを楽しもうというのには賛成。

Lim, Johor Bahru, Malaysia.

他の国が中国の排出ガスに心配しているのはありがたい。しかし、この20、30年間に労働集約で排出ガスをどんどん出す産業が中国に進出し、そのお陰で世界中が安い商品の恩恵を得たことを忘れてはならない。その恩恵を認めながら中国と強調して環境問題に対処しなければならない。

Zhongmin Luo, London, UK

<p>第二次世界大戦のときに中国に対する日本の薄気味悪い行動のひどい後遺症が未だにある。多分、オリンピックを、敬意を持ってみるのが二国間の和解と癒しになりうるのではないだろうか。オリンピックは、スポーツ精神とアテネ文明の民主精神で、政治のフットボールではない。</p> <p>Colin, Carmarthen, UK</p>
<p>普通の日本人学生はチベットの弾圧を懸念しているのであって、この問題に右翼は関与して欲しくないと思う。あそこ(長野)には、チベットに心から同情する私の年令の日本人が多数いました。</p> <p>Takashi, Tokyo, Japan</p>
<p>日本人が罪を犯したことは知っています。しかし、(今回のことで)中国政府を許すことはできません。私のおじいちゃんも戦争に行きました。中国人の生活習慣を話してくれたことを覚えています。おじいちゃんは虐殺に加わりませんでした。私はそう信じています。下手な英語ですみません。</p> <p>Daisuke Saitama, Japan</p>
<p>西欧は、アジアの二大巨人、インドと中国の間の衝突を期待しているのだ。日本と中国の間の対立を見たいのだ。この記事もそうだし、前のタイムズの記事にもそれがはっきり“反映”されている。弱い中国、分割された中国、そうなって欲しいのだ。アジアは平和のために団結しなければならない。</p> <p>Lim, Johor Bahru, Malaysia.</p>
<p>Limへ、 西欧が中国と日本の関係をどう思おうと、私がこの問題で中国で若い中国人男性(不思議なことに、年配者より以上の激しさなのだ)とディスカッションしたとき、中国は日本による占領に復讐すると考えているという感触を持った。それが、中国対日本の問題で、いつだって燃え上がる可能性がある。</p> <p>Colin Witt, Petersfield, Hants</p>
<p>Colin Witt へ、 日本と中国がいつか手を取り合う日がくるという意見だ。アジアは団結するし、西欧はアジアに干渉しなくなるだろう。国連はもっと大きな役割を果たす。これが私の将来世界のビジョンだ。すべてに平和を</p> <p>Lim, Johor Bahru Malaysia.</p>

オリンピック聖火の攻撃は文明と人類、平和と友好に対する攻撃です。オリンピックは西欧が創ったもので、平和と善意への愛を表現するイベントとして世界の人々に受け入れられてきたものです。

Joan, New York,

Colin へ、

チェン・ホー提督の時代の中国は協力であったが、同時に平和主義だった。世界の裏を掻いたが、平和的に通商した。今日の中国も同じだ。平和と調和の発展を望んでいる。誰にも脅威など与えない。なぜ西欧はほうっておけないのか？

皆に平和を

Lim, Johor Bahru, Malaysia.

Lim へ、

日本と中国が仲良くなるという意見だが、まず、徹底的にやりあってからのことだろう。西側はその対立に干渉などしない！それがアジア人だ。

Colin Witt, Petersfield, Hants

Takasi さんへ、

Takasi さん、中国はチベットへの外国人旅行を間もなく認めるだろうから行って見てごらん。弾圧があれば、それはチベット人暴徒の凶暴性によるものだということを。無法は許されない。

Lim, Johor Bahru, Malaysia.

Daisuke さんへ、

戦争に行ったおじいさんのこと。なぜか分かりますか、なぜ日本が中国を侵略し、日本の兵隊がいかに残虐だったか分かりますか？韓国、中国、東南アジアを旅行して確かめたらどうですか？過ちを行った自分の国が嫌になると思いますよ。

Lim, Johor Bahru, Malaysia.

<p>Colin へ、 西側は、中国を弱くしたいのは確かだ。中国とインドあるいは日本の間に衝突が起こるのを期待しているのだ。衝突があれば、満足するだろう。でも、今アジア人は利口になっている。対立は平和的な交渉で解決される。 アジアは結束する。 Lim, Johor Bahru, Malaysia.</p>
<p>Lim へ、 中国と日本について西側が何かを望む望まないは無関係だ。アジアの問題だし、根が深いから解決されない。西欧人は、1937年の南京事件で市民を守るのを助け、1945年には米国が日本を降伏させた。しかし、それでも中国は復讐したいのだろう。 Colin Witt, Petersfield, Hants</p>
<p>Lim へ、 きみが、自分が好きで大事に思うことだけに拘泥する救いようのない民族主義者ということが分かるよ。人生には、きみの想像力をもっと使えるはるかに楽しいことが沢山ある。外に出て、女の子に会うとか、水泳に行くとか、おもしろい小説を書くとかやってみろよ。こんなドマジなことじゃなく、面白いことをしろよ。もうあきあきだよ。 Boris, London, UK</p>
<p>Colin へ、 中国人が日本を怒っているのは、数え切れない人が殺された、特に南京大虐殺で30万人弱が殺された(ウィキペディアをチェックしなさい)からばかりでない。日本政府の態度だよ。中国人に公式に謝っていない、そして、今現在は隠そうとしているからだ。 Li, Glasgow, UK</p>
<p>Li へ、 日本は、中国に対して何度も何度も公式の謝罪をしているし、中国政府に対して十分な財務的償いもしている。中国国内、および海外に住む多くの中国人がそれを認めていない、あるいは知らないことは非常に興味深いことと思うが。 Mike, San Francisco, USA</p>

<p>みなさん</p> <p>私たちが共生するには、歴史と経済活動にちょっと異なる見方が必要だ。脳神経ダーウィン進化論と市場原理主義が鍵になる。これらにチャレンジしない限り、最終的な破滅以外にどこにも行けない。私は何とかできると信じているが。</p> <p>Hideo, Kawasaki, Japan</p>
<p>問題は、彼等(日本人)が教科書の歴史事実を曲げようとしていることだ。第二次世界大戦でやったことを悔いている多くの日本人がいることは認めるし、そうしていることに敬意を持っている。しかし、右翼が政府で活発なので、そのギャップは残るだろう。</p> <p>Li, Glasgow, UK</p>
<p>Hideo in Japan</p> <p>バス停留所にニューラル・ダーウィニズムが立っているとしてどんな具合に見えるのか？そんなやつ聞いたこともない。*</p> <p>Li, Glasgow, UK</p>
<p>日本人に対する率直なコメントは自分として感謝したい。やられた側がけっして忘れないのは分かるが、同時に全然責任がない若い Daisuke のような人が傷ついていることも覚えていてほしい。日本人の大多数は右翼が支配することを許さないとと思う。</p> <p>Hideo, Kawasaki, Japan</p>
<p>Mike, SF</p> <p>日本人リーダーは戦争犯罪人を奉ることを続け、日本の教科書で、残虐行為の歴史を否定し、隠そうとし、矮小しようとし、捻じ曲げようとしているのはずうずうしい。もし、ドイツが謝罪の後にナチの将軍に敬意を払ったらどうなる？言葉は一貫した行為によって裏打ちされなければならない。マイク、事実を見ろよ。</p> <p>Jay, Toronto,</p>
<p>Colin Witt, Petersfield, Hants said:</p> <p>“だけど中国は復讐したいのだろう”について、この前提には同意しない。中国は日本の侵略と侮辱の被害者だが、両国の関係改善に積極的な段階を踏んでいる。日本がもつときちんと受け止められるようにイメージの改善が必要なのだ。</p> <p>Lim, Johor Bahru, Malaysia.</p>
<p>* “獲物を取れる人だけが乗って、食い物になる人は、影に隠れて次のを待つのだ”と投稿したのですが、反映されませんでした。意味が分からなかったのだと思います。</p>

地球温暖化問題を学んだ記録

<http://p.booklog.jp/book/41998>

著者 : HideoJapan

著者プロフィール : <http://p.booklog.jp/users/hzwatanabe/profile>

感想はこちらのコメントへ

<http://p.booklog.jp/book/41998>

ブックログのpapier本棚へ入れる

<http://booklog.jp/puboo/book/41998>

電子書籍プラットフォーム : ブックログのpapier (<http://p.booklog.jp/>)

運営会社 : 株式会社paperboy&co.